

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

國際月報

(自昭和十八年四月一日
至昭和十八年四月末日)

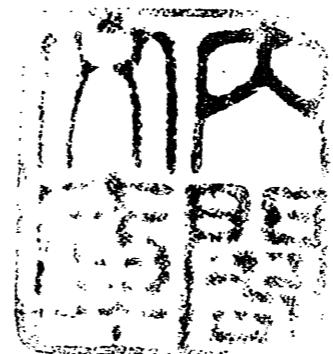
第二十九號

319
323

昭和十八年五月二十五日發行

情報局編輯

内閣文庫
一九五〇四号
和書 冊



國際月報 第二十九號 目次

319
323

- (1)—
- 滿洲國往訪に關する東條内閣總理大臣談
東條内閣總理大臣の滿洲國往訪に關する情報局發表
陳中華民國特派大使招待晩餐會に於ける東條内閣總理大臣挨拶
陳中華民國特派大使歡迎晩餐會に於ける谷外務大臣挨拶
青木大東亞大臣の南方諸地域視察出張に關する大東亞省發表
青木大東亞大臣の南方諸地域視察出張に關する情報局發表
青木大東亞大臣、ドクーフ印總督共同聲明
青木大東亞大臣、ビブン・タイ國總理大臣共同聲明
スキス國の在華特權放棄表明に關する情報局第三部長談
チリー在留邦人に關する外務當局談
米國政府の日本空襲事情發表に關する情報局第三部長談
敵性國在留邦人在本邦困窮家族の救濟に關する外務當局談
帝國陸軍航空部隊の東部印度方面戰果に關する大本營發表
一五

國學

帝國陸軍航空部隊の東部印度及ビルマ方面戰果に關する大本營發表	一六
帝國陸軍航空部隊のルツセル島方面戰果に關する大本營發表	一七
帝國陸軍航空部隊の東部印度攻擊戰果に關する大本營發表	一八
帝國海軍航空部隊のフローリダ島方面戰果に關する大本營發表	一九
帝國陸軍部隊のベンガル灣岸インデン附近戰果に關する大本營發表	一九
帝國陸軍航空部隊の印緬國境アキヤブ北方地區に於ける英印軍擊滅戰果に關する大本營發表	一九
帝國陸軍航空部隊の印緬國境附近竝に東部印度方面戰果に關する大本營發表	一九
帝國陸軍部隊の西北部印緬國境竝に雲南省境方面戰果に關する大本營發表	一九
帝國海軍航空部隊のニューギニヤ方面戰果に關する大本營發表	一九
帝國陸軍部隊のアキヤブ北方地區戰果に關する大本營發表	一九
帝國海軍航空部隊のニューギニヤ方面戰果に關する大本營發表	一九
米國飛行機の我が本土空襲の真相に關する谷萩陸軍報道部長談	二一
帝國海軍航空部隊のエリス諸島竝にソロモン群島方面戰果に關する大本營發表	二一
カチン森虐殺事件とソ波斷交	二一

各國動向

米英ソ勢力圏内主要原油生産地竝に生産量一覧表	四五
米國戰爭指導機構の内幕	四六
米國最近の對中南米工作	四七
各國動向	四八
空爆のみでは效果薄弱	四九
——米誌アリューシヤン戰況を悲觀——	五〇
在重慶米軍首腦部華府到着	五一
米伯西三國代表會見	五二
四月上旬のチニシア戰況	五三
スチムソン北阿米軍の不振を辯明	五四
陸軍當局はマツクアーサー支援言明	五六
大平洋作戰海軍とマツクアーサー對立	五七
帝國海軍航空部隊連續強襲に輿論衝動	五八
英領フナフチ島に米海軍進駐	五九
軍事	六〇
六一	六一
六二	六二
六三	六三

チニシア制空権を獲得	六三
マツクネア地上部隊司令官負傷	六四
北阿反樞輪空軍副司令官任命	六四
七艦隊存在とノツクス聲明	六四
——海軍代將の位階も復活——	六四
停年海軍將官氏名	六五
ラガーディアの陸軍代將任命案立消え	六五
新鋭主力艦の南太平洋參戰を發表	六五
護送用新型空母大量建造	六六
巡洋艦シカゴの代艦進水	六六
巡洋艦キャンベラ進水	六六
上陸用舟艇の種類及性能	六六
海軍艦艇英國の貯蔵石油を使用	六七
海軍士官短期速成	六七
陸海軍の服制一部變更	六七
本年度海軍徵集兵の一割五分は黒人	六八

開戦以來の兵力損害發表	六八
日本本土空襲公報發表	六八
日本空襲米機塔乘者處斷に抗議	六九
ルーズベルト大統領聲明要旨	六九
ルーズベルト大統領訪墨	六九
ルーズベルト對墨放送要旨	六九
米墨經濟協定成立	七〇
ウオーレス副大統領旅程	七〇
ウオーレス副大統領歸國	七〇
ハル國務長官米洲連帶強化を力説	七一

「米洲諸國の結合こそ力の源泉」	七一
——ウエルズ國務次官汎米デイ演説——	七一
農牧業獎勵に關する米ボ協定締結	七二
キューバと砂糖協定締結	七三
チリ硝石六十萬噸輸入	七三
パナマに對し權益一部を移譲	七三
佛領マ島との交渉は海軍に移管	七三
——ハル長官ロベル總督を威嚇——	七三
銀塊二百萬オンス對英讓渡	七四
米イ通商協定締結	七四
サウヂ・アラビアに武器貸與法適用	七四
對北阿武器貸與狀況	七四
反樞輪避難民會議無成果	七五
反樞輪國食糧會議議題決定	七五
國際通貨米國案內容	七五
——モーゲンソーア財務長官提案——	七六

一般	一
ルーズベルト又も自由擁護論放送	七七
五惠通商法更新案下院歲入委員會通過	七七
農村軍三百五十萬動員豫算成立	七八
モーゲンソーア財務長官提案	七八
戰時情報局員十五名辭職	八一
農務省食糧消費節約を要望	八一
卸賣物價指數	八一
青少年犯罪激増	八一
マッコーミックの英帝國分割論	八一

—(6)—

- 残存失業者百萬人 八二
ルイス戦時労働局の調停を正式拒否 八二
ルーズベルト大統領罷業中止を勧告 八三
ルーズベルトの勧告をルイス拒絶 八三

- 近東水域艦隊司令官辭任 八六
最大の潜水艦母艦沈没 八六
新型巡洋艦性能 八六
モスキート爆撃機性能 八六

【英 國】

——軍 事——

アレキサンダー大將第十八軍團編成

- チュニジア前線の統合指揮に當る 八三
チュニジア戦線總攻擊再開 八三
第八軍アンフィダヴィルに肉迫 八三
第一軍チュニスに接近 八四
チュニジア戦線英軍構成 八四
北阿戰域到着の反軸輪船舶一千萬噸 八四
キプロス島立入禁止令 八四
中東軍司令官土國首腦部と會見 八四
空軍人事異動 八五

- イーデン外相訪米使命を下院に報告 八七
イーデン亡命政權外相會議を招集 八八
ヒューゲッセン駐士大使歸任 八八
ケーシー西亞常駐相暗躍 八八
食糧會議首席代表にロー外務次官任命さる 八八
マーテル軍事使節スターインと會見 八九
對ソ非軍需物資供給額五千萬磅 八九
國際通貨英國案内容 八九
——ケーンズ大藏省顧問提案 九〇

——外 交——

—(7)—

【ドイツ】

- 獨伊首腦部會談發表 九八
獨伊首腦部會談に關する論調 九九

- 明年度歲出五十七億五千萬磅 九一
新豫算は間接稅增徵を主眼 九一
ウツド藏相戰費支出情況報告 九二
英蘭銀行保證發行限度引上げ 九三
十磅以上の英蘭銀行券發行停止 九四
プラッケン情報相BBC放送の效果誇稱 九五
クリップス飛行機生產實狀說明 九五
三月中の空襲被害 九六
開戰以來交通事故増大 九六
コンノート公逝去 九七
愛蘭共和軍反英示威 九七

- 米軍撤退要求に群衆喝采 九七
對土通商協定成立 一〇四
外交異動並に新次官經歴 一〇四
駐西大使赴任 一〇六
和平斡旋に對する外務省聲明 一〇四
總統の誕辰慶祝布告 一〇六
カチン森虐殺事件公表 一〇四
クロージツク藏相フインラント訪問 一〇四
ヒトラー總統ガリボルヂ伊軍司令長官を敍勳 一〇三
カチン森虐殺事件公表 一〇四
ゲツベルス宣傳相開戰以來の經過回顧 一〇八

【イタリア】

- | | |
|----------------------|-----|
| 獨伊首腦部會談公表 | 一一〇 |
| 地中海諸島を戰闘地域に指定 | 一一一 |
| 海軍首腦部更迭 | 一一一 |
| 組合相更迭 | 一一一 |
| ファシスト黨書記長更迭 | 一一一 |
| ファシスト黨新副書記長 | 一二二 |
| 新財政年度歲入内譯 | 一二二 |
| 新增稅發表 | 一三三 |
| 革靴販賣禁止 | 一四四 |
| 伊誌掲載のニューヨーク爆撃論 | 一四四 |
| 對スロヴァキア新通商協定成立 | 一四四 |
| 赤軍參謀總長更迭 | 一五五 |
| ブジヨンヌイ元帥にレーニン章授與 | 一五五 |
| 對波國交斷絕 | 一五六 |
| リトヴィノフ駐米大使歸國 | 一五六 |
| マイスキ駐英大使歸國 | 一五六 |
| 駐希及駐白公使、大使に昇格 | 一五六 |
| 反樞軸食糧會議代表出發 | 一五六 |
| 本年度家畜增產決定 | 一七七 |
| 全鐵道に戒嚴令公布 | 一七七 |
| 赤軍兵士訓練と軍需生產增加とを強調 | 一七八 |
| ——メーデー・スローガン五十三項發表—— | 一八八 |

赤軍參謀總長更迭

一祖國救濟は諸君の掌中にある

一祖國救濟

- | | |
|---------------|-----|
| 冬季反攻總結發表 | 一一五 |
| 獨ソ戰線小康 | 一一一 |
| ペタン元帥第八十七回誕生日 | 一一一 |

[REDACTED]

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------|-----|
| 叛逆分子を国外追放 | 一一一 | 形 廉新任兩大臣特任式 | 一一六 |
| ソ聯人及び赤系スペイン人逮捕 | 一一三 | 滿洲軍呼稱を帝軍に統一 | 一一七 |
| 農業收穫全部を政府に供出 | 一一三 | 司法部機構改革 | 一一七 |
| ミルラン元大統領逝去 | 一一三 | 國民手帳實施決定 | 一二七 |
| ジロー北阿佛軍總數は四十萬と言明 | 一一三 | 入溝華北勞工八十二萬 | 一二八 |
| フランス再建に關する覺書 | 一一一 | | |
| ——ジローよりド・ゴールに提示—— | 一二四 | | |
| 陳特派大使一行入京 | 一一八 | | |

滿洲
五

- | | |
|----------------|-----|
| 東條首相滿洲訪問 | 一一五 |
| 皇帝陛下東條首相に賜宴 | 一一五 |
| 東條首相歓迎晩餐會に於ける | |
| 張國務總理大臣挨拶 | 一一五 |
| 陳特派大使一行歸國 | 一一一 |
| 周特使訪滿 | 一一一 |
| 鮑文樾上將總參謀長に任命さる | 一一一 |
| 「重慶將兵に告ぐ」 | 一一一 |
| ——鮑國府總參謀長通電 | 一一一 |
| 皇帝陛下關東軍司令官邸に御臨 | 一一六 |

- 國府中央政治委員會新委員 一三一
 徐良駐日大使政府委員に任命 一三二
 政務參贊増員 一三三
 經濟委員に鄒泉蓀 一三四
 上海買占め事件真相公表 一三五
 東條内閣改造に關する論調 一三六
 谷新大使任命に關する論調 一三七
 【重慶政權】 一三八
 三民主義青年團第一次全國代表大會閉會 一三九
 三民主義大會閉會式蔣介石訓示 一三七
 蔣介石兵士の行狀を監視 一三七
 在支米空軍と重慶側飛行士不和 一三八
 宋子文訪加 一三九
 「民衆の米英信賴減退を恐る」 一三九
 ——重慶海外放送米英牽制に躍起 一三九
 河南省の飢餓罹災者五百萬人 一三九
 青木大東亞相タイ國訪問 一四一
 ビブン首相訓示 一四三
 パンナワヴィチット少將海軍部長專任 一四三
 ドクー總督労働者を激勵 一四一
【タ 1】
 蔣介石工業立國を力説 一四〇
 重慶市民の疏散實施 一四〇
 蔣介石工業立國を力説 一四一
 安南王、青木大東亞相に勳章贈與 一四一
 日本文化會館設立 一四一
 夏季勤務時間繰上げ 一四一
 印度支那經濟審議會初總會 一四一
 ドクー總督労働者を激勵 一四一
【タ 1】
 青木大東亞相タイ國訪問 一四一
 パーモ長官戰時下日本の餘裕を嘆賞 一四六
 バーモ艦自演說要旨 一四七
 對外放送擴充 一四八
【印 度】
 フランシスコ少將を巡警局長に起用 一四五
 行政府に公益局設置 一四五
 北部ルソン新鐵路線起工式 一四五
 北部ルソンに二通信局開設 一四五
 南發貨出預金利率改正 一四五
 銀行預金利上げ斷行 一四五
 第二回敵性銀行預金拂戻し 一四五
 生椰子出荷組合創立 一四五
 バーモ政府長官一行歸還 一四六

- 【比 島】**
 テワデ少將空軍最高指揮官專任 一四三
 駐日商務官任命 一四三
 衣服材料賣賣許可制採用 一四三
【印 度】
 アラカン作戰損害一部發表 一四九
 ベンガル州首相にナジムデン任命 一四九
 總督國防法第二十六條を否定 一四九
 反英抗爭の現狀 一五〇
 ジンナー對英强硬意見發表 一五一
 食糧事情近況 一五一
 「紙幣濫發による惡性インフレ傾向顯著」 一五一
 ——印度經濟學者十名の共同聲明 一五一
 印度人口調查 一五一
 回教聯盟南阿政廳に強硬抗議 一五三
 印度政廳對南阿抗議聲明發表 一五三

ジョーンズ國防相空軍増援力説 一五八

【濠洲】

- ニューギニア戦線兵力損害發表 一五四
- 沿岸地區に燈火管制實施 一五四
- 徵兵年齢十八歳に引下げ 一五四
- カーチン首相對英不滿吐露 一五四
- エヴァット外相滯米動靜 一五五
- エヴァット外相日本の脅威力說 一五六
- エヴァット外相對米放送要旨 一五六
- 駐米公使歸國 一五七
- 物價停止令公布 一五七
- クリーム販賣禁止 一五七
- カーチン首相個人的資源動員狀況說明 一五七

【南阿聯邦】

- 印度人土地禁止法案通過 一五九
- 印度人會代表嚴重抗議 一五九
- 議會閉會 一五九
- 現有兵力七十萬以上 一五九
- 海軍艦艇總數五百隻 一六〇
- 空軍アリューシャン方面に協力 一六〇
- 海外派遣空軍維持協定調印 一六〇
- 駐重慶初代公使着任 一六〇
- 肉類不足の原因は英本國への大軍供給 一六一
- 各種金屬十二鑛山を接收 一六一
- フォード系飛行機工場罷業 一六一

【ニュージーランド】

- 太平洋軍事基地對米供與に關し 一五八
- ナツシユ駐米公使言明 一五八

【アルゼンチン】

- チエツコ亡命政權を承認 一六七
- 上下兩院議長選舉 一六一
- モレーノ知事辭職 一六一
- 一九四二年貿易不振 一六二
- 三月中貿易狀況 一六二
- 第一、四半期貿易減退 一六二
- 農產物輸出可能量 一六三
- 小麥の輸出價格引上げ 一六三
- 農業者救濟融資累計十億ペソ 一六三
- 工業增產顯著 一六四
- 生活必需品物價指數 一六五
- 物價漸次騰貴 一六五
- 支拂資金膨脹 一六五

【チリ】

- (13)——
- 北米派遣陸軍軍事使節歸國 一六七
- 在留権輜國人商業收用令公布 一六九

【ペルー】

- ゴメス軍事使節歸國 一六八
- 重慶公使館を昇格 一六八
- 食糧不足增大 一六八

—(14)—

【ボリヴィア】

- 内閣一部改造 一六九
 政府對樺輶宣戰問題審議 一六九
 對樺輶宣戰布告 一七〇
 エリオ外相聲明 一七〇
 イチヤソ參謀總長聲明 一七一
 モリニゴ大統領ブラジル訪問 一七一
 莊丁召集 一七二
 【ウルグアイ】 一七二
 駐重慶初代公使着任 一七四

—(15)—

【クロハビア】

- ヴェネズエラとの國境劃定交渉妥結 一七一
 駐ソ初代公使任命 一七一
 カマチヨ大統領ルーズベルトを答訪 一七一
 對米輸出入實情 一七一
 生活指數昂騰 一七一
 カマチヨ大統領國民の不滿懲撫 一七三
 メキシコの物資不足激化 一七三
 カマチヨ大統領漸次右傾 一七四
 駐重慶初代公使着任 一七四

【バラグアイ】

- 農相更迭 一七一
 内閣一部改造 一七四

【キューバ】

- 農相更迭 一七一
 内閣一部改造 一七四

【スペイン】

- ホルダナ外相外交政策開明 一七四
 陸軍異動 一七五
 政府國防態勢を強化 一七五
 人口二千六百萬 一七五
 駐英大使歸國 一七六
 キスリング首相獨總統訪問 一七八
 米國の食糧會議招請に對し出席拒否 一七八

【ノールウェー】

- 首相演説に關する論調 一七七
 強制労働動員 一七九

【アイル】

- 米國の食糧會議招請に對し出席拒否 一七九

【ホルトガル】

- サラザール首相演説要旨 一七六
 軍事使節團訪米 一七七
 西阿葡領總督南阿訪問 一七七
 テオタニア駐西公使歸任 一七七
 ハンソン首相中立堅持を表明 一七七
 對芬新通商協定締結 一七九

【ハンガリ】

軍事使節カイロ訪問 一八一
空軍將校カイロへ出發 一八二

ホルティ攝政訪獨 一八〇
カライ首相訪伊 一八〇

共産黨の大量裁判 一八〇
王族ダウード公権輜陣營に參加 一八〇

エジプト鐵道を敷設 一八一
食糧不足激化 一八一

食糧暴動再發 一八二

運輸機關を徵用 一八二

軍事施設を英軍が占領 一八二

對米通商條約締結 一八三

【イラン】
軍事使節カイロ訪問 一八一
空軍將校カイロへ出發 一八二

軍事施設を英軍が占領 一八二

運輸機關を徵用 一八二

對米通商條約締結 一八三

軍事施設を英軍が占領 一八二

運輸機關を徵用 一八二

對米通商條約締結 一八三

全土に戒嚴令施行 一八一

【シリア】

對芬通商協定調印 一八一

【トルコ】

滿洲國往訪に關する東條内閣總理大臣談

——於 福岡——

昭和十八年四月四日

私はかね／＼満洲國を訪問し、皇帝陛下の御機嫌を奉伺し、同國の過去十年間ににおける飛躍的發展を祝福し、且つ今次の大東亞戰爭以來同國が寄せられつゝある絶大なる協力に對し謝意を表するとともに、親しく満洲國政府首腦部と懇談し、併せて現地諸機關の狀況を視察し、その勞を犒ひたいと熱望してゐたが、念願を果すことができたことは誠に欣快とするところである。今般特に満洲國、皇帝陛下に接見仰せつけられ、有難き御言葉を賜はり、かつ建國神廟に參拜をいたすことができたことは無上の光榮に存ずる次第である。

満洲國は建國當初より日滿一德一心不可分の國防國家として生れたのであるが、その政治、經濟、交通、文化などあらゆる方面十年間の躍進は實に世界の驚異であり、比類を見ないのである。帝國が米英を相手に決然鋒を執つて起つや、骨肉の國満洲國はいよ／＼その總力を結集して帝國に協力するの決意を新にし、爾來北邊の護りをいやが上にも安泰にするとともに、生產力を劃期的に飛躍せしめて帝國の戰争遂行に直接大いに貢獻いたしてゐるのである。すなはち満洲國は日滿共同防衛の本義に則り、各種施策を擧げて防備の強化にこれ努むとともに、同國軍は日夜訓練と警備とに必死の努力をいたしてゐるのである。また近年の物資動員に關しては鐵、銅その他の礦物資源につき割期

的協力を寄せられ、また食糧についても莫大なる量を帝國および中華民國へ供出しつゝある状況である。

私はこれらの實相に觸れ、大東亞戰爭の遂行途上において滿洲國の帝國に對する寄與の如何に大なるかに感銘特に深きものがあつた。また北邊鎮護の重任を擔當する關東軍をはじめ現地日本側機關は克く困苦と鬪ひ、日夜訓練警備を怠らず、かつ滿洲國側と眞に相協力し、共同の目的達成に邁進しつゝあるは誠に感謝に堪へざるとともに、大いに意を強うる次第である。私はさきに中華民國を訪問して、同國が帝國とあくまで同生共死、逞しき新中國の建設と大東亞戰爭完遂協力とに挺身せんとするの決意固く、諸般の施策着々としてその緒につきつゝある現状を自擧し、また滿洲國訪問直前、バーモ長官と會談して、ビルマ創建の熱烈なる氣魄と大東亞戰爭完遂協力に關する真摯なる意氣とに接し、今まで骨肉の國滿洲國の隆々たる發展と日滿一體強化の固き決意とに觸れることができたのである。

今や 御稟威のもと大東亞十億民族の偉大なる力は正に結集せられつゝあるのである。こゝに私は國民諸君とともにいよ／＼必勝必成の確信をもつて、あくまでも大東亞戰爭の完遂に一意邁進し、もつて 聖慮を安んじ奉るの決意を新にする次第である。

東條内閣總理大臣の滿洲國往訪に關する 情報局發表

4300

昭和十八年四月四日

滿洲國訪問中の東條内閣總理大臣兼陸軍大臣は豫定の日程を終り、本四日午後四時福岡へ歸着せり

4301

陳中華民國特派大使招待晚餐會に於ける 東條内閣總理大臣挨拶

一言御挨拶申上げます。

本夕は、中華民國訪日特使陳公博閣下の御來朝を歓迎致しまする爲粗宴を設けましたる處、御一行及來賓の閣下各位の御來臨を得ましたることは、私の沟に仕合せと/orするところであります。

顧みまするに、國民政府は還都以來僅か三年を経たるに過ぎませぬが、其の間遂げられたる發展は眞に目覺しきものがあるのであります。

而して本年に入りまするや、一月九日驟然起つて米英に宣戰し、東亞多年の禍根たる米英を擊摧し、萬邦共榮の榮戰ひ抜くこととなつたのであります。

私は、先般短期間ではありましたが、中華民國を訪問する機會を得まして、同國が希望に満ちて建設に從事しつゝある逞しき姿を目のあたり拜見し、感慨甚だ深きものがあつたのであります。斯くの如き中華民國の急速なる躍進は、偏へに汪主席閣下並に陳公博閣下を始め、汪主席閣下の輔佐に當られる方々の日夜を分たさる御努力の賜物であ

—(3)—

りまして、私は茲に深く敬意を表するものであります。

帝國政府は、申す迄もなく中華民國の健全なる發展を衷心より冀念するものであります。是が實現の爲には總ゆる援助を惜しまぬものであります。現に此の目的の爲第二回遷都記念日を期し、帝國の八專管居留地を返還すると共に、北京公使館區域及廈門共同租界の行政權の回収を認め、以て中華民國の國民的要望たる不平等條約撤廢の第一步を踏出すことが出来る様御援助致した次第であります。而して他の關係諸國も、相次いで帝國今次の措置に同調し、茲に中華民國百年の痛たりし諸問題も着々解決せられつつあるのであります。而して帝國は今後も亦各方面に互と推察せられ、帝國と致しましては、衷心より慶祝の意を表する次第であります。而して帝國は今後も亦各方面に亘つて愈々全幅の御協力を致さんとして居るのであります。中華民國の各位に於かれましては、此の世界的大轉換期に對處し、此の上共大東亞新秩序確立の爲、帝國と一心同體、速に進ましき新中國の發展を具現せらるると共に、新東亞の建設に偉大なる貢獻を致されむことを冀念して已まぬ次第であります。

今般陳訪日特使閣下の御來訪は、既に緊密なる日華兩國關係を一層緊密ならしむるものであります。其の結果は、大東亞戰爭完遂に裨益する所又甚だ大なるものあることを確信するものであります。

陳閣下に於かれましては無事使命を果たされ、御歸國の上は宜しく帝國と力を併せ、日華兩國相携へて、米英擊摧東亞開放の共同目的達成の爲、此の上共二層の御盡力を御願ひ致す次第であります。

茲に杯を擧げて中華民國の今後の發展を祈念し、陳訪日特使閣下の御健康を祝したいと存じます。

4302

4303

陳中華民國特派大使歡迎晚餐會に於ける 谷外務大臣挨拶

昭和十八年四月八日

本夕茲に中華民國國民政府特派使節陳閣下並御一行各位の御光來を得まして、親しく御挨拶を申述べるの機會を得ましたことは、青木大東亞大臣と共に私の最も欣快とする所であります。

抑々日華兩國が東亞延いては世界の平和と安定の爲相計り相助けゆくべきは、兩民族に課せられたる本來の重大使命でありますことは今更申上ぐる迄もありません。

汪主席閣下並に陳閣下始め日華兩國の右使命に醒められた要國の諸士が決然和平建國の爲蹶起せられてより既に四年有半を経過し、南京還都よりも既に三年を経ました。今や貴國の更生日に成り、日華の提携月に進み、眞に慶賀の至りであります。

顧みますれば、此四年有餘の期間は、日華兩國のみならず東亞全體にとり、更に世界にとつても、眞に多事多端な時代であります。日華兩國は此の難局に處して幸ひ事を過たず、國民政府の基礎は日を逐ひて定まり、日華兩國の關係は、同甘同苦より本年初頭の中國の參戰に依りて更に同生共死の密接不可分の關係へ進展するを得たのであります。之は日華關係の本然の姿であり、同時に大東亞新秩序建設の不可缺の要件でもあります。此の要件は今日完全に充足せられ、今や日華兩國に残されたるは、此の同生共死の血盟關係を今後如何にして擴充し發揮せしむべきか

—(5)—

—(4)—

青木大東亞大臣は南支及び南方諸地域視察の爲出張仰付けられ四月十六日出發せり
中華民國並南方諸地域へ出張被仰付
大東亞大臣青木一男中華民國並南方諸地域へ出張不在中、内閣總理大臣東條英機へ臨時大東亞大臣事務管理仰付け
られたり

青木大東亞大臣、ドクー佛印總督共同聲明

—於ハノイ—

昭和十八年四月二十日

大東亞大臣 青木 一男

青木大東亞大臣の南方諸地域視察出張に關する
情報局發表

青木大東亞大臣は南支及び南方諸地域視察の爲出張仰付けられ四月十六日出發せり

昭和十八年四月十六日

の點のみとなつたのであります。最近に於ける帝國の租界返還其他の處置が茲に由來するものなるは申す迄もなく、
同時に帝國が貴國政府に期待する所のもの亦此處に存するに外ならないのであります。此の秋に當り、和平運動の初期より常に指導的地位にあり國事に盡瘁せられて來られました陳閣下の御來朝は、我國朝野の衷心より歡迎申上ぐる所であります。此機會に互に胸襟を開いて種々の問題に付腹藏なき意見を交換し、以て大東亞戰爭共同完遂に貢獻し得ますれば、之實に日華兩國のみならず大東亞全體の幸福たるを確信して疑はない次第であります。

茲に、杯を擧げて陳閣下の御健康と中華民國の隆昌を祝福したいと存じます。

青木大東亞大臣の南方諸地域視察出張に關する
大東亞省發表

同時に帝國が貴國政府に期待する所のもの亦此處に存するに外ならないのであります。此の秋に當り、和平運動の初期より常に指導的地位にあり國事に盡瘁せられて來られました陳閣下の御來朝は、我國朝野の衷心より歡迎申上ぐる所であります。此機會に互に胸襟を開いて種々の問題に付腹藏なき意見を交換し、以て大東亞戰爭共同完遂に貢獻し得ますれば、之實に日華兩國のみならず大東亞全體の幸福たるを確信して疑はない次第であります。

茲に、杯を擧げて陳閣下の御健康と中華民國の隆昌を祝福したいと存じます。

昭和十八年四月二十五日

—於バンコック—

青木大東亞大臣は四月二十二日以來盤谷に於てビブン總理大臣並にヴィヂット外務大臣と數次會談し、世界全般の情勢を検討したる結果、決戦に對する必勝の信念と共同の運命に立つ兩國の結束を再確認し、戰爭完遂及大東亞建設の爲共同に執るべき方途に付完全なる意見の一一致を見たり

スキス國の在華特權放棄表明に關する

堀情報局第三部長談話

昭和十八年四月九日

義に帝國在支租界還付及び治外法權撤廢に關する日華協定締結せらるゝや、伊佛兩國は率先帝國に同調し、各々その在支特權放棄の意向を表明したのであるが、スキス等中立國の本件に關する態度如何は内外の注目を引いてゐたところ、今般阪本公使よりの報告によれば、スキス聯邦政府は今般聯邦議會に於ける一議員の質問に答へ、同國もまた不平等特權回収に對する中國民の熱望に應じその在支特權を放棄するの用意ある旨の意向を表明すると共に、その實行も近き將來にあるべき旨表明した由である。右スキスの態度表明は他の關係國にも當然影響を及ぼすべく、帝國としては爾餘の諸國が一日も速かに同調し、在支不平等特權の完全なる解消を見んことを切望する次第である。

チリー在留邦人に關する外務當局談

4307

昭和十八年四月十五日

四月六日チリー首府サンチャゴ市を中心として南北約千二百キロに亘り一九三九年以來の大地震あり、被害甚大なりしころ、外務大臣より直ちにスエーデン政府を通じチリーにおける山形公使、陸海軍武官以下公使館員並に在留邦人一同に對し安否を尋ね、見舞電報を發したるところ、今般山形公使よりスエーデン政府を通じ山形公使以下公使館員並に在留邦人は一名の負傷者もなく一無事なる旨及び外務大臣の見舞電を深謝する旨回電ありたり

米國政府の日本空襲事情發表に關する

堀情報局第三部長談

昭和十八年四月二十三日

過般米國戰時情報局長エルマー・デーヴィスが、日本空襲一周年に當つて米國陸軍省は同空襲に關する詳細を發表すると言明した直後、同陸軍省は慌てて右發表を見合せ、單に所謂「シヤングリラ」の正體を發表するに止まつたので、詳報を待望して居た米國民衆は何等の得る所なく失望を喫した。

然るに帝國陸軍報道部長谷秋那華雄少將が右空襲に關し詳細事實を暴露するや、米國陸軍當局は遽に心境の變化を來し、周章狼狽の裡に半日後れて其の祕藏の「祕密」なるものを發表したのであるが、此の發表たるや一言一句我方發

表の正確さを裏書するに至つたのみである。例へば、空襲參加の人員、前記人員銃衝の方法、使用機の數及型、訓練の状況、「シャングリラ」の正體及位置、航空母艦上の訓練、夜間爆撃より晝間爆撃への計畫變更の必要及一機を除き全機の破壊等……此等の事實は我方發表と全く符節を合せてゐるのである。

右發表に當つて、米國當局は出し後れた辯解として、所謂「祕密」の重要性を勿體振つて曰く「此の祕密を保持して居る限り日本側は種々な可能性に對する防衛措置を講ぜざるを得なかつた。即ち飛行機が支那から飛んで來たのか又は航空母艦からか果ては太平洋上の飛行的島嶼から飛んで來たものか確實に判定し得ず、又何時同様空襲されるか分らなかつたので、日本側は競々たる數ヶ月を過し、其の兵力の一部を針付けにせざるを得なかつた」と。

然し、敵に取つてはお氣の毒乍ら、日本當局は前記空襲に關する一切の事情を全部承知してゐたことは、谷萩少將の發表と之に續く米國側の發表とに依つて明白である。

右の事實は誠に氣の毒な皮肉であつて、抑々軍事上の祕密とか乃至は敵側を利する事實を隠蔽する方針とか云ふ名目の下に何も知らされなかつたのは、實に平常言論報道の自由を最も重要視し主張して居る米國民のみであつたからだ。割合に慎重な紐育「タイムス」紙すらも遂に業を煮やして米國陸軍省の發表直前に左の如く社説で述べて居る。

「日本政府は恐らく東京空襲の詳細に就て米國民が知らされてゐるよりも遙によく知悉してゐることは間違ないところだ。我が米國民としては専くとも敵國が知つて居る程度のことは知る権利があるのでから今こそ空襲の全貌を發表すべきである」と。

此の問題の爲に當惑した「ルーズベルト」大統領始め華府の指導者等は、國民の注意を他に轉ずる爲に、直接には

發表問題に關係のない事柄を捉へて宣傳を開始した。即ち空襲の事情發表と同時に今年四月十二日附を以て日本政府に送つたと云ふ通牒なるものを公表したのである。此の通牒は漸く今二十三日我方で接受したものであるが、我方に依つて捕へられた米機搭乗員に對して日本側が不當なる取扱を爲したと稱して抗議を申入れたものである。

右抗議文を發表するに當つて、米國要人等は劣悪なる人身攻撃の愚舉すら敢てして對日憎惡の感情を煽り、之に依つて沮喪しつゝある自國民の志氣昂揚を圖つてゐるのである。彼等は『戰爭中の一出来事として捕虜となつた軍服着用の米國兵』を日本側が嚴重處斷に及んだ事は俘虜取扱に關する壽府條約の侵犯であるとか嘯いてゐる。彼等は厚顔にも日本人は全く野獸以外の何物でもなく、人道を無視して恬として恥ないと誠しやかな嘘八百を並べ立てる一方、恰も米國人は一切の非人道行爲を爲し得ない國民であるかの如く言ひ觸らして居るのは笑止の至りである。

然し右の如き米國當路の擬裝隱蔽の努力は兎もあれ、米國民が斯くの如く全然事の真相を知らされず、一時全く目を蔽はれるとしても、米國當局の常套手段たる慘虐行爲の宣傳などに依つて世界列國は決して欺かれるものではない。

抑々本件に關する帝國の方針態度に付ては、既に左記の如き公表文に依つても明白になつてゐるのである。

一、昭和十七年十月十九日大本營陸軍報道部長は次の如き主旨の發表を爲した。

二、防衛總司令官は同日左の布告を發出した。

『本年四月十八日帝國國土を空襲し我方に捕へられたる米國機搭乗員者中取調の結果人道を無視したる者は軍律會議に附し、『大日本帝國領土を空襲し我が權内に入れる敵航空機搭乗員にして暴虐非道の行爲ありたる者は軍律會議に附し

死又は重罰に處す』

三、昭和十八年二月十七日帝國政府は利益代表國を通じて左の趣旨の通牒を米國政府に送達した。

イ、敵航空機搭乗員にして取調の結果暴虐非道の行爲を爲した者は人道の敵として所定の手續の上嚴重處分すべきも右は其の參加せる軍事行動を理由とするものでは無い。

ロ、四月十八日帝國を空襲し捕へられたる米國兵員は取調の結果惡意を以て病院學校等を爆撃し剩へ校庭に遊戲中の學童を夫れと知りつゝ故意に機銃掃射を行ひ殺傷し之を當然の行爲なりとして反省する處なきを以て帝國政府としては斯る犯行者を俘虜として取扱ふを得ず、其の一部は之を死刑に處したものである。

ハ、右は飽く迄も暴虐非道の非人道的行爲を理由とするものであつて、空襲の理由のみを以て捕虜の取扱を拒否するものではない。

右は現に香港を空襲し捕へられたる米國兵の如きは立派に俘虜としての待遇を受けて居るのも明かである。

要之日本は、其傳統的武士道並理想に基き敵國人に對しては現に與へつゝあるが如く又將來も出來得る限り人道的且寛大なる取扱を與ふる用意を有するものであるが、右は言ふ迄も無く該敵國人が人道的に行動し非人道的暴虐行爲を犯かさざることを前提條件とするものである。此點に關し特に指摘したきことは、敵國兵員が單に制服を着用し軍務に服し居りたりと云ふ理由のみにて一切の非人道的行爲に對する責任を免れ得と爲すが如き不合理極まる主張には我方としては斷じて同意し難きことである。

二月十七日附帝國政府の對米回答要旨は左の通りである。

4311

昭和十八年二月十七日附帝國政府の利益代表國 政府を通しての對米通牒內容

一、帝國政府は帝國領土、滿洲國又は帝國軍の作戰地を空襲したる後帝國の權内に入りたる敵航空機搭乗員にして取調の結果暴虐非道の行爲を爲したる者を人道の敵として軍律會議に附し嚴重處分せんとするものにして米國政府の有する情報の如く「其の參加せる軍事行動を理由として」重罰せんとするものに非ず

帝國政府の右の措置は人道を尊重し戰爭の慘禍を最少限に止めんとする崇高なる道義觀に立脚せるものなり
二、四月十八日帝國を空襲したる後帝國權内に入りたる米國航空機搭乗員は惡意を以て軍事施設と遠隔せる病院、學校、民衆等の非軍事施設を爆撃燒夷せるが特に惡質なるは校庭に於て遊戯中の頑是無き學童を確認して故らに之に機銃掃射を加へ殺傷せる事實なり、右搭乗員は前記の事實を陳述すると共に之を當然の行爲なりと主張して反省する所無し

斯の如き者は人道の敵にして許し難き罪人たるは米國政府の了解する所なるべし、帝國政府としては右の如き罪人を俘虜として取扱ふことを得ず

三、右搭乗員は軍律會議に於ける取調の結果罪狀明白となりたるを以て軍律に照し死刑の判決を受けたり、尤も其の大部に對しては特に減罰を行ひ一部の者のみ死罰を執行せられたり

四、帝國政府は帝國領土、滿洲國又は帝國軍の作戰地を空襲したる後帝國の權内に入れる敵國航空機搭乗員中暴虐非

—(13)—

4310

—(12)—

動の行為を行はざりし者は之を俘虜として取扱ふ意図なり

—(14)—

敵性國在留邦人在本邦困窮家族の救濟に關する

外務當局談

昭和十八年四月二十七日

敵國或は斷交國に在留する邦人の家族で、内地に殘留し、又は修學等の爲に内地に滞留し、戰前海外からの送金に依存して居つた者の内には、今次戰争に因つて送金が杜絶した爲に、生活費又は修學費に窮して居る向が尠くない實情に鑑みて、外務省に於ては、之が救濟に遺憾の無い様萬全を期し、既に之が實行に着手してゐる。

又現在敵國或は斷交國に在留してゐる邦人に對しては、當該國に於て救濟の責に任ずべき筋合であるが、外務省に於ては其の生活狀況及當該國政府の取扱實情を詳細調査して居り、之に適應し最善の措置を講じてゐる。斯様に外務省に於て敵性國在留邦人に就て國內國外共に之が救濟に遺漏の無い様充分に配慮してゐる次第である。就ては、敵性國在留邦人の家族で、内地にて生活困窮を來して居る者の調査に關しては、海外移住組合聯合會、各府縣移住組合に擔當せしめ、又敵國在留邦人の子弟にして内地で修學に困難を來してゐる者の調査は、東京方面に於ては在日二世聯合會、『ラテン・アメリカ』中央會、日祕協會、日墨協會、日智協會、日伯中央協會を之に當らしめてゐるから、救濟希望の向は、夫々其の趣旨に従つて此等團體に充分連絡し、外務當局に救濟方申請せられ度い。

帝國陸軍航空部隊の東部印度方面戰果に關する 大本營發表

昭和十八年四月六日

帝國陸軍航空部隊の東部印度攻撃に依る四月一日より同四日までの綜合戰果次の如し

一、敵に與へたる損害

(イ) 飛行機	擊墜	二十機
(ロ) 船舶	沈没	十八機
地上	擊破	二十一機
(ハ) 軍事施設	爆破	五百噸級 二隻 一千噸級 三隻 五百噸級 五隻
		十數箇所

—(15)—

4313

4312

二、我方の損害

自爆又は未だ歸還せざるもの

四機

—(16)—

帝國陸軍航空部隊の東部印度及ビルマ方面戦果に關する 大本營發表

昭和十八年四月二日

帝國陸軍航空部隊は三月三十一日東部印度及び緬甸領内に於て次の戰果を收めたり

一、コックスバザー附近飛行場群を奇襲し敵戦闘機十六機と交戦、その八機を擊墜、他の八機に損傷を與へ、全機無事歸還せり

二、緬甸アランミョウ東北方に於て敵機十二機と遭遇、その二機を擊墜せり、我方一機未だ歸還せず

帝國海軍航空部隊のルツセル島方面戦果に關する 大本營發表

昭和十八年四月三日

4314

帝國海軍航空部隊は、四月一日ソロモン群島ルツセル島方面に進撃、敵戦闘機群を捕捉し、その四十七機を擊墜せり、我方の損害自爆及未歸還九機

帝國陸軍航空部隊の東部印度攻撃戰果に關する 大本營發表

昭和十八年四月六日

帝國陸軍航空部隊の東部印度攻撃に依る四月一日より同四日までの綜合戰果次の如し

一、敵に與へたる損害

(イ) 飛行機
　　二十機

　　地 上 撃 墜

(ロ) 船 艇

　　五百噸級

　　一千噸級

　　五百噸級

　　二隻

　　三隻

　　五隻

4315

—(17)—

(八) 軍事施設
爆碎炎上

十箇箇所
四機

自爆又は未だ歸還せざるもの

—(18)—

帝國陸軍部隊の印緬國境アキヤブ北方地區に於ける
英印軍撃滅戦果に關する大本營發表

昭和十八年四月八日

一、帝國陸軍部隊は印緬國境附近アキヤブ北方地區に占據し、昨年十二月下旬以來英印軍二個師團の攻撃を擊破しつつありしが、三月上旬攻撃に轉じ、大包圍作戦に依りマユ河畔敵主力を捕捉撃滅し目下殘敵掃蕩中なり

二、緬甸方面陸軍最高指揮官は陸軍中將河邊正三なり

帝國海軍航空部隊のフロリダ島方面戦果に關する
大本營發表

4316

昭和十八年四月九日

4317

帝國海軍航空部隊は四月七日大舉ソロモン群島フロリダ島方面の敵艦船を強襲せり、戦果及び我方の損害左の如し

戦果	沈	巡洋艦	一隻
大	駆逐艦	一隻	
小	輸送船	十隻	
轟	輸送船	二隻	
我方の損害	轟送船	一隻	三十七機
自爆			六機

(註) 本海戦をフロリダ島沖海戦と呼稱す

帝國陸軍部隊のベンガル灣岸インデン附近戦果
に關する大本營發表

昭和十八年四月十日

—(19)—

帝國陸軍航空部隊はベンガル湾岸インデン附近に包囲せる英印軍第六旅團に對し連續攻撃を加へ、四月八日に至りこれを殲滅、その旅團長ガベン・ディッシュを俘虜とせり

—(20)—

帝國陸軍航空部隊の印緬國境附近並に東部印度方面 戰果に關する大本營發表

昭和十八年四月十二日

帝國陸軍航空部隊は四月五日以降九日に至る間印緬國境附近モンドウ並に東部印度チツタゴン、ドハザリ及びアコウラ等の各地に進攻し或は來襲せる敵機を邀撃せり

一、敵に與へたる損害

擊墜七機 炎上十五機 地上擊破十四機

船舶擊沈 一千噸級一隻 五百噸級二隻

二、我方一機を失へり

帝國陸軍部隊の西北部印緬國境並に雲南省境方面 戰果に關する大本營發表

4319

昭和十八年四月十二日

帝國陸軍部隊はアキヤブ北方の作戦に呼應し、西北部印緬國境並に雲南省境附近の敵軍に對し二月上旬作戦を開始し、三月下旬その目的を達成、さらに所在の殘敵を掃蕩中なり、本期間ににおける戰果左の如し

一、敵に與へたる損害 遺棄死體約九百、俘虜約二百、各種火砲七門、重輕機四十二挺その他小銃、彈藥、糧秣、被服等多數

二、我方の戦死 八十五

帝國海軍航空部隊のニューギニヤ方面戰果に關する 大本營發表

昭和十八年四月十三日

一、帝國海軍航空部隊は四月十一日ニユーギニヤ、オロ灣方面の敵艦船及び航空機群を攻撃し輸送船三隻、驅逐艦一隻を擊沈、戰闘機二十一機を擊墜、小艦艇數隻に相當の損害を與へたり、我方の損害自爆及び未歸還六機

二、帝國海軍航空部隊は四月十二日ポート・モレスビーの敵飛行場及び船舶を攻撃せり、戰果及び我方の損害左の如し

—(21)—

—(22)—

戰	果
擊	沈
擊	擊破
地	上
擊	爆破
我方の損害	碎

輸送船一隻
二十八機
大型機數機
軍事施設數箇所
兵舍二十數棟
自爆五機

帝國陸軍部隊のアキヤブ北方地區戦果に關する 大本營發表

昭和十八年四月十四日

帝國陸軍部隊のアキヤブ北方地區作戦（航空作戦も含む）に於ける四月十日迄の戦果次の如し

一、敵に與へたる損害

イ、遣棄死體 約四千二百（内英兵約二千）

俘虜 五百十六

二、我方の損害

主なる鹵獲品	各種火砲百五十六門、重輕機関銃三百七十四挺、小銃四十五挺、戰車及び装甲車五十
口、船舶	輛、自動車七十七輛、馬匹四百七十三頭
擊	一千噸級一隻、五百噸級四隻
飛行機	一千噸級十四隻、五百噸級十五隻
擊	四百六十五機
軍事施設	飛行機擊墜破
飛行機	一千噸級五十二箇所

4321

4320

帝國海軍航空部隊のニューギニヤ方面戦果に關する 大本營發表

昭和十八年四月十六日

帝國海軍航空部隊は四月十四日敵輸送船團のニューギニヤミルン灣來着を偵知し、大舉之に攻撃を加へ、更に他の部隊はラビ飛行場を急襲し左の戦果を收めたり

—(23)—

擊沈 大破炎上後沈没
擊破 輸送船七隻
地上擊墜 小艇艇數隻
爆破炎上 四十四機
軍事施設五箇所

この間に於ける我方の損害自爆五機

米國飛行機我が本土空襲の眞相に關する 谷萩陸軍報道部長談

昭和十八年四月二十三日

米國民が多大の期待をかけてゐた昨年四月十八日の東京爆撃の詳報を一年後に発表することは、米陸軍省の反対のため、「昨年四月十八日東京空襲を行つた米國飛行機は航空母艦から飛び立つたものである」とのみ、米情報局が発表してゐるが、米當局に代つて茲に當時の詳報を發表する。

一、先づその空襲計畫の概要是、米陸軍航空兵大佐ドゥリットル指揮の下にノース・アメリカン B-25型（中型爆撃機）十六機より成る陸軍機の臨時編隊を以て航空母艦により日本本土に接近し、東京、横濱、名古屋、大阪、神戸

を爆撃したる後、先づ支那浙江省衢州飛行場に着陸し全機集結更に重慶に向ひ同地に在る米人義勇軍ステイルウェル少將の指揮を承ける、これが計畫の骨子でその實行方法として左の二案が定められてあつた。

第一案は、夜間爆撃の目的を以て四月十九日の日没前に第一番機を離艦せしめ、日没直前日本本土に到着し、芝浦所定の工場を焼夷爆撃する。第二番機以下は、これより後に離艦して日没後に本土に到着、第一番機の爆撃による火災を目標として東京ならびに近郊所定の目標を標定爆撃する。爆撃後は各個に進路を選定して翌二十日拂曉支那本土に到着する。第二案は第一案が實行不可能の場合には、適時晝間爆撃を實行するといふにあつた。

しかしこの十六機の臨時集成群を五つの編成に分け、ドゥリットル大佐の直接指揮する第一、二、三、四編隊の十三機をもつて東京附近を爆撃し、ヒルガード少佐を長とする第五編隊の三機をもつて名古屋、大阪、神戸に進攻爆撃することに定められてあつた。

二、次は空襲參加者募集の状況であるが、昨年三月前第十七航空兵團の三個の爆撃隊及び第八十九偵察隊に於て空襲參加者の募集が行はれたが各中隊毎に全將校を集め、「秘密かつ危険な重要任務につき度い希望者はいか、某所に對する爆撃飛行があるが希望者はいか、外國勤務の希望者はいか」

などの名目により志願者を募り、また下士官の方は各中隊長より適任者を指名して志願を勧められたが、志願者は四隊合して百二十名ほどであつた。そしてドゥリットル大佐、ヒルガード少佐、ヨーク大尉の三名の銳衛委員により百二十名の中より技術優秀なるもの約八十名が選抜せられたのであつたが、これらの者は國內の人氣取を目指すと

—(25)—

4323

4322

共に自己の冒險心を満足せしめ、且つ短期間に進級して高い俸給を取ることができるといふやうな動機から志願したもののが殆ど全部であった。

三、又出發前の訓練ならびに防諜の状況を観るに、選抜された者は、三月一日、それ／＼所屬部隊からフロリダ州のエグリン飛行場に空輸集合を命ぜられ、同地でドゥリットル大佐の指揮の下に約三週間にわたり、航空母艦よりの短距離滑走離陸、低空固定目標爆撃、海上低空飛行、夜間無信號飛行などの訓練を受け、三月二十七日、桑港對岸のサタラメン飛行場に空輸移動し専ら機體の點検と準備をなし、四月一日出發となつたが、この間防諜には細心の注意を拂ひ、日本空襲の目的を示さず、志願者にはアフリカ、又は南米に對する飛行機の空輸なる如く信せしめ、且つ訓練は、悉く東洋人の住まない東部海岸地方で行はれ又エグリン飛行場到着以後は全員兵營内に起居して外出を禁ぜられ、三月二十日よりは郵便通信の一切を禁ぜられたのであつた。

一方日本空襲の企圖を全然知らない志願者は、肉親や知人に對して他部隊に轉属になつた、二ヶ月位の豫定で旅行するから暫く逢はれない、恐らく米國の土地を出發するから當分の間は音信が出来ない、などの通信を送つてゐたのであつた。

四、桑港出發後の状況を述べると、四月一日、航空母艦ホーネット號等に搭乗して桑港を出發したが、四月二日になつてはじめて、ドゥリットル大佐より「日本本土空襲」の目的を明かにせられた一同は、今更の如くに驚き、「生還は不可能だ」と興奮し或は失望し、或る者は不参加を申出したのであつたが、「日本人は戦には非常に強いが、道德の高い人々の結束した國で昔から捕虜を優遇する國である」と聞かされた彼等は、大いに氣をよくして、假令不

時着の場合でも、又は落下傘によつて跳下の際にも、手さへ擧げれば生命は助かるものと樂觀して、更に空襲の準備訓練を受けたのであつた。特に日本本土進入、退去の経路、迎撃機に對する逃避法、目標選定爆撃法等の圖上の研究は格別熱心に行つたのである。

また元日本駐在武官補佐官で、昭和十六年八月に歸國したジュリカ中尉が同艦に乗込んでゐたので、同中尉から、日本國內の事情、就中都會の状況を主とする地誌資料、國民性などにつき綿密なる教育をうけた。又四月十日には「捕虜となりたる場合の心得」と題する小冊子を回覧させられた。しかし艦内の待遇給與は豫想以外に悪く、彼等の空氣は悪化したが、本土空襲に對する好奇心と冒險の興味と物心兩方面の恩賞とがこれを抑制したのであつた。

五、愈々空襲の實施であるが、最初は第一案により四月十九日夜日本本土を空襲する豫定で航行してゐたところが、四月十八日八時頃、都合により遅かに豫定を第二案に變更し、東京を距る七百浬の洋上から離艦したのであつた。即ち八時三十分ドゥリットル大佐の一番機に始まり、九時二十分最終十六番機を以て終り、編隊を組むことなく、洋上概ね百浬の低空をもつて各々目的地に向つて進入を圖つた。

東東方面空襲機に、正午頃概ね犬吠岬海岸一帯より進入、利根川を横断して東京、横濱等の上空に到り、高度概して千五百呎以下より各機五百ボンド爆弾四個あるひは右爆弾三個と焼夷弾百二十本入一箱とを投下して洋上に去り、大阪、名古屋方面の空襲機は最初犬吠岬を目標として西進し、房總半島を望見するや上昇し、南方に進路を取り、高度五千呎乃至七千呎を以て伊豆半島より本土に進入し、富士山を右側に望見し得る頃我が戰闘機の追撃によ

リジグザグコースをとり雲中に逃避したのち、各々目的地に到り、高度五百呎内外より爆弾、焼夷弾の全部を投下したが、大阪空襲機は我が戦闘機の追撃を恐れて決心を變更、名古屋附近に爆弾、焼夷弾全部を投下して乗機の重さを軽くして洋上に去つた。この間我が方に數機撃墜されまたは相當の損害を與へられたのであるが、僚機と分離して洋上に去つた殘餘の敵機は、戦々競々として九州南端種ヶ島沖附近を通過、支那浙江省衢州飛行場に向つたが、大部分は海上、陸上に墜落し、僅かにドゥリットル外數名が辛うじて命拾ひをした模様である。又不時着により機體が大破炎上して搭乗者は殆ど死んでしまつたものもある。

かくて本土空襲の米機は、我に對しいふに足る程の損害を與ふることもなし得ず、殆ど全滅し去つたのであるが、その中ドゥリットル大佐機は日本本土上空には來らず部下のみを向はしめ、自らは日本南方海上高空を遙早く支那へ逃走したので最も安全であつた。また一機はソ聯領に着陸してゐる。

なほ我に捕はれた敵兵中、我が本土空襲に際し意識的に軍事施設にあらざる病院、國民學校等を攻撃し、入院中の病人、頑是なき小學兒童を殺傷してゐるが、かかる暴虐非道の行為を爲せし者は捕虜として取扱ふことなく、嚴重に處斷した次第で、この方針は將來も同様である。以上は米機來襲の経過であるが、その後大東亜戦争に連敗の要目をみたルーズベルトはその類勢挽回に懸命の努力をなしてゐる様子だ。しかし最近の戰況の中、ビルマ方面の航空戦果は米英機の擊墜破約五百機に對し我が損害四十機といふ比率であり、他の方面でも大きな懸隔がある。

飛行機は資材があればいくらでも作れやうが、これを操縦する人間は中々以て簡単に作り上げ得るものではな

い。粗末な訓練では實戦に間に合はないのである。敵飛行機の大損害に正比例して、その優秀な飛行士が次々に死傷した後の交代者の素質は、今や急激なる低下を來してゐる。その結果はまた循環的に敵飛行機の恐るべき損害率となつて現はれて來た。

なほソロモン、ニューギニア方面では米軍航空隊は頻繁に交代してゐる。「日本航空隊は非常に弱い」と騙されて米本國からやつて來た未熟な戦闘員達は、一度わが猛撃を受けて日本航空隊の實力を知るや、忽ち戰意を喪つて新たなる「騙され組」と交代してゐる。これはマラリヤに罹るものが多いのだといふ口實だけでは幾ら眞實から目隠しされてゐるアメリカ人でももう騙されなくなる時期が來やう。

眞珠灣の真相についても、一年後において僅かにその一部分を發表した米政府は、遂に日本本土空襲の詳報を一年経過しても發表し得ない。ドゥリットルの如きは歸國後英雄の如く振舞つて米國各地を講演して廻つたが、彼の荒唐無稽な所謂「東京空襲」の體験談なるものは、彼自身卑怯にも東京の上空に到達せず、太平洋上を遙早く支那大陸へ逃去つたと傳へられるにおいて又何をかいはんやである。

國外においても國內においても數知れぬ大困難に逢着してゐるルーズベルトは、今後再びその詳報を發表し得ざる「日本本土空襲」を以て、國內の不平不滿を緩和しようとするかも知れぬが、しかしがりら的空襲位では日本國民はビクともするものではない。況んや我が防衛は鐵壁であり、ながんづく敵の大型爆撃機の來襲を見ることあれば、わが單座戦闘機は敢然身を挺してこれに激突し、肉彈的衝突戦法を取る覺悟である。

—(30)—

の指揮官ドゥリットルは爲すところなかりし故をもつて、こゝに改めて「デイツド・リットル」の稱號を奉るが、今後任命せらるべき指揮官はドゥ・ナツシング大佐たるべきことをルーズベルトは期待して然るべきである。

帝國海軍航空部隊のエリス諸島並にソロモン群島方面 戦果に關する大本營發表

昭和十八年四月二十八日

- 一、帝國海軍航空部隊は四月二十三日エリス諸島フナフチ島を攻撃し、敵軍事施設に多大な損害を與へたる後全機無事歸還せり
- 二、帝國海軍航空部隊は四月二十五日ソロモン群島ガッカイ島上空の空戦に於て敵戦闘機六機を擊墜せり、我方損害なし

4328

國際時報

4329

カチン森虐殺事件とソ波斷交

ボーランド亡命政權の失地回復要求（國際月報第二十
八號國際時報中「ソ波國境紛争に基く反権軸陣營の龜裂」
参照）を繞りソ波兩國の對立が尖鋭化してゐた折柄、ド
イツ軍當局は、四月十日、國際記者團をスマレンスク前
線に招致し、同地近郊カチン森に於けるボーランド軍將
校一萬人の墓地を發掘、ゲ・ペ・ウがこれ等將校を虐殺し
たと發表した。

この報道は世界に異常な反響の波紋を及ぼしたが、殊
にボーランド亡命政權は自己の立場を有利化する絶好の
宣傳材料を得たとばかりに早速この問題をとり上げたの
—(31)—

かくして、カチン森虐殺事件をきつかけとして、二月
以來燃つてゐたソ波紛争は、遂に近來の國際的重大問題
として爆發するに至つたが、今、煩を厭はずボーランド

亡命政権の聲明内容を紹介すれば左の通りである。

「赤軍の機關紙『赤い星』は一九四〇年九月十七日の誌上で、一九三九年九月十七日の戦で約一萬人のボーランド軍將校が赤軍の爲に俘虜となつた旨報道した。ボーランド政府の手元にある情報によれば、一九三九年十一月、ソ聯邦領土内に三箇所の俘虜收容所、即ちスマレンスク東方のコゼルスク、ハリコフ附近のスタロベルスク、カリーニン附近のオスタシュコヴォの三收容所が設置されたが、内コゼルスクの收容所には、將校四千五百名その他併せて五千人、スタロベルスク收容所には、將校三千九百二十人、その他一般市民百人、オスター・シユゴヴァの收容所には、將校三百八十人、その他併せて、六千五百七十人の俘虜が收容された。」

一九四〇年四月五日から五月中旬までの間に、赤軍當局はこれ等收容所を空にしたが、ソ波兩國政府間に條約並に軍事協定が出來、ソ聯邦領土内でボーランド軍

が組織された際、下士官兵並に一般市民七千人が行方不明になつた外、將校約八千三百名の行方がどうしても判らなかつた。そこで、コット大使並にアンデルス

將軍は、上述の收容所について、これらボーランド軍將校の行方を調査するやうソ聯邦政府に要請し、更に一九四一年十月六日、コット大使はボーランド人俘虜の名簿提示方をソ聯邦政府に要求したのである。一九四一年十二月三日、シコルスキー將軍もモスクワを訪問してスター・リーン首相と會談した際に、ボーランド軍俘虜全部を釋放するやう要請した。そしてソ聯邦政府の方では名簿が未だ出來てゐないといふことであつたので、不完全ではあつたが一緒にゐた俘虜たちの作成した將校三千八百四十三名の名簿をスター・リーン首相に手交した。當時スター・リーン首相は、ボーランド人に大赦の恩典を與へるが、大赦は全般的性質のものであつて軍人並に一般市民に適用され、殊に、ボーランド軍將

4331 校は、全部釋放された旨を言明した。

次いで、一九四二年三月十八日、アンデルス將軍は、スター・リーン首相に對し更に將校八百名の名前を掲げた追加名簿を手交した。しかしながらこれ等の名簿に掲げられたボーランド軍將校は唯の一人もボーランド軍にかへされて來なかつた。ラチンスキイ外相もソ聯邦大使ボゴモロフに對し再び俘虜の消息について照會したが、以上の收容所から移送されたボーランド軍將校その他の俘虜の行方について、ボーランド政府は全然回答を受取らなかつた。勿論ドイツがこれを問題とした意圖が那邊に存するかは察知するに難くないが、スマレンスク附近でボーランド軍將校數千名の死體を發見したと稱し、且これ等將校が一九四〇年の春、ゲ・ベ・ウの爲めに虐殺されたといふドイツ政府今回の情報は非常に詳細を極めてゐるので、萬國赤十字社の如き國際團體に於て、今回發見されたといふ共同

墓地を調査し、眞相を闡明する必要が起つて來た。依つて、ボーランド政府は、目下萬國赤十字社に對し、ボーランド軍俘虜が大量虐殺された地點に代表を派遣するやう要請してゐる。」

尚、ボーランド政権は、四月十七、十八日の兩日、引き続き緊急閣議を開催したが、十八日の閣議後次の公報を發表した。

「ボーランド政府はスマレンスク附近の共同墓地發掘に關する情報を接受し、四月十八日、スイス駐箚自國代表に訓令し、ジュネーブの萬國赤十字社に對し、現場に於て實情を調査するため代表を派遣するやう要請された。萬國赤十字社の調査により事態が闡明され遅滞なく責任の所在が明らかにされることを期待する。」

そして、ボーランド赤十字中央委員會は、スカルジン

—(33)—

4330

—(32)—

ドイツ當局の案内によつて死體發掘、その他の實地調査を行つたが、四月二十二日、同調査團報告書を添附した書類を以て萬國赤十字社の實地調査を正式に要求した。尙、右スカルジンスキーレポートは、カチン森で發掘された約三百の死體を検査した結果、これらは悉く頸部をピストルで射抜かれており、且約百五十名の姓名が判明したと述べてゐる模様である。

前記スカルジンスキーレポートの如きものまでが廣く流布されるに至つた結果、ソ聯邦側は、かうしたボーランド政權の態度はソ聯邦を窮地に陥し入れようとする最も惡意ある行爲であるとして對波斷交といふ思ひきつた措置に出でた。即ち四月二十五日、モロトフ外務人民委員は、モスクワ駐箚ボーランド大使ロマールに對し、ソ波國交斷絶に關するソ聯邦政府の通牒を手交したのであつて、その要旨は左の通りである。

「ソ聯邦政府は、最近のボーランド政權の對ソ態度を以て兩同盟國々交關係上の一つの原則を侵犯する異常なものと認める。ボーランド政權は、スマレンスク附近に於けるボーランド將校殺害事件に關するドイツの對ソ誹謗宣傳を速早く取り上げ、又ボーランド政權の機關新聞は之を極力煽つた。ボーランド政權はこの種の對ソ誹謗を阻止しなかつたのみかソ聯邦政府に對し、本件に就き何等問題を提起し或は説明を行ふ舉に

共にドイツ軍の手に渡つたものであると發表した。次いで十九日、プラウダ紙は「ボーランド人のヒットラー協力者」と題して相當激越な口調でボーランド政權を攻撃し、ボーランド側がこの事件を萬國赤十字社に持ち出したのは獨逸側宣傳に對する直接的幫助と見るの外はない論じ、更に二十日のソ聯邦各紙は、要旨左の如き國營通信社タスの論説を一齊に掲載した。

「ボーランド政權の聲明はドイツ占領者の犯罪隠蔽を帮助するものに外ならず、殊に右の如き反ソ聯邦中傷がボーランド及ドイツ新聞紙上に同様に流布されたことは、右に關して、ボーランド政權内部の親獨分子とドイツ側との間に豫め聯絡のあつたことを示すものと云へる。又ボーランド政權の聲明は同政權内部の親獨分子が大きな勢力を有してゐることを示し、ソ波關係悪化の新たな一步を爲してゐる。」

しかも、ボーランド側が飽迄執拗に食ひ下がり、遂に

出なかつた。ヒトラー官憲は自らボーランド將校に對する罪惡を犯しながら、その占領下にあるボーランドの通獨分子を利用して、本件調査の喜劇を演じたが、ボーランド、ドイツ兩國政府は本件審査の爲めに萬國赤十字社を引出し、そして、赤十字社はヒトラーが舞臺監督を爲す御先棒劇に參加するの已む無きに至つた。しかし、ソ聯邦政府の背後に於て行はれるかうした審査は到底常識を備へた人々の信賴を贏ち得るものではない。

ソ聯邦に對する斯の如き敵意ある宣傳運動が、獨波兩國新聞紙上に於て同時に開始され、且つ同一の計畫の下に行はれてゐる事情により、ヒトラーとボーランド政權との間に、この運動遂行上の連繫乃至通謀のあることは疑念の餘地がない。

ソ聯邦國民がヒトラーと流血の慘を敢てして惡戰苦闘し、ソ波兩國及び自由愛好民主主義諸國の共同の敵

を壊滅する爲めに全力を傾注してゐる時に當り、ボーランド政權がヒトラーに迎合、ソ聯邦に對し背信的打撃を與へたが、右はボーランド政權がヒトラーの虚偽の説謗を利用し、ソ聯邦領ウクライナ、白露及リスアニアの國境調整に於て領土的讓歩を得るべく、ソ聯邦政府に對し壓迫を加へようと企圖したものである事は明かである。右一切の事情に鑑み、ソ聯邦政府は、現ボーランド政權を以てヒトラー政府と通謀の舉に出でソ聯邦との同盟關係を現實に停止し、ソ聯邦に對し敵意ある立場を取るに至つたものと認める。従つてソ聯邦政府はボーランド政權と國交關係を斷絶することを決意した。◇

このソ波斷交は、まさかと思つてゐただけに全世界をあつと云はせたが、就中狼狽したのは、當のボーランド政權を除けば、米英兩國殊に英國であつた。

十六日、

「ソ波兩國の意見の相違に就ては、何れが正しいか

四月二十六日、ソ波斷交の報を得た英國外務省筋は明に當惑の色を示し、左の意をもらしたと云はれる。

「今回の事件で満足するのは、樞軸各國だけであらう。樞軸各國は獨宣傳相ゲツベルス博士の勝利を讃美するであらうが、反樞軸各國としては、ソ波兩國の何れに味方する譯もなく、反樞軸の團結維持を要望するのみである。」

そして、チャーチル英首相は、翌二十七日、亡命ボーランド政權のシコルスキー首相及びラチンスキーエ外相と官邸に於て會見、イーデン英外相立會の下に善後策を協議し、次いでワインント米國大使を招致して意見の交換を行つた。

他方、米國國務省に於ても、ソ波斷交の報に接した二十六日、

4335
は別として、寛に遺憾である。」
との意向を表明したが、翌二十七日、ウエルズ國務次官はチヤノフスキ波大吏と會見して事情を聽取し、更にハル國務長官は、二十九日、ハリファツクス英國大使と長時間に亘り會談をとげた。

かくして、米英兩國の意向はボーランド抑壓に一決したものの如く、翌三十日、スタンドレー駐ソ米國大使竝にカーリー英國大使はスターリン首相を訪問して懇談を遂げたが、更に在ロンドン亡命ボーランド政權をして、同日、萬國赤十字社に對するカチン森虐殺事件調査要求は撤回した旨を公表させたのである。

即ち、ボーランド亡命政權は、四月三十日夜、左の如き聲明を發表した。

「スマレンスク附近に於けるボーランド軍將校の共同墓地調査につき、ボーランド亡命政權は萬國赤十字社に調査を要求したが、赤十字社は、以上の要請に應ず

ることが困難である旨を述べた。従つて亡命政權は、右要請が自然消滅したものと解する。」
かくして、ボーランド亡命政權は、カチン森虐殺事件を巧に利用しようとして却つてソ聯から國交斷絶の痛棒を加へられ、文字通り「數蛇」の形に終つたが、米英、殊に從來ボーランド以下十餘の亡命乃至幽靈政權を自己の傘下に集めて宛然小國保護者の如く振舞つてきた英國が、必死によりますがボーランド亡命政權を一向に支持せず、却つてボーランドを壓迫して泣き寝入りを餘儀なくさせたことは、歐洲小國側の對米英信賴を減退させ、今後益々反樞軸陣營の足並を亂させる機縁をつくつたものと云へよう。

他方、ソ聯政府が對波斷交を決意した眞の動機は、結局ボーランド亡命政權の執拗な失地回復要求にあるものとみられ、カチン森事件の如きはむしろそのきっかけにな

つ方にすぎないとの観測が一般に行はれてゐる。しか
も、モロトフ外相が前記對波國交斷絶通牒文の中に「現
ボーランド政權」の文字を使用した結果、歐洲中立國筋
等では、ボーランド亡命政權が依然その失地回復要求を

繰返す限り、ソ聯内にボーランド新政權が樹立されるか
も知れないとの風説がしきりと流布されるに至り、米英
始め反樞軸陣營を不安がらせてゐる。

米英側船舶保有状況の實相

ハリー・トルーマン委員長とする米國土院軍需實績
調査委員會は、四月二十一日、左の如き報告を發表し
た。

「一九四一年内に撃沈された反樞軸船は合計約一千
二百萬噸に上つてをり、同年内に米英兩國が建造した
船舶の總噸數を遙かに凌駕してゐる。」

これに對し、ノックス海軍長官は、四月二十三日、記
者團との會見席上

4336 「トルーマン委員會の報告は誤謬である。例へば委
員會との會見席上

院議員は、

4337 「右報告は公表數日前に海軍省に送附照會されたが、
その折、海軍省は何ら反対意見も表明せず、改訂も加
へなかつた。即ち右報告は關係各省に相談の上公表さ
れたもので、現在までのこの種報告中最も正確なもの
である。」

十七日に至り、海軍省は、次のやうな苦しい辯解を發表
した。

「トルーマン委員會のブルースター上院議員と、ノッ
クス海軍長官とが會議した結果、樞軸側潜水艦によ
り撃沈された喪失商船の統計に關する事態が闡明され
るに至つた。即ち一九四一年に於ける反樞軸國船舶の
喪失噸數については、海軍省の數字とトルーマン委
員會の數字との間には大した相違はなく、喪失噸數と
建造噸數とを比較すると、總噸數で表示して、差引約

百萬噸の缺損となつてゐる。しかしこれらの數字は反
樞軸國全部の國々の新建造噸數を含んでゐる譯ではな
く、反対に損害の方は潜水艦による撃沈だけではなく、
一切の損害を含んでゐる。一九三九年九月歐洲戰爭開
始以來の統計によれば、潜水艦による商船被害の割合
は五割を少し上廻る程度である。(註、以下噸數は、特
に但書のない限り、總噸數を以て表示する。)

かくして米英側船舶喪失毎月平均約百萬噸説は、去る
一月六日、ノックス海軍長官が公然否定したにも拘ら
ず、少くとも一九四二年度に關する限り、正真正銘の事
實であつたことが判明したのであるが、それでは開戦以
來、反樞軸側はどれだけの船舶を喪失してゐるかといふ
と、諸情報を綜合してみて、最少限二千五百萬噸が本年
一月末迄に撃沈されたことに間違ひないものと信じられ
るのである。

即ち、日、獨、伊、羅等の権輜國が、一九三九年九月から一九四二年六月迄の間に、潜水艦、飛行機、水上艦艇及機雷等で撃沈した反権輜國側船舶は合計一千八百五十萬噸に達するのであつて、その内訳は左の通りである。

一九三九年

一一五萬噸

一九四〇年

五二〇ノ

一九四一年

七一〇ノ

一九四二年(六月迄)

五〇五ノ

そして、一九四二年七月以降本年一月迄の撃沈數は、

一ヶ月平均百萬噸說をとれば、約七百萬噸に及ぶ譯であるが、ドイツ國防軍司令部發表の獨側戰果だけでも、同年七月から十二月迄に約四百八十五萬噸(國際月報第二十六號國際時報中「一九四二年度米英商船撃沈數一覽表」参照)、本年一月に百六萬噸、合計約五百九十萬噸といふ素晴らしい成積を擧げてゐるのであるから、これに日、

4339
としては左の如く約一千三百萬噸の船腹が數へられる。

(一) 佛(ド・ゴール)、オランダ、ベルギー、デンマーク、ノールウェイ等の歐洲亡命政權が英國の管理に委ねた船腹 七百八十萬噸

(二) 北阿上陸により獲得された佛國船腹 二十萬噸

(三) ギリシャ、フィンランド、スキス、パナマ、ユーゴースラヴィア等の所有船舶で英國の利用してゐる船腹 百二十三萬噸

(四) アルゼンチン、チリ、ブラジル、ペルー、ウルグアイ、ヴェネズエラ、メキシコ、ニカラグア等の中南米諸國が所有する航洋船舶で、米英側が利用する可能性のある船腹 約二百萬噸

(五) 獨、伊、佛、フィンランド等の権輜國側船舶で、開戦當時中立國港灣その他に碇泊してゐたため米英側に拿捕された船腹 約百八十萬噸

—(41)—

伊、羅等の撃沈成績を加へれば、どう内輪に見積つても、一ヶ月平均百萬噸說による七百萬噸は優に突破してゐるわけであり、従つて開戦以來の反権輜國側船舶喪失量を三千五百萬噸と見積ることがいかに謙虚な計算であるかが分る。

現に、後掲の表の如く、四月下旬發行のドイツ有力海運雜誌ハンザや三月十四日附ベルリナー・ベルゼン・ツアーリツィング紙等は、何れも本年三月末迄の米英商船喪失數を三千一百萬登録と計算してゐるのである。

他方、反権輜國側がどれだけの船舶を所有してゐたかといふと、一九四〇年六月末現在で、米國は一千一百五十七萬噸、英國(自治領を含む)は二千二百二十三萬噸と推定される(國際月報第二十一號國際時報中「一九四〇年六月末現在各國所有船腹一覽表」参照)。

但し、他に米英側に獲得され或は使用されてゐる船舶

次に問題となるのは、米英側が開戦後一月末迄にどれだけの船舶を建造したかといふと、諸情報を総合して、大體、九百四十七萬噸と推定される。尤も、敵國中造船能力のあるのは米、英、加の三國のみで、造船數量は米國を除いては發表されないため、正確は期し得ないが、米英新聞雜誌の報ずる所を総合すれば次の通りである。

(イ) 米國の船舶建造量
一九四一年には對英援助の機運が昂まつて、造船能力增加計畫を立てたが(目標年三百萬噸)建造した船舶は九十五隻約六十五萬噸であつた。中立筋では七十萬噸とも傳へてゐる。
そして、一九四二年度の建造噸數は、米國海事委員

（42）
會委員長エモリー・ランド提督が一月五日に發表したところによれば、七百四十六隻、八百六萬八百噸であるが、これは重量噸であるから、總噸に直せば四百九十萬噸程度とみられる。そして、本年一月には、百六隻六十一萬總噸（百萬八千四百重量噸）を建造してゐる。

（ロ）英國の船舶建造量

英國は一九三八年度に商船約百萬噸（以下すべて總噸）を建造した點から考へて、英國開戦當時の造船能力は約百萬噸であつたと推定され、従つてこの率によれば一九三九年の開戦後四ヶ月間に竣工したものは約二十五萬噸であらう。

一九四〇年度には、獨軍の英本土侵入の脅威に對して全力を兵器生産に傾けたため、造船は優先權上三位、四位とされたことがあり、更に獨空軍の大爆撃で造船能力が極度に低下したことを考へ合せると五十四萬噸

程度を建造したに止まるものとみられる。そして一九四一年度後半期は、造船能力の恢復を考慮すれば、七十萬噸位建造し得たであらう。

又、一九四二年度は開戦以來最も造船に力を注いだ年であつたが、アレキサンダー海相は、本年一月三日、造船所の多くは一九一八年の水準に達せず、造船職工數も同年より十萬人減りと述べてゐるし、一月二十六日附クロニクル紙も、英國造船の最も革新的な頃の船臺で未だ使用してゐないものがあつて平時生産の最高を凌駕するには至つてゐない點を指摘してゐる。

かうした事實を綜合すれば、一九四二年度には一九一八年の百三十四萬噸には達せず、一月十三日附シツビングワールドに掲げられたサー・アーチボルド・ハントの見積に従へば、約百二十萬噸（二百萬重量噸）程度とみられる。

一九四三年度を右の比率から見れば、一月中の建造

4341

量は十萬噸である。中立國筋でも、本年は前年と大體同様と見て、最大限百五十萬噸と假定してゐる。

（ハ）加奈陀建造量

カナダは開戦前、貨物船を建造してはゐなかつたが、米と呼應して造船能力の擴張が行はれ、ブリティッシュ・コロンビヤ及ケベック地方の船臺で、可成り多量

の生産に成功して居る趣であるが、四二年の十二月迄に竣工した貨物船は七〇隻約四十二萬噸（約七十萬重量噸）である。

又、四二年十月十三日ロンドン發ロイテル電は、ハウ軍需大臣が四二年度建造豫定を七十萬噸（百萬重量噸）と報告した旨を報じてゐる。

一九四三年度は、前記ハウ軍需大臣の報告によれば、客年に比して三割三分を増加する見込のことであるから、九十一萬噸を豫定してゐる譯である。

因に、澳洲、印度、南ア聯邦等の造船能力は不明であ

るが、敵側の誇大宣傳に拘らず、一年精々十萬噸乃至十五萬噸にすぎないと觀測される。

以上の如く、米英側が開戦後本年一月末迄に建造した船腹は總計九百四十七萬噸で、喪失量が建造量を凌駕すること實に一千五百五十三萬噸、その差は前大戰に比し遙に大きいのである。

かくして、米英側の所有乃至支配してゐた既存船腹は、合計約四千六百八十三萬噸、開戦後本年一月末迄に建造したもの九百四十七萬噸、總計五千六百三十萬噸であり、これから喪失量二千五百萬噸を差引くと、現在の敵側所有船腹は三千一百三十萬噸にすぎないことになる。

そしてこれを前大戰に比較して見れば、聯合國及中立國は一九一四年開戦當時三千四百八十萬噸の船舶を有してゐたが、大戰中弊沈による喪失千二百八十五萬噸、

（43）
—

—(44)—

(漁船及中立國船を含む)海難による喪失二百十萬噸、建造船舶八十八十四萬噸、捕獲した同盟國側船舶二百四十二萬噸で、休戦當時尙三千三百十一萬噸を所有してゐたことになり、本年一月末現在敵國所有船舶量は、前大戦の休戦當時よりも約百八十萬噸少く、中立國船舶四十二萬

九千噸(スペイン及びポルトガル二十五萬四千噸、スキュス七萬五千噸、スエーデン十萬噸)を加へても、未だ約百三十八萬噸少い勘定になるのである。

尚、本年三月現在米英商船保有量に關するドイツ側の推定を参考のために表示すれば左の如くである。

本年三月末現在米英商船保有量獨側推定一覽表

(單位登録噸)

米國參戰當時の英國保有商船 同じく米國保有商船 押收商船 米英側新造商船 合計 擊沈商船 常時修繕 補助艦艇として使用中の商船 合計	獨、有力海運雑誌 ハンザ四月下旬號 二一、五〇〇、〇〇〇 九〇〇、〇〇〇 一一、五〇〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇、〇〇〇 五一、〇〇〇、〇〇〇 二八、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 三〇、四〇〇、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 三一、〇〇〇、〇〇〇 三二、八〇〇、〇〇〇	四月十四日附ベルリーナ・ベルゼン・ツアーアイツィング紙 二一、二〇〇、〇〇〇 九三〇、〇〇〇 一一、五〇〇、〇〇〇 一〇、四〇〇、〇〇〇 三、四〇〇、〇〇〇 五三、八〇〇、〇〇〇 三〇、四〇〇、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 三一、〇〇〇、〇〇〇 三二、八〇〇、〇〇〇
(本年二月チャーチル英下院聲明) (本年二月チャーチル英下院聲明)	二一、〇〇〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇、〇〇〇

4343

差

引

二一、〇〇〇、〇〇〇

二一、〇〇〇、〇〇〇

(ニューヨーク・タイムズ)

(一) ハンザ誌は二千一百萬噸の米英側商船残存率の中約五百萬噸は軍隊輸送などの軍事目的に當時使用されてゐると見て、聯合國が一般の物資輸送に現在利用出来る商船は約一千六百萬噸と推定してゐる。

(二) 尚、船舶噸數表示には種々の単位があるが、それを略述すれば左の通りである。

(イ) 總噸數 商船内部の容積を一定方法で測り、これを百立方呎単位で表示した數値。商船の噸數は一般にこれで表示する。

(ロ) 登録噸 前記總噸から、機関室、乗組員室その他航海上には必要でも直接商業上には使用出来ない二、三の場所の容積を減じた残りの數値。

(ハ) 重量噸又は載貨重量噸 商船に滿載し得る貨物の總重量を噸で表示した數値。

(ニ) 載貨容積噸数 商船が積載し得る容積の能力を示す數値。

(ホ) 排水噸及び排水量 船の重量、即ち水面下の船體容積を立方呎で表し、三五で割ると一英噸、即ち排水噸が得られる。軍艦の噸數はこれで表示する。

米英ソ勢力圏内主要原油生産地帯に生産量一覽表

イ キ ラ ク ナ メ ヴ エ ネ ズ エ ラ グ	一九三〇年	一九四〇年	一九四一年	一九四二年	(單位一千バレル)
八九八、〇〇〇	一、三五二、九〇〇	一、四〇四、一八〇	一、三八五、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	
一三六、七〇〇	一八四、八〇〇	一四一、一〇〇	一四五、〇〇〇	一四一、一〇〇	
三九、五〇〇	七八、六〇〇	七八、〇〇〇	三五、〇〇〇	六六、〇〇〇	
不 明	二五、七〇〇	不 明	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇	
四五、八〇〇					

ソ 界 聯 邦	一三五、二〇〇	一一二、九〇〇	一四〇、〇〇〇	一一一、〇〇〇
世 界 總 產 額	一、四一、九〇〇	二、一四九、四〇〇	二、二四三、七九〇	二、〇四三、六〇〇

註(一) 本表中一九三〇年度及び一九四〇年度統計はニューヨーク・ワールド・デレグラム紙が米國鐵山局發表に基き算出した数字による。

(二) 本表中一九四一年度及び一九四二年度統計は米國シティーズ・サーヴィス・コンパニー海外石油部報告書内容としてフィナンシャル・ニュース及びマンチエスター・ガーディアン紙に掲載された数字による。

(三) 米國シティーズ・サーヴィス・コンパニー報告書及米誌オイル・アンド・ガス・ジャーナル三月號等は、一九四二年度世界石油總產額が一九四一年度に比し減少した理由として、運送機關及び精製手段の歎欠を擧げてゐる。

(四) 尚米國シティーズ・サーヴィス・コンパニー海外報告書は、一九四二年度に於ける獨伊勢力圈内の原油及び代用油總生産量を一億一千二百萬バarel(内、獨の人造石油四千六百萬バarel、ルーマニアの原油四千百萬バarel)と推定してゐる。

米國戰爭指導機構の内幕

ルーズベルト大統領は、今次世界大戰を口實として國祖ワシントン以来の慣例を破り、三期つゝけて大統領の職を占めたばかりでなく、米國史上に未だ曾てみられない程の權力を享有するに至つた。しかも彼は、その權力を何人にも分ち與へないで、殆んど一人で把握しつゝけており、その閣僚を一堂に會合して、國務の全般に亘

4845 れらの側近者の形造る組織がつまりそれに當り、事實上

ルーズベルトを中心とする米國の戰爭指導は、この影

の内閣によつて指導されてゐると云つてもいいであら



今、これらの側近者を最も大統領の身邊に接近してゐるものから順に上げて行くと、(大統領夫人エリノア・ルーズベルトは別として)、先づ第一は、ハリー・ホブキンスである。當年五十三歳、早く妻を失つた彼は一人娘と共に、殆んど四六時中白宮内に起居し、ルーズベルトの爲に極めて獻身的に勤いてゐるが、宣傳を忌み、口が堅いといふ、ルーズベルトとは全く對照的な性格によつて無比の信任を博してゐる。そしてルーズベルトは、ドナルド・ネルソンを戰時生產局長官に任命する際にもホブキンスと相談したと云はれ、又重大な國際問題の決定に際してもホブキンスの意見を参考に供してゐ

—(47)—

り熱議するといふことは、殆ど行はない。その意味で、米國には閣議なるものは存在しないといつても過言ではない。しかし、この獨裁者ルーズベルトも部分的な問題については若干の側近者に相談したり委任したりする。従つて、米國に戦時内閣と稱するものがあるとすれば、こ

のホブキンスほど大統領に親近してはゐないが、やはりルーズベルトの信任を得てゐる側近者としてジエームス・バーンズがある。彼は前大審院判事で、現に經濟安定局長官の重任を與へられ、戰時生產局長官ドナルド・ネルソン、戰時人的資源委員會委員長、ホール・マクナット等と鼎立して、米國戰時行政の重要な部門をルーズベルト大統領から委任されてゐるが、その外に上院に於てニユーディル派と保守的南部民主黨員とのいづれからも信用されてゐる唯一の上院議員として、議會操縱方面でもルーズベルトに重寶がられてゐる。

その次に、大統領の舊友で敏捷なニューヨーク大審院判事のサミエル・アービング・ローゼンマンがある。ホブキンスやバーンズは、大統領の講演の草稿を起草したり、或は又何かの組織を計畫する時には彼を呼んで相談する。さうすると彼はワシントン市中を歩き廻つて色ん

—(48)—
な人に逢ひ、事態を觀察し、問題を解決し、それが終ると、ニューヨークに歸つて行くのである。彼は當年四十七歳、テキサス州出身である。

その外に、ルーズヴェルト大統領は、ホブキンスやバーンズ等の手に餘ることが起きたと、當年七十二歳のペーナード・バルーチ老人を招くのであるが、就中戰時生産問題に就いては、前大戰當時米國軍需產業の指揮監督に當つたことがあり、一元的生産機構の提唱者でもある彼の意見を好んで聽く。

他にルーズヴェルトが日々何事によらず相談する人物としては、てきぱきした有能な秘書役ステphen・アーリイがある。

他方、軍事方面に關するルーズヴェルト大統領の最高顧問としては、ウイリアム・リード海軍大將が控へてゐる。

4347
派遣してゐるが、實際上、各戦域司令官の任命やその權限範圍劃定等の重大問題は、すべて米英代表、就中米國代表の主張通りに決定されてゐる模様である。

例へば、マックアーサーが西南太平洋反権軸軍總司令官に任命されて、同方面米國派遺軍のみならず、全濠洲軍の最高指揮權を與へられたことや、アイゼンハウアーガ北阿方面反権軸軍總司令官に任命されて、同方面米英陸海空軍の統一指揮に當るに至つたことなどはその好適例と云へよう。

尙、米國軍部の首脳者中、最も弱年のアーノルドは、陸軍部内に於て、地上部隊司令官 マックネア中將、軍需部隊司令官 サマーヴェル中將等と併立する航空部隊の司令官であつて、元來、陸軍の最高長官であるマーシャル參謀總長の一都下にすぎないのであるが、空軍獨立の必要を認めるルーズヴェルトは、アーノルドだけは特別の指揮權を與へ、マーシャルと相並んで、國

真珠灣空襲事件後、米國陸海空軍の間に於て敗戦の責任に關する醜いなすり合ひが行はれ、對立反目が表面化しかかつた際、ルーズヴェルトはその鎮撫に苦慮した舉句、統合參謀本部(ジョイント・チーフス・オブ・スタッフ)を組織し、リードをその議長に任命したのであるが、前駐佛大使の經歴をもつリードは、右統合參謀本部を構成するマーシャル陸軍參謀總長、キング聯合艦隊司令長官兼海軍軍令部長、アーノルド陸軍航空部隊司令官等と密接な協調を保ち、遂に陸海空軍間の軋轢を彌縫するのに成功した。リードは當年六十八歳、長身頑丈で、その老齢にも拘らず精力頗る旺盛である。

そして、この統合參謀本部のマーシャル、キング、アーノルド等は、毎朝會合して米國自體の戦略を決定する一方、反権軸諸國の在華府合同參謀本部(コンパインド・チーフス・オブ・スタッフ)に打揃つて出席してゐる。そして、反権軸諸國は、右合同參謀本部に夫々代表を

内的にも國際的にも作戰計畫に參画させてゐるのである。アーノルドは本年五十六歳、ルーズヴェルトの信任頗る厚く、去る三月十九日には陸軍大將に昇進、マーシャル、アイゼンハウア、マックアーサーに次いで、米國陸軍現役中四人目の大將となつた。

ルーズヴェルト大統領としては、軍部との連絡は、リード等の斡旋宜しきを得て、差當り圓満に行つてゐるとしても、國內には未だその他にもルーズヴェルトの頭痛の種が少くなく、その主なるものとしては、議會と労働組合と農業團體とがあげられる。

その中、議會關係については、ウォーレス副大統領を最高相談役として、前述のバーンズ經濟安定局長官の外に、コナリー上院外交委員長、レイバーン上院議員(ケンタッキー州選出)、マッコーマック下院議員(マサチューセッツ州選出)、マクナリー上院議員(オレゴン州

選出) 等が少くとも一週間に一回以上個人的に相談を受け、その他陣笠級の「ルーズヴェルト黨員」と共に、議會の連絡操縱に當つてゐる。

次に、労働組合や農業團體に對しては、ルーズヴェルトは、會議招集による兩方面幹部の籠絡乃至は脅脅化といふ新手を編み出した。

即ち、労働組合について、ルーズヴェルト自身が、毎週一回乃至二回、労働界の巨頭會議を招集してゐるが、右會議には労働總同盟からは、ウイリアム・グリーン會長以下ジョージ・ミニー、ダン・トビン等の幹部、產業別労働會議からは、フイリップ・マレー會長以下ジュリアス・エムスパーク、R・J・トーマス等の幹部、鐵道從業員組合からは、デーヴィッド・ロバートソン等が交交顔を出してゐる。但し鎌山労働組合會長ジョン・ルイスは、ルーズヴェルトとの有名な敵對關係からみて當然なやうに、彼自身は愚か代理者すら出席させてゐない。

4349
の戰爭指導の内幕を洗つてみると、極めて非民主主義的且非立憲的なからくりが白日の下に暴露されるのであり、結局ルーズヴェルトの個人的關係を中心とする一個の私黨に外ならない觀さへある。極言すれば、米國國民

4350
ハル國務長官は、四月十四日にワシントンで、ウェルズ國務次官は四月十五日にニューヨークで、夫々「汎米デー」祝賀會に臨み、米洲諸國の連帶性強化を謳歌したが、中南米二十ヶ國中、現在未だ日獨伊三國に對して宣戰乃至斷交の措置に出でてゐない國としては、僅にアルゼンチン一箇國が残つてゐるだけであることを顧みれば、ハルの所謂「最近十一年間の對中南米工作」も存外輕視し得ない成果を挙げたものと云ひ得るであらう。

しかも、米國の對中南米工作は、今春來益々積極性を

農業團體に對しても、ルーズヴェルト大統領は屢々會議を開催するが、會議出席者の主な額ぶれは、農業聯盟のジェームス・バトン、牧畜業組合のアルバート・ゴス、農業組合のエズラ・ベンソン等であり、バーンズ經濟安定局長官の代表としてマーヴィン・ジョンソンが、又新食糧管理局長官チエスター・デーヴィスが列席してゐるにも拘らず、正統な農務關係行政長官である農務長官クロード・ウイツカードは列席してゐない。このことは前記労働會議に労働長官フランシス・パークインスが出席してゐないことと共に注目に値すると思はれる。

◇
以上のことから結論されるのは、米國の戰爭運營の最高方針が正統の行政機關によつて決定されず、獨裁者ルーズヴェルト大統領を圍繞する一團の側近者によつて執行されてゐるといふ事實である。即ち現在の世界に於ける最も典型的な民主主義國であるべき米國に於て、そ

一億數千萬人は、ルーズヴェルトをとりまく一團の子分に操られて、その世界制覇慾の犠牲になつてゐるとさへ断じ得るのである。

現に、ウォーレス副大統領は、三月十五日ワシントンを出發以來、コスタリカ、パナマ、チリ、ボリビア、ペルー、エクアドル、コロンビア等の各國を歴訪して

四月二十六日ワシントンに歸着したが、他方ルーズヴェルト大統領自身も四月十三日ワシントンを出發、南部諸州を觀察した舉句、四月二十日メキシコ國內に入り、モンテレーに於て、カマチヨ墨大統領と會見したのであつ

米國最近の對中南米工作

て、少くとも四月二十日の一日間は、米國の正副大統領が二人とも中南米方面に出向いてゐるといふ珍現象をさへ呈したのである。



ウオーレス副大統領の中南米七箇国巡歴の使命については、種々な観測が行はれてゐるが、ウオーレス自身は、三月十五日のワシントン出發に際し、記者團に對して、「中南米諸國のゴム生産を更に増産せしめ得るか否かを研究することが今回の旅行の主要目的の一つである」と述べてゐる。

現在、米國がゴム不足の切迫する危機を前にして、四苦八苦の窮境にある實情からみれば、中南米ゴム資源の確保がその主要目的の一つであることは一應受取れるのであるが、ただそれだけの使命ならば、元來ゴムの原產

米國善隣政策の繼續維持、失業防止對策及び農具食糧品その他の供給増加に對して深甚な關心を示してゐるが、これら諸國をして米國より物資輸入を期待させないため、各國國內工業全般の振興を圖る必要がある。」と述べ、何等中南米諸國の農業増産を特に熱望してゐるばかりでなく、そのために盡力する氣持さへ別にもつてゐないやうな口吻を示したのであつた。

そこで、ウオーレスの訪問先が何れも太平洋岸に位する中南米諸國のみに限られたこと、及びルーズベルト大統領が訪問したのも米國の太平洋岸防備上最も重大なメキシコであつたこと等に關聯して、今次米國正副大統領の中南米諸國訪問は中南米太平洋岸に軍事基地を網羅することが、その本來且内密の目的であつたとの觀測も行はれるに至つた。そして又、メキシコ、コロンビア、エクアドル、ペルー、チリ等の海岸には、潜水艦基地乃至空軍基地として好適なものが少くなく、殊にメ

地であり、その後東亞のプランテーション・ゴムに押され生産が激減したとは云へ、兎に角南米隨一の產額(今次戰爭勃發前約二萬噸)を有してゐるブラジルに赴かず、全然ゴムの出來ないチリに約十日間といふ最も長い滞在期間を費したことが不可解になつてくる。

そこで、中南米諸國の農業生産増進を圖るのがウオーレスの旅行目的であつたとの說も生れた。事實、ウオーレスは、四月五日、ボリヴィア國大統領ベニヤランダとの間に農牧業獎勵に關する米ボ協定を締結したし、チリ、ボリヴィア、エクアドル等の各地で農業視察を行つてもゐる。しかし、他面ウオーレスは、エクアドル官民が農具、食糧品その他の供給増加を極力要請したのに對して、「船腹を保證することが困難」であるとの理由で突放しておいても、
「今回歴訪した各國の官民は、一様に戦後における

キシコ、エクアドル、チリ等の所有する太平洋上の島嶼には、明に米國が軍事基地として垂涎置く能はざるもののが存することを想起し、又、ウオーレス自身、チリに於てはヴァルパライソ港を視察し、チリ海軍艦艇を訪問してゐること等を考へ合せれば、かうした見方も一概に憶測としては斥け得ず、むしろ今後の成行看視上、我々の記憶に止めて置いていいものであることと思はせたのであつた。

尙、米國上院は、四月二十六日、パナマに於ける米國權益の一部をパナマ政府に移讓する法案を三十七票對十九票で可決したが、その討論に際して、米國があの狭隘なパナマ一國內に於て、實に八十箇所以上の軍事基地及び飛行場を有してゐることが暴露されたと傳へられる。



他方、大西洋岸に面する中南米諸國中、米國側工作に對する反應に於て最も興味ある對照を示してゐるのは、

の配分率を夫々に六十九・一セント、三十三・八・一セント、及七パーセントに固定すること

(四) ゴム栽培に關する一切の契約を登記させること

と

を規定した。他方昨年十月ペレン市に於てアクリ、アマゾン及バラ等のアマゾン河流域三州知事會議が開催され、ゴム増産の爲に相互に協力を緊密化すると共に、

右各州をして夫々管内に於けるゴム關係者の食糧及び採取器具の配給を行はせることとした。

尚、ゴム銀行は右三州知事に對しゴム採收人の生活状態及び生産物の輸送状態に關する報告並に生産増強の奨勵助成に關する各知事の意見を即時銀行側に提出方を要請した。ブラジル國政府は、本年一月十二日、更にゴム銀行の業務に關する補促規定を設け、

(一) ゴム採收人の誘入

(二) 採收用器具の配給並にゴムの精選及び倉庫設立

(三) ゴム栽培の合理化

(四) 生産地帶とマナオス、ペレン兩市の運輸交通改善

と

(五) 北部地方農會により指定された栽培地域の衛生状態改善と植民促進

(六) 採收人並に小作人より成る購買組合の組織等に關する業務を行ふこととした。

尚、金融方法としては栽培者に對する前貸その他信用制度を採用、一九四三年度生産物に對しブラジル銀行は間接的に前貸を行つて居るのに反し新ゴム銀行は直接に行つてゐる。

他方、華府協定に基き設置された統制委員會はソーザ、コスタ使節訪米終了後八ヶ月間に亘り研究を遂げた結果、一九四三年度に於てゴム五十萬噸產出の計畫を樹て、その爲五萬人の労働者を現地に送り出すこととしたが、右労働者の選定及び配置は労働者動員事務局及

4355 びゴム銀行がその衝に當り、他方労働者の募集は、聯邦移植民局が擔當して、セアラ州旱害罹災民中より大量募集に努めてゐる。尚、ブラジル國政府はゴム開発事業の國家的重要性を認め、栽培契約期間中は關係者に徵兵猶豫の恩典を賦與する外、前記統制委員會は、労働者收容所としてペレン市に四千人、マナオス市に二千五百人、ボルト・ヴェリヨ及ボーカ・アレグレ兩地に夫々一千二百人、其の他二ヶ所に夫々六百人を收容し得るバラツクをノ建設することとなつた。又、マラリヤ病撲滅事業は、アマゾン地帶開發上最も難事なのに鑑み、委員會は特別衛生部を組織し、二十箇所に診療所を設け、別に衛生船八隻を以て衛生狀態改善に必要な藥品の配布をさせ、八ヶ月間にアドベリン錠五百萬個の配布を完了した。(一九四一年度には僅に五萬錠を配布したのみであつた。)

更にゴム銀行は生産物の輸送を確保する爲交通省の監督下にあるアマゾン・リヴァー及びポート・オヴ・バラ

4356 兩汽船會社所屬の全船舶を動員する外、個人所有の船舶をも利用し、その上北米より汽船六隻ランチ百四十隻を購入し、更に又自下ペレン市では二十二噸のモーターボート二隻、アマゾン河上流向小艇八隻を建造中である。そしてヴァルガス大統領は、本事業の重要性が極めて大であるのに鑑み、三月中旬バラード知事を銀行の正式總裁に任命し、其の後任としてバライバ聯隊長で一九三〇年革命の英雄として、又その後バラード聯邦干涉官として有名なバラータ大佐を州知事に任命する等、極力米國側の便宜をはかるとともに、事ゴムに關する限り、金に糸目をつけてゐられない米國の現狀を巧に利用して、米國側資本を背景にこの際米洲經濟圈全體に對するゴム供給地としてのブラジルの地位を確立すべく大意となつてゐる。

かうしたブラジルの態度は、當然アルゼンチンの不撓

不屈な自主的態度を際立たせざるには置かない。従つて、

アルゼンチンの中立政策を破碎しようとする米國の壓迫は最近益々惡辣となり、本年九月の次期大統領選舉が近くにつれて内政に對してまで露骨な魔手を働かせ始めた。しかも、中南米諸國に對する米國外交の常套手段はドルばら撒きの買收政策から始まつて、反政府派のクーデータ使嗾や武力強壓をも辭さない底の惡質のものであり、現在こそ戰爭遂行の必要上、あらゆる偽善的な美辭麗句を弄して世界各國の誘引懷柔に努めてゐるが、いよいよ戰局が切實性を加へ、しかもアルゼンチンが毅然たる中立政策を堅持するとき、いつまでその善隣友好政策の假面の蔭にひそむ殘忍暴虐な黙性の正體をあらはさずにあるられるかは興味深い見ものであらう。

4357
これをおこすに、中南米諸國が、未だ經濟的自立の域にまで成長しきらない中に、前大戰とは比較にならないほど廣汎且封鎖的な今次大戰に遭遇して、深刻な苦境に

沈淪しかかつてゐるのを幸ひに、米國の對中南米工作は最近頗に積極化してきたのであるが、その主要な特徴は、ウォーレス副大統領が去る三月二十八日にチリー議會で行つた演説及びルーズベルト大統領が四月二十日にモンテレーからメキシコ國民に放送した演説中にかなり明瞭に窺はれるのである。今その要旨を摘要すれば左の通りである。

「米洲諸國間の差違は、戰後ににおいては消滅し、全米洲を打つて一丸とする理想が實現されるであらう。そして、來るべき世界においては、國境はその意義を失ふであらう。」(三月二十八日、ウォーレス副大統領演説)

「米墨兩國の大統領が會見したのは三十四年來の事柄であるが、カマチヨ大統領と余は米墨兩國軍の最高指揮官として、兩國軍部間の相互信賴と調和的措置を確認、「武装に於ける兄弟愛」が達成された。墨國兵の

4356
決意と重要軍需資材の増産は我等の共同の敵を打倒する上には必要缺くことの出來ないものである。米洲大陸の各國民は今や北米の善隣政策が米洲諸國の何れかに何等かの害悪を及ぼしたか否かを了解すべき時であり、又、獨立の原則より更に一步進んで相互依存の特權を承認すべき時である。」(四月二十日、ルーズベルト大統領演説)

かくの如く、ウォーレス副大統領は彼一流の「理想主義」的口調で、又、ルーズベルト大統領は彼らしくむしろ政治的に述べてはゐるが、我々は、これらの演説の相共に強調する汎米主義乃至は米洲連帶強化の眞に意圖するところが、政治的、經濟的には勿論、軍事的にも全米洲を完全に把握するにあること、即ち今次大戰で世界中が宛然火事場的擾亂に陥つてゐる隙を狙つて、米洲全體の廣大豊富な重要資源を一さらひに米國の手に獲得確保するのみならず、廣く軍事基地網を中南米の隅々にま

で布置し、戰後をまたずくに全米洲大陸を一手に掌握し、米國の世界制覇上の足場となるべき汎米國防機構を完全に固めようとするものであることを感得せざるを得ないのである。

各國動向

太平洋作戦を繞り

海軍とマツクアーサー對立

帝国海軍航空部隊の連續強襲に關聯して、西南太平洋

反樞軸軍司令部はニューギニア、濠洲方面の危機を力説

し、米英の急遽救援を哀訴したが、ノックス海軍長官は、

「濠洲攻略には大海軍力が必要であるのに、現在西・

南太平洋水域には、この如き日本海軍力集結の兆候が

ない。」

と真向から濠洲危機説を否定した。之に對し、マツク

アーサー西南太平洋反樞軸軍總司令官は、四月十四日、

「西南太平洋戦局を決定するのは、海上勢力よりも

寧ろ空軍力である。日本軍が一度制空權を確保すれ

【軍事】

帝國海軍航空部隊の連續強襲に輿論衝動

帝國海軍航空部隊は、四月一日以來、ソロモン群島方面の米國側基地を再三強襲し、次いでニューギニア方面に於ても、四月十一日、オロ湾を、同十二日、ポートモレスビーを、同十四日、ミルン湾を夫々大舉空襲したが、右につき、米國新聞の多數は、日本空軍の活躍振りをチヤニア戦況以上に大きく取扱ひ米國朝野に衝動を與へた。

ば、日本艦隊は、何處へでも陸上部隊を護送、進撃出来る。」

4859

又、サマーヴエル陸軍軍需部隊司令官は、四月下旬、濠洲に對する運輸は、他の作戦地に比し四倍の日數を要し、種々困難な事情があるが、マツクアーサーに對しては、出來得る限り多數の飛行機、戰車、大砲等を送りつゝあると公表した。

英領フナフチ島に米海軍進駐

海軍省は、四月二十三日、南太平洋英領エリス諸島中のフナフチ島に無抵抗進駐を行つたと發表した。

空爆のみでは效果薄弱

——米誌アリューシヤン戦況を悲観——

紙シカゴ・サン紙等も、華府海軍當局とマツクアーサー司令部との内紛を論議の的とした。

陸軍當局はマツクアーサー増援言明

スチムソン陸軍長官は、四月十五日の記者團會見に於て、マツクアーサーの増援要請に對し、充分な空軍増強

(61)

三十一回の爆撃を受けるやうな状態にもかかはらず、漸次陣地を強化してゐるが、これは日本軍の強毅性を立證するともに、海軍竜に陸地攻撃の伴はない空爆の效果

の薄弱なことを示してゐると論じた。

在重慶米軍首腦部華府到着

陸軍省は、四月二十八日、在亞米軍總司令官ジョーセフ・スナルウェル少將並に在重慶第十四空軍司令官、クレア・シェンノート少將は、同空軍付オールド代將並に高級參謀フランク・メリル大佐を帶同、二十八日重慶からワシントンに到着したと發表した。スナルウェル、シェンノート兩司令官の留守中は在亞米軍總司令部付レイモンド・A・ハイラー少將並に第十四空軍付エドガー・F・グレン代將が代理を務める。

米伯西三國代表會見

北阿反権軍總司令部は、四月五日夜、公報を以て米第五軍首腦部並びにブラジル軍代表がスペイン領モロッコ駐劄高等辨務官オルガス將軍と會見した旨次の通り發表した。

「米第五軍司令官マーク・クラーク中將並びに參謀長

4360

4361

ダール附近に於て英第八軍と合流し、主力部隊は、ガフサ地區より東北進して、四月十日、カイルーアン附近に到達し、スマラクス地區の獨伊軍の側面を脅威したが、右總攻擊に際しては、英軍が主としてその任に當り、米軍は専ら側面的牽制をなすに止まつた。

スチムソン北阿米軍の不振を聲明

スチムソン陸軍長官は、四月十五日の記者團會見に於て、チュニジア戰線米軍の活動不振に關し、次の如く聲明した。
「チュニジア戰線に於ける米軍の役割に就き、種々と論議が行はれてゐるが、同方面前總司令官の決定した戦略によれば、パットン中將麾下の米第二軍は、英第一軍と共に牽制的使命を與へられ、その前進に一定の限度が附されてゐる。しかし、米軍の側面作戦がなければ、モンゴメリー麾下英第八軍の行動は、更に困難を加へたことであらう。」

チュニジア戰線に於て、從來反権軍は飛行場の不足

アルフレッド・ユグレンサー少將は五日スペイン領モロッコの基地に赴き、スペイン領モロッコ高等辨務官

第五軍來訪中のブラジル軍事使節エドアード・ゴメス代表並びに佛領モロッコ總督代表數名も同行した。クラーク中將はスペイン軍を查閱した後非公式にオルガス將軍と數刻を過した。」

四月上旬のチュニジア戰況

三月末、権軍のマレス地區撤退後、チュニジア戰況は、數日間膠着の状態であつたが、四月六日、反権軍軍司令官アレキサンダー英大將は、優勢な空軍並に戦車部隊を終結して、自ら前線の統合指揮に當り總攻擊を再開した。そして、パットン麾下の米第二軍は、北部地區の英第一軍(司令官アンダーソン)、南部地區の英第八軍(司令官モンゴメリー)の中間地帯を擔當し、その一部隊は、ガフサ地區より東進して、四月七日、エル・ゲツ

四月中旬及下旬のチュニジア戰況

四月中旬、反権軍は、北はセラト岬よりマツール、メジエス・エル・バブ、ブーアラダを経て、南はアンフィダヴィルに至る包囲圈内に漸次獨伊軍を壓縮したが、四月二十日より英第八軍が南部山嶽地帯の権軍側陣地に對し行つた攻撃が同二十二日挫折するや、中央地區のメジエス・エル・バブ附近に集結してゐた米軍二個師は、英軍四個師と共に、同二十三日、有力な砲兵及空軍の掩護下に、装甲部隊を先頭としてメジエルダ渓谷沿ひに獨伊防禦線の中央突破を企てたが、右を契機として四月末に至るまで権軍馬蹄形陣地の全周邊に亘り激戦が展開された。そして、右四月末の激戦に際しては、米軍の一有力部隊は北部地區セラト岬附近にも出現し、ビゼルタ、マツール方面に進撃を開始した模様である。

チュニジア制空權を獲得

に悩んでゐたが、四月中の進出により、各方面に多數の飛行場を獲得した爲、チニジア方面制空権は殆んど米英側の掌中に歸した。その結果、北阿戰局の終結は、既に時間の問題であるとみると、歐洲中立國筋の觀測も、略一致してをり、又このやうな情勢の下に於て獨伊軍兵力の撤收は極めて危険であるとみて、樞軸側としては、空路により少數の重要人物を撤退させる外、寧ろ時間獲得の爲、最後迄抵抗する作戦に出るであらうとの観測が有力化してゐる。

マツクネア地上部隊司令官負傷

陸軍省は、四月二十五日、地上部隊司令官レズリー・マツクネア中將がチニジア戰線で四月二十三日負傷した旨公表したが、地上部隊司令官には、テネシー州メンフィス駐屯軍司令官ベン・リア中將が同日ワシントンに於て任命された模様である。なほマツクネアはミネソタ州出身、本年五十九歳、ベン・リアは五月末をもつて六

停年海軍將官氏名

海軍省は、四月下旬、海軍將官五名、陸戰隊將官二名及び將校約三十名が停年の五十八歳に達し豫備役に編入されたと發表した。但しその大半は戰時の爲豫備役編入後も現職に留つてゐる。これら將官の氏名次の通り。

ラガーディアの陸軍代將任命案立消え

ルーズベルト大統領が北阿地方の特務工作にニュー・ヨーク市長ラガーディアを起用、同人を米國陸軍の代將に任命するとの風説に關し、スマソン陸軍長官は四月八日の新聞記者團の會見に於て、次の如く述べた。

「ニューヨーク市長ラガーディアは米國陸軍に勤務する用意ある旨を申し出でたが、同人は現在の地位に於て米國の戰争勢力に一層よく役に立つてゐると思はれるので、陸軍省は熟議の結果右申し出を一應却下するに決定した。又、陸軍省が現役の軍人に對し官吏の候補者となることを禁ずる規則を制定したのは特にマツクナーサー大將その他の個人の目標としたものではない。」

新鋭主力艦の南太平洋參戰を發表

フオレスタル海軍次官は、四月二十九日、

「米國の最新鋭快速主力艦二隻が一九四二年十一月

十四歳の停年に達する。

北阿反樞軸空軍副司令官任命

チニジア方面の副司令官に任命されたと傳へられたが、同人は當年三十八歳、一九二七年にウエスト・ポイント陸軍士官學校卒業し、一九四二年にはマーシャル陸軍參謀總長の副官を勤めてゐた。

七艦隊存在とノツクス聲明

上院は、四月上旬、一八九九年以來廢止されてゐた海軍代將の位階も復活

代將(Commodore)陸軍のbrigadierに相當する位階)復活案を可決、ルーズベルト大統領の手許に送附したが、ノック海軍長官は四月十六日の記者團會見で、今回復活した海軍代將四名を各艦隊に配屬せしめる旨を發表し、又、現在米國海軍には七艦隊が存在して、各戰線で作戦してゐると言明した。

十四日夜ガダルカナル島沖の海戦に参加した。」

（66）――
旨発表した。但し艦の名前には觸れなかつた。

護送用新型空母大量建造

四月中に進水した航空母艦の中で、名稱の判明してゐるのは、カボット（四月四日進水）、アラソン・ベイ（四月六日進水）、イントレピッド（四月二十六日進水）等であるが、この中アラソン・ベイは船團護送用として今後大量に建造される新型空母の第一船である。そして、

デイリー・テレグラフ紙ヴァンクーバー特派員四月七

日附報道によれば、右空母アラソン・ベイ建造を擔當

した所謂造船王ヘンリー・カイザーは次の如く揚言し

てゐる。

「若し資材並に労働力が必要なだけ與へられゝば、

この種空母は毎月三隻乃至六隻を進水させることができ

来る。そしてこの種空母の大艦隊は太平洋に於ける攻

撃作戦にも使用されるであらう。」

海軍省は、四月十三日、巡洋艦シカゴが進水した旨發表した、同艦はソロモン水域で日本海軍の爲撃沈された巡洋艦シカゴの代艦である。

巡洋艦キヤンペラ進水

海軍省は巡洋艦キヤンペラがマサチューセッツ州クインシーの造船所で四月十九日進水した旨發表した。

上陸用舟艇の種類及性能

一説によれば、米軍が現在使用してゐる上陸用舟艇の一說によれば、米軍が現在使用してゐる上陸用舟艇の種類及び性能は左の通りである。

一、將兵上陸用舟艇

長さ三十六呎、發動機一個と機銃二挺の裝備を有し、約四十名の武装した兵を輸送し得る。艇首は開扉式と

二、輕機械化裝備上陸用舟艇

長さ三十六呎、發動機一個を有し、艇首は開扉式にさうでないものとがある。

三、上陸用舟艇

長さ三十六呎、發動機一個を有し、艇首は開扉式に

（4865）――
なつてゐて、通稱クロコダイル（鷹）といはれる。

一、重機械化裝備上陸用舟艇

長さ四十五呎で、船體は全部焊接によつて作られ、

ディーゼル機関の推進機二個を有して居り、十三トン半の戰車を輸送し得る。

一、上陸援護用装甲艇

長さ約五十呎で、高速を有する（以上は全部ヒッギンズの設計）。

一、外洋航行装甲艇

長さ百呎、ディーゼル機関を有し、艇首は開扉式で、

小型戰車數臺を輸送し得る。

海軍艦艇英國の貯蔵石油を使用

海軍省は、四月十四日、次の通り發表した。

「相互武器貿易に依つて世界各国に所在する英國石油諸會社の貯蔵石油が米國海軍艦艇に供與されることになつた。石油に加ふるに食糧その他の必需品が運

（67）――
海軍省は、四月十四日、次の通り發表した。

理由で海軍將校の作業衣を青鼠色に變更する旨を發表

したが、他方陸軍省は勞力及び資材節約のため戰爭終了後まで禮服用軍服を中止する旨四月二十四日發表し

た。

陸海軍の服制一部變更

海軍省は、四月十七日、カーキ色は海上で目立つとの

理由で海軍將校の作業衣を青鼠色に變更する旨を發表

したが、他方陸軍省は勞力及び資材節約のため戰爭終

了後まで禮服用軍服を中止する旨四月二十四日發表し

た。

—(68)—

本年度海軍徵集兵の一割五分は黒人。

海軍省は、四月二十九日、本年度に徵集される米國海軍兵員の中一割五分は黒人が占めることになつてゐる旨發表したと傳へられる。

開戦以來の兵力損害發表

戰時情報局は、四月二十五日、開戦以來の兵力損害を總計七萬八千二百三十五名と發表した。その内譯次の通り。

戰死者	一二、一二三
負傷者	一五、〇四九
行方不明	四〇、四三五

捕虜になつたこと
が判明してゐる者

一〇、六二八

日本本土空襲公報發表

陸軍省は、四月二十日、昨年四月の日本本土空襲に関する詳報を發表したが、その要旨は左の通り。

(イ) 陸軍航空部隊は、東京を去る八百哩の海上に於

4367

外交

「負ふべきであると通達した。」

ルーズヴェルト大統領訪墨

日本空襲米機搭乗者處斷に對し抗議
國務省は、四月二十日、日本本土空襲に關する陸軍省公報發表と相前後して、我が方の右空襲米機搭乗者の處斷に關する四月十二日附米國政府抗議正文を公表した。

日本空襲米機搭乗者處斷に關する**ルーズヴェルト大統領聲明要旨**

自聖館當局は、四月二十一日、日本空襲の米機搭乗者處斷に關するルーズヴェルト大統領の聲明書を發表した。其の要旨は左の通りである。

「米國政府は、一九四三年三月十二日に至り、日本空襲爆撃機二臺の搭乗員で日本軍の捕虜となつた者の一部が死刑執行を受けた事實を確認したので、日本政

府に對し正式通告を以て右行為を痛烈に非難し、又、右事件に參割した日本將校全部は個人的且公式に責任

を負ふべきであると通達した。」

ルーズヴェルト大統領訪墨

ルーズヴェルト大統領は、四月十三日、ウエルズ國務次官を始め軍事秘書ワトソン少將、秘書アーリー等を帶同、ワシントンを出發、ヴァージニア州、ノースカロライナ州、サウスジョージア州、アラバマ州並にアーカンソー州の空軍基地その他の軍事施設視察の途に上つたが、更に旅程を續けてメキシコ國內に入り、四月二十一日、メキシコ北部のモンテレーに到着した。メキシコ大統領アヴィラ・カマチヨは、同日、パリディア外相、アレマン内相、ゴメス農相等を從へ同地に赴き親しく會談を遂げた。

「武裝に於ける兄弟愛達成」

ルーズヴェルト大統領は、四月二十日、モンテレーよりメキシコ國民に對して要旨左の如き放送演説を行つた。

「米墨兩國大統領が會見したのは三十四年來の事柄

で航空母艦ホーネットより出發した。」

(ロ) 爆撃目標は、東京、横濱、名古屋、神戶の軍需工場、造船所、鐵道驛構内並に精油所であつた。

(ハ) 空襲は、眞珠灣事件一ヶ月後に計畫され、精選された志願將士に對し三ヶ月半の準備訓練を行つた。

(ニ) 日本本土には低空より侵入し、損害は輕微であつたが、空襲後遭遇した暴風とガソリン不足とにより、飛行士の多數は落下傘で降下し、其の後重慶に向つた。

(ホ) 參加飛行士八十名中六十四名は日本軍占領地帶外に到着し、五名はソ聯に於て抑留され、二名は行方不明、一名は慘死、八名は日本軍の捕虜となつたものと推定される。尙、負傷者は七名あつたが生命に別狀はなかつた。

(エ) 參加飛行機は、ソ聯領内に到着した一機を除き、全部破損した。

—(69)—

であるが、カマチヨ大統領及び余は米墨兩國軍の最高指揮官として、兩國軍部間の相互信賴と調和的措置とを確認、「武装に於ける兄弟愛」が達成せられた。メキシコ國民の決意並に重要軍需資材の増産こそ、我等の共同の敵を打倒する上に必要缺くべからざるものである。米洲大陸各國民は、今や、米國の善隣政策が米洲諸國の何れかに何等かの害悪を及ぼしたが否かを了解すべきときであり、又、我々は獨立の原則を承認してはゐるが、更に一步進んで相互依存の特權を承認すべきときである。」

米墨經濟協定成立

四月二十日のモンテレーに於けるルーズベルト、カルテヨ米墨大統領會談の結果、翌二十一日、テキサス洲コルブスクリスチに於て、メキシコ國軍需原料品の増産、米墨支拂方式の設定、及びメキシコ經濟の安定、米國製農具の對墨供給の増加、並にメキシコ側人の資源の對米供

給等に關する米墨協定が成立したと傳へられる。

ウォーレス副大統領旅程

三月以來中南米巡歷中のウォーレス副大統領は、四月五日、ボリヴィアのラバス市に到着し、ペニヤランダ大統領と會見、コチャバンバ農業地帶及びオルロ鑛山地帶を歷訪し、新聞記者との會見に於て、ボリヴィアの參戰は、「痛快な驚異」であると述べた。

四月十二日、ウォーレス副大統領は、ペルーのリマに到着し、プラド大統領と會見、次で十五日、エクアドルを訪問し、キトー市に到着、アローヨ大統領と會談を遂げ、同地に五日間滞在後、四月二十一日コロンビアを訪問し、ボゴタ市に到着、ローベス大統領と會談し

ウオーレス副大統領歸國

四月二十六日、ウォーレス副大統領は、コロンビアよりマイアミ經由で華府に歸還し、次の如き聲明を發表し

た。

「今回歴訪した各國の官民は、ことごとく戰後に於ける米國の善隣政策の繼續維持、失業防止對策及び農具食糧その他の物品の供給増加に對して深甚な關心を示してゐると共に、中南米識者の多數は、現在においては聯合國側が戰局を支配してゐるが、勝敗の歸趨は未だ逆睹しがたいとの不安を抱いてゐる。」

太平洋沿岸各國は聯合國の勝利の爲に、軍事的見地から極力困苦缺乏に耐へてゐるが、之等の諸國が米國からの物資輸入を期待しないやう、各國國內工業全般の振興を圖る必要がある。

尙、本年中に再び羅米を訪問する考へはない。」

ハル國務長官米洲連帶強化を力説

「汎米デー」に當る四月十四日、ルーズベルトはワシントンに本據を置く汎米聯盟にメツセーデを送り、米洲諸國の結束を促したが、ハル國務長官は同聯盟で行はれ

た記念會合に出席、米洲諸國の連帶強化を力説した。その要旨は次の通りである。

「汎米デーを迎へるに當り、現在我々が從事してゐる巨大な關爭において勝利を獲得するための凡ゆる手段が完成されてゐる事を言明し得ることは余の満足とするところである。このことは今次大戰が我々の勝利に終つた事を意味するものでなく、前途は未だ遼遠であるが、目的はただ一つじゃない。反権軸國はこの目的に向つて一路邁進して來り、東亞地域、歐洲、北阿の三方面において反権軸軍は猛烈な戰闘を續行してゐる。重慶軍は支那本土で戰ひ、米軍は太平洋において日本軍陣地に對し間斷なき攻撃を續け、英、米、佛軍はチユニジア方面において海上、陸上の差別なく獨軍の戰線に攻撃を加へてゐる。汎米諸國が完全な結束を實現するか否かは、主權の尊重、平等條約の設定、友情と協力の如何に懸つてゐる。我々はこの原則を力説し

て來た。そして世界の數地域の強國がこの原則を採用した時我々は断乎としてこれを死守せんと決意したのである。」

「米洲諸國の結合こそ力の源泉」

——ウエルズ國務次官汎米デー演説——

ウエルズ國務次官は四月十五日、ニューヨークにおけるロータリー俱樂部の汎米デー祝賀會に臨み、再び笑止な戰後平和機構の夢を描き、米國の帝國主義的野望にはことさらに眼を蔽つて、各國による集團保障體制結成の必要を強調した。要旨は左の通りである。

「將來世界の平和並に安全はあるゆる地域、あらゆる平和愛好國の參加する國際機構の結成によつてのみ保障されよう。歐洲及び東亞における地域的國際組織設置案も戰後計畫の一部として提唱されてゐるが、幸ひにも米洲においては、既に二十一の共和國が參加した。國際機構が成立してゐるのであり、將來の世界新秩序に對する礎石が据へられてゐる。

米洲諸國の結合こそ力の源泉なのであり、これによつて我々は権威諸國の西半球に對する侵略の手を封ずることが出來た。今や米洲二十の共和國及びカナダは、共に固く手を握つて、出来るだけ早く人類の敵の無條件降伏といふ共同の目的を招來すべく邁進してゐる。

一たびこの共同の目的を達成した暁には、我々は更に恒久的平和の樹立に積極的協力を行ふであらう。新世界が求めてゐる安全と幸福とは國際間の協力なくしては永久に達成されないことを知るべきである。」

農牧業獎勵に關する米ホ協定締結

ウオーレス副大統領は、四月五日、ラ・バス市でボリ

ヴァイア大統領ベニヤランダと會見の際、農牧業獎勵に關する協定を締結したが、その内容は次の通りである。

一、期限を十ヶ年とする。

二、兩國政府及びボリヴァイア勤業組合はボ國農牧業獎勵

のため毎年合計十五萬弗を據出する。

三、農事試驗所を六箇所設置する。

キューバと砂糖協定締結

政府は、四月五日、キューバ政府と砂糖協定を締結、

兩國代表はハヴァナにおいて右協定の調印を了した。同

協定により米國は二萬五千噸の砂糖を輸入するが、ボンド當りの買上額は米質二六五仙である。

チリ—硝石六十萬噸輸入

四月十三日附ワシントン發ユーピー電によれば、農務

省農業外事局長ホイーラーは、下院割當小委員會において、米國は、一九四三年上半期中に、肥料用として、智利硝石六十萬噸を輸入する豫定であると言明した。

パナマに對し權益一部を移譲

上院は、四月二十六日、パナマにおける米國權益の一部をパナマ政府に移譲する法案を三十七票對十九票で可決、この結果米國はパナマに對し水上施設並に陸上權益

の一部を移譲することになつた。同法案審議に際し、上

院外交委員長トム・コナリーは同案可決の必要を力説したが、國らずもその中で米國がパナマにおいて八十箇所以上の軍事基地及び飛行場を有してゐることを曝露したといはれる。

佛領マ島との交渉は海軍に移管

——ハル長官ロベル總督を威嚇——

ハル國務長官は、四月三十日、米國政府は今後ヴィ

シーア根權に從屬乃至同政權との接觸を維持する西印度諸島佛國代表者を承認せず、又、之との交渉も停止する事に決した旨を聲明、且、その結果、ロベル佛領マルチック島總督との間に締結した一切の協定を廢棄し、爾今マルチック島に關する問題は、海軍省の手に移すことにして、フォルテ・デ・フランサ駐在の米國總領事を召還することにしたと發表した。米國の右威嚇的措置は、義に實施した對マルチック食糧輸止禁出措置がロベル總督

(74)
の對米態度を變更出來ず、却つて從來食糧供給に關する
協定に於て相互條件として定められた中立維持の義務を
嚴守してきた總督をして、强硬な抗議をさせる結果を招
來したことにより、米國政府がロベル總督に對し更に
壓迫を強化したものであるとみられてゐる。

銀塊二百萬オンス對英譲渡

武器貸與局長官エドワード・ステチニアスは、四月三十日、米國政府は、二百萬オンスの銀塊を英國に譲渡することになつたと發表した。

右は、英國に於ける軍需產業及鑄貨方面に對する銀の不足を援助する爲で、英國工業界の銀需要が激増してゐるにも拘らず、印度に於ては、銀の買滙退散が非常に盛んなるため、價段は英國市價の倍に昂騰、一オンス四志となつた結果、印度より供給は受けられず、ビルマよりの供給も遮断され、銀不足が最近頗に深刻化してきた結果である。

4373

一、反樞軸軍北阿進駐以來四ヶ月間に、米國が北阿に供給した食糧、衣類、醫藥その他必需品は、十二萬六千十五萬噸以上の石炭を供給した。

一、この間英國は、北阿の鐵道、工業その他に對して三十五萬噸以上の石炭を供給した。

一、米國が武器貸與により北阿に供給する物資の額は本年六月三十日までには五千萬弔に達しよう。

一、これ等物資を輸送した反樞軸商船はその歸航に際し北阿産の重要な軍需資材を米英兩國に輸送してゐる。例へば英國に送られた燐鎗のみでも三萬四千噸に上つてゐる。

反樞軸避難民會議結果

米英兩國政府は、四月十九日以來、バーミュダ島ハミルトンに反樞軸避難民會議を開催したが、ユダヤ人の佛領アフリカ地方移住その他の問題を繞つて兩國代表の意見對立し、結局四月二十八日至り何等具體的結論を得ずに

(75)

需要並に供給

一、食糧
(イ) 各國における消費の程度並に性格
(ロ) 菜養不良の原因と結果
(ハ) 消費水準の改善方策

米イ通商協定締結

四月八日、ワシントン來電によれば、ハル國務長官はイラン公使モヘメド・シャエステとの間にイラン米國間求償互惠通商協定に調印を了したと傳へられる。

サウヂ・アラビアに武器貸與法適用

ルーズベルト大統領は、四月十九日、武器貸與法をサウヂ・アラビアにも適用することとなつたと發表した。

右發表に當りルーズベルトはサウヂ・アラビアは「米國の國防に極めて重要な地域」であると稱し、武器貸與法の同國への適用は當然の措置であると聲明した。

武器貸與局長官エドワード・ステチニアスは、四月十九日、佛領北阿に對する最近の武器貸與情況を次の如く發表した。

對北阿武器貸與狀況

武器貸與局長官エドワード・ステチニアスは、四月十九日、佛領北阿に對する最近の武器貸與情況を次の如く發表した。

右發表に當りルーズベルトはサウヂ・アラビアは「米國の國防に極めて重要な地域」であると稱し、武器貸與法の同國への適用は當然の措置であると聲明した。

武器貸與局長官エドワード・ステチニアスは、四月十九日、佛領北阿に對する最近の武器貸與情況を次の如く發表した。

閉食、ユダヤ人の北アフリカ地方移住案も同地方が作戦地域であるとの理由から遂に米國政府筋の反対に遭ひ、撤回の已むなきに至つたと傳へられる。尙、同會議における米國側代表はプリンストン大學總長ハロルド・ウイルス・ドツヅ博士、イリノイ州選出上院議員スコット・ルカス、下院外交委員長ソル・ブルーム等であつた。

反樞軸國食糧會議議題決定

國務省は、反樞軸國食糧會議參加の各國と協議の結果、四月二十七日、五月十八日からヴァージニア州ホット・スプリングスで開催される同會議の議題次の如く發表した。

(ニ) 食糧消費改善に關する國內並に國際的目標の

設定

二、その他重要農作物

(イ) 各國における戰前の消費水準

(ロ) 農作物消費改善に關する國內並に國際的目標

の設定

食糧品の生産増強

(イ) 生産方途の究明

(ロ) 過剩生産物の處理

(ハ) 農產物改良方策

(ニ) 農業資源の擴充

(ホ) 農民の職業調整

食糧品特配施設の改善

(イ) 國内並に國際的經濟方針と農業問題の關係

(ロ) 國際貿易の擴張

(ハ) 農產物取引の改善

(ニ) 食糧分配方法の改善

(ホ) 薄給階級の消費改善

(ヘ) 生產過剩食糧品の國際的處分

(ト) 食糧品價格並に供給方法の設定

國際通貨米國案內容

—モーゲンソーア院に提出—

モーゲンソーア財務長官は、四月五日、上院に國際通貨に

關する所謂米國案を提出し、内容の説明を行つたが、同案は、モーゲンソーアの通貨問題顧問であるハリー・ホワイト財務省通貨問題調査部長の立案に成るもので、(一)資金の構成 (二)權限及活動 (三)通貨単位 (四)運營 (五)加盟國の政策の五章に分れてゐる。そしてその骨子は、米貨十金弗と等價のユニタスといふ國際通貨を設定し、加盟各國より出資して、少くとも五十億米弗以上に上る國際安定基金をつくり、爲替の賣買に應じ、世界通貨金融を操作するもので、加入國代表より成る理事會が

右安定基金を管理することになつてゐる。

しかし、各國はその出資額に應じて發言権を有するこ

となつてゐるので、米國に極めて有利である。なぜな

らば、理事會の決議は五分の四の多數を以て行はれるこ
とに成つてゐるが、全世界金保有量の大部分を獨占して
ゐる米國は、一國所有の最高限度である二割五分の票數
を持ち得ること疑ひなく、從つて少くとも理事會の否決
権は掌握し得るからである。要するに本案は金本位の再
現を企圖するものと云へよう。

【一 般】

ルーズベルト又も自由擁護論放送

米國獨立宣言の起草者なる三代目大統領トーマス・ジエフ・アーヴィングの誕辰記念日に當る四月十三日、ルーズベルト大統領は、ワシントンに新たに建立されたジェファーソン記念碑の除幕式に出席、式場から全國民に向つ

て一場の放送演説を試みたが、その内容は例の如く千遍

一貫な自由擁護論であつた。

互惠通商法更新案下院歲入委員會通過

ルーズベルト政権貿易政策の基調たる互惠通商法は

愈よ五月十二日を以て滿期失效するので、既に三月中旬、米國下院歲入委員會は同法三ヶ年延長案を上程、審議を

重ねてゐたが、一ヶ月半に亘る論争の後、同案は十四票對十一票を以て、四月二十七日、同委員會を通過した。同案

の審議に先立ち、ウエルズ國務次官はニューヨーク州商工會議所の年次午餐會に出席、互惠通商法を現行の儘更

新するか否かが米國政府今後の外交政策に對する試金石として反権輜障に於て重視されるだらうと述べ、ハルを要請した。

國務長官も亦同案に關する公聽會に出席、現行法の更新然し乍ら委員會内部の反ルーズベルト派は次ぎから次ぎに留保條項を提出、審議は微妙な米國政界の空氣を

反映して屢々白熱的場面を呈したが、結局ニードル派が依然優勢で、次の留保條項が悉く否決された。

一、互惠通商法に基き米國政府が各國と互惠求償協定を締結する場合、米國議會に右協定を拒否する権限を賦與する。

一、競争的農産物に關し通商協定で輸入税を引下げ、國內生産費以下でこれ等農産物が米國内に入るやうにすることを禁止する。

一、通商協定により米國の産業界が將來を脅かされる場合、當該産業部門が訴訟を提起する権限を復活する。此等の留保條項案は、悉く否決されたが、最後に、一、大統領に對し、その裁量に基き國際カルテルによつて支配される商品に、互惠通商法が適用されるのを停止出来る権限を賦與する。

農村軍三百五十萬員豫算成立

4376

農村の労働力不足の爲、今回組織されることとなつた農村軍關係豫算二千六百十萬弗は、四月十七日上院を通過し、大統領署名の爲、ホワイト・ハウスに回附、大統領は、四月三十日、右豫算案に署名した。

右農村軍は、米國の食糧不足對策として、召集猶豫の農村壯丁その他一般市民約三百五十萬を農村に勤貢するものである。

弗安定資金延長案下院通過

下院は、四月二十一日、弗安定資金二十億弗二ヶ年延長案を可決、同資金の直接的統制乃至管理の権限が大統領乃至財務長官に掌握されるやうな方法で同資金を使用せぬことの條件を附して上院に廻付した。下院は更に一九四四會計年度の農業關係權限案七億千五百九萬九千六百六十二弗をも可決して上院に回付したが、右の金額は農業増產獎勵のために使用してはならないとの條件を附した。

弗安定資金延長案上院通過

4377

上院は、四月二十二日、下院から回附された弗安定資金二十億弗二ヶ年延長案を下院案通り可決、直ちにルーズベルトの許に送付した。下院案は、同資金を、戰後世界通貨安定上設置方を提倡されてゐる五十億弗の國際資金に流用すべからずとの禁止條件を附してゐる。

商船建造追加豫算二十五億弗

ルーズベルトは、總額二十五億一千四百五十三萬八千弗に上る一九四三—四年度追加豫算案を四月十九日議會に提出した。同案は戰時海運局の商船建造費である。昨年度船舶喪失は建造量を百萬噸凌駕

ハリー・トルーマンを主班とする上院軍需實績調査委員會は、四月二十一日、報告書を發表して、一九四二年度の反樞軸側船舶喪失量は約一千二百萬噸で、同年度の米英船建造高合計を凌駕してゐると發表したが、これに對してノックス海軍長官は、同月二十三日に、

相_レ〔参照〕

「右報告は誤謬であつて、例へば委員會は明に總噸（註、商船内部の容積の表示）と重量噸（註、商船に満載し得る總重量の表示。總噸數より多いのを常とする）と混同してゐる。」

と否定したが、商船喪失數字の發表は、英國政府との公約を楯にとつて拒否した。しかしながら、委員側は公表前にこの報告書を海軍省に送附したのにも拘らず、同省で何等反対乃至改訂を加へなかつた事實を擧げて、現在迄のこの種報告の中でも、最も正確なものであるとの主張を堅持してゐたが、四月二十七日至つて、海軍省は、「一九四二年度の反樞軸側船舶の喪失量は、米英側船舶建造量より多く、總噸數で表示すれば約百萬噸の缺損となつてゐる。」

と發表して、トルーマン委員會の報告を部分的に認めた。（詳細は本號國際時報中「米英側船舶保有狀況の實

4378

参戦以来の進水商船千二百餘隻

戦時情報局は、四月十七日次の通り発表した。

「一九四一年十一月七日の参戦以来米國で進水した商船の數は千二百六十五隻に達した。」

高速度油槽船二百六隻建造

海事委員會は、四月二十一日、前線補給用として特別に設計された高速度油槽船二百六隻の建造計畫を發表した。一方リバティ型貨物船より大型で高速度の新戦時型船舶の建造計畫を併せ發表した。

インフレーション阻止大統領令公布

ルーズベルト大統領は、四月八日夜、インフレーション阻止並に戦時行政機構相互調整に關する大統領令を公布したが、右大統領令の要旨は戦時労働局、戦時人の資源委員會、物價調整局並に食糧配給生産局等の權限を統合調整すると共に、人的資源委員會長官ボール・マクナットに對しては一般市民の轉廢業禁止の權限を賦

委員に人的資源委員會長官ボール・マクナット、國防運輸局長官ジョーゼフ・イーストマン、内務長官兼國防石油調整局長官ハーロルド・イッキーズの三名を任命した。

戦時生産局は、從來その最高指導機關として長官ドナルド・ネルソンの下に副大統領及び陸海軍長官以下八名から成る委員會を有してゐたが、今回の改組により委員は十一名となつたわけで、最近戦時生産局の無能に關し猛烈な攻撃があつたのに對する同局の強化策と見られる。

戦局真相の隠蔽に憤慨し

戦時情報局員十五名辭職

戦時情報局が戦局の真相を米國民に發表しないとの非難はこれまで米國各方面で叫ばれて來た所であるが、四月十七日附「イラデルフィア・インクワイラー紙」によれば、戦時情報局寫字課（ライターズ・ディヴィジョン）の職員十五名は戦争の真相を國民に傳へることが出來ないとの理由で憤然辭職した。

與し、更に賃銀、地方税並びに俸給を「小鐵鋼様式」以上に引上げることを禁止するに在るものとみられる。

公債應募促進に躍起

百三十億弗の第二回公債募集は、四月十一日より開始されたが、政府は應募促進に躍起の態で、ラヂオ及新聞を使用し、全國到る處に國民は百弗宛を國庫に納入せよとの募集廣告をした。

公債現在高千二百五十億弗突破

財務省は、四月十七日、公債現在高が千二百五十一億三千五十七萬一千弗に達した旨發表したが、四月十一日より開始された百三十億弗大募債の結果かゝる異常な増加をみたわけである。十七日現在の公債總額は同日現在の發行限度千二百五十億弗を一億三千萬弗超過してゐるが、十八日以降發行限度は二千百億弗に擴張された。

戦時生産局強化

ルーズベルト大統領は、四月二十三日、戦時生産局

農務省、食糧消費節約を要望

農務省は、四月二十日、本年一月以降の肉類、魚類、牛乳、乳製品、罐詰、果實、砂糖等の民需消費高は、一月に同省が推定した豫想消費高を遙かに上廻つてゐる結果、情勢は重大化したと發表、國民の食糧消費節約を要望したと傳へられる。

卸賣物價指數

（ムーデー社調）

本年 四月 三 日	二二二・〇
十五日	二四九・〇
二十六日	二四六・六
二七八日	二四六・六
(一九三一年基準一〇〇とする)	
青少年犯罪激増	
聯邦檢察局長官エドガー・フーヴァーは、四月五日の	

下院において、次のやうに青少年犯罪激増の現状を説明した。

「最近青少年犯罪が著しい増加をみてゐる。この原因は戦争によりこれら青少年の手に入る金錢が増加して來たことと兩親達が外部の仕事に忙しいため家庭にあつて充分に子供らの監督をし得ないためである。二十二才以下の醜業婦は昨年に比較して六割四分増加してをり、その他の女子の犯罪件数も約二倍の増加をみてゐる。」

マコーミックの英帝國分割論

シカゴ・トリビューン紙社主ロバード・マコーミック大佐は、四月二十九日公然英帝國の分割を主張し、次の通り述べたと傳へられる。

「將來、澳洲、ニュージーランド、カナダ、スコットランド、並にウェールズ等はノースダコタ州その他と同様、一州として合衆國に編入されるであらう。英

ことを正式に拒否した。

ルーズベルト大統領罷業中止を勧告

ルーズベルトは、四月二十九日、メキシコ訪問及び全國視察旅行を終へてワシントンに歸着後、直ちに米國

鑛山労働組合議長ジョン・ルイス並に同會計書記長トーマス・ケネディーに宛てゝ罷業中止勧告電報を發した。

ルーズベルトの勧告をルイス拒絶

鑛山労働組合會長ジョン・ルイスは、四月三十日、遂にルーズベルトの復業勧告を拒絶した。

【軍事】

英

國

第八軍アンフィダヴィルに肉迫

モントゴメリー麾下の第八軍は、四月十日、チニジ

アレキサンダー大將第十八軍團編成

——チニジア前線の統合指揮に當る——

アの要港スファツクスを占領、同十二日、要港スーザを

占領、同十八日にはアンフィダヴィルの近郊に迫つた。

——(83)——

——(82)——

帝國が分割されようが、どうならうが、結局、北米合衆國に現在四十八ある州が將來少し多くなるまでのことである。」

残存失業者百萬人

四十萬人減少し、百萬人となつた旨發表した。

ルイス戰時勞動局の調停を正式拒否

アバラチア山脈地帯の無煙炭坑争議は、休戦協定期間剩すところ三日となつても、依然解決の曙光だにみえ

ず、米國鎌山労働組合會長ジョン・ルイスは、四月二十

七日、同地方の坑夫四十五萬に對し三十日夜半迄に妥協が成立しない場合には、總罷業を決行するやう指令した。既にベンシルヴァニア州西部では四萬の坑夫が組合の命令を待たずに罷業を開始し、これによる石炭の損害は百十萬トンに達してゐる。一方ジョン・ルイスは二十七日に至つて炭坑爭議の調停を戰時勞動局に委嘱する

第一軍チユニスに接近

アンダーソン麾下の第一軍は總攻撃當初はむしろ不振であったが、數的優勢を恃んで、四月下旬にはメジエス・エル・バブ地區方面で漸次進出し、四月末現在チュニスから二十數哩の地點に到達したと傳へられる。

チユニジア戰線英軍構成

北阿反樞軸軍總司令部は、四月三日、チユニジア戰線における英軍の構成を次の通り發表した。

第一軍(北部地域擔當) 第一戰車師團、第一、第九、第三十九師團

第八軍(南部地域擔當) ニュージーランド軍一個師團、インド軍一個師團、英歩兵二個師團即ちノース・カンバーランド第五十師團及びハイランダー第五十一師團

北阿戰域到着の反樞軸船舶一千萬噸

北阿反樞軸軍海軍部隊司令官サー・アンドリウ・カニンガム提督は、四月十六日、次の通り公表した。

「昨年十一月八日の米英軍北阿上陸以來合計一千五十萬噸の聯合國船舶が北阿の戰域に到着した。しかもこれらの船舶の損失は僅かに全體の二・五パーセントに過ぎなかつた。」
キプロス島駐屯英軍司令部は、四月五日、西亞各國から的一般旅行者のキプロス島立入りを禁止、同時に寫眞撮影その他に關し嚴重な禁止令を公布した。

キプロス島立入禁止令公布

中東軍司令官メートランド・ウイルソンは、四月十六日、カイロからアンカラに到着、直ちにヌーマン・メネメンジヨグル外相、アリ・リゲ・アルトゥンカル國防相並に參謀總長チヤクマク元帥等と會見協議を遂げ、同夜はチヤクマク元帥主催の歡迎晩餐會に臨んだが、引續き四月十七日も參謀本部首腦と協議を遂げた。尙、ウイルソンは、十九日夜半アンカラ出發に際し、新聞記者團に對

任印度派遣英空軍副司令官

印度派遣英空軍副司令官

「余が今回トルコを訪問したのは最近數ヶ月間の軍事的、政治的情勢の展開によつてトルコ軍首腦と連絡をとける必要が生じた爲である。今回の會談は、カサブランカ及びアグナ兩會談の續行とも云ふべきもので、就中アグナ會談で未解決の儘残されてゐた若干の具體的問題につき協議した。」

空軍人事異動

基府駐箚英空軍代表

中將 ダグラス・C・S・エヴァイル

任空軍參謀次長兼空軍會議委員

以上四月六日附

中東英空軍副司令官

中蔵 R・ドラモンド

任航空訓練會議員

中將 A・カロツド

任西北英空軍司令官(五部隊に分れ主として)
(スカル島方面、ギリシャ、クレタ島作戰指揮)

任中東英空軍司令官
(印度南岸よりチユニジアに到る海岸、マダガスカル島方面、ギリシャ、クレタ島作戰指揮)

任西北英空軍司令官(五部隊に分れ主として)
(地中海上シチリア島作戰)

以上四月十五日附

近東水域艦隊司令長官

英國海軍省は近東水域艦隊司令長官 ヘンリー・ハーヴィッドが健康上の理由で辭任、後任としては當分レーサム中將が職務を代行する旨四月二十八日發表した。

最大の潜水艦母艦沈没

海軍省は、四月十三日、英國潜水艦母艦「メットウエイ」は一九四一年地中海に於て沈没したと發表した。

尙、同艦は一九二九年八月進水、排水量一萬四千六百トン、四吋砲二門、四吋高角砲四門を裝備し、英國海軍が誇る最大の潜水艦母艦であつた。

英新型巡洋艦性能

海軍省は、新型巡洋艦フイジーアイランドが就役した旨四月十三日發表したが、同艦は排水量八千噸、艦載機

臺 六時及四吋高射砲其他砲數門を裝備するといはれる。

モスキート爆撃機の性能

四月下旬のロンドン發 A・P 電によれば、英空軍の流線型單葉新型爆撃機通稱「蚊」の性能は左の通りである。

ロールスロイス發動機一基裝備 簡單堅牢な木製構造を有し、製造容易、翼長五四呎二吋、胴長四〇呎九。五吋、火器二〇粍砲四門、O・三〇三機関銃四裝備、五〇〇ボンド爆弾四個搭載。

本爆撃機の通常使用する攻撃法は、地上三〇呎位の高度で敵地に侵入、高速度で爆撃目標上に迫り、目標上に到達の瞬間爆弾を投下した後、急角度を以て回避歸還するのである。本爆撃機は、優秀な暖房装置を有する英空軍唯一の飛行機で、乗員は防寒衣等着用の必要がない。

外 交

イーデン外相訪米使命を下院に報告

イーデン外相は、四月八日の下院において、過般の華府訪問に關して次の如く説明した。

「今回の華府訪問は一九四一年十二月のモスクワ訪問に匹敵すべき重大使命を有するものであつた。余はチヤーチル首相の承諾を得てハル國務長官が何時でも好都合の時に英國に來訪する様要請した。今次ルーズベルト大統領との會談における主要な議題は次の三問題に歸着した。第一は作戦事項に關するものであつて、その性質上詳細に報告することは出來ないが、之に關聯する、第二議題として、北阿問題及英國に多少の誤解を抱かせた米國政府の對ヴァイシー外交關係維持政策等の政治的協力に就ても協議した。しかし、後者に關する米國の眞意は、之によつて歐洲に向けて窓を

—(87)—

明けて置くためなので、これは英政府も支持する所である。北阿に多數の諜者を米國が送り込んだ事は大いに侵入を助けてゐる。ペタン、ラヴァルその他ヴィシー派に對する弱味が米國の行動を制限してゐるものではない。將來の對佛政策に關しては英米間に完全な諒解があることを確信してゐる。その他スペイン、ポルトガル、トルコ、その他歐洲中立諸國に關する協同

政策討議においても完全な諒解に達した。更に敵國及非占領國をも含めた爾餘の歐洲の事態に就ても討議して、これら地域の事態に關して忌憚なく情報を交換することは兩國共同の態度を強化することであるといふことに意見が一致した。

第三の問題は戰後經營であつて、敵國が降伏の際生ずべき實際問題及び新たな攻擊に對して世界を確保すべき措置を講ずる際に米英ソ支その他與國の當面する問題等戰争に關する諸般の問題につき討議したが、

4385

4384

ルーズベルト大統領と自分の意見は殆んど一致に近いものであった。今回の意見交換は一の情報工作で、英米両國の何れをも拘束しない點は、他の政府にものぞく語るべきである以上當然のことである。英國では、日獨伊が攻撃を繰返し得ないやう武力手段で監視するため或種權力機關の必要を認めるものであつて、自分は米國民も同意見であり、そして、この機關が實際上有效でさへあれば、爾餘の平和愛好國民はこれを支持することと信じてゐる。吾人は過去三十年中の八年間を對獨戦争に費したが、今猶何人も戦争の終焉を豫見し得ない。關係小國政府が戰勝後不用意に陥らない様に準備して置くことが必要である。華府に於ける諸會議は、此の方向への第一歩であつて、今後續行されるものである。」

イーデン諸亡命政権外相會議を招集

イーデン外相は、四月十六日、在ロンドン反権輪諸亡

命政権の外相連を招致して會議を遂げたが、會議の内容は昨年行はれた會議と殆んど同様のものであつた。尙、イーデンが米國カナダ訪問旅行の感想を述べたのはこれが最初で、本會議にはフランス國民委員會を代表するマツシグリが新に參加した。

ヒューゲッセン駐土大使擔任

西亞常駐相リチャード・ケーシーは、四月十四日、イラン首都テヘランに到着、次いでイラク首都バグダッドを訪問し、攝政竝にヌリ・サイド首相と會見、更に在伊拉克英國大使竝に英軍首腦と會談した後、四月十九日カイロに向つた。

食糧會議首席代表にロード外務次官

政府は、四月二十六日、來る五月十八日、米國のホツ

ト・スプリングスで開催される反権輪國食糧會議の英國首席代表にロード外務次官を任命した。

マーテル軍事使節スターーリンと會見

對ソ派遣英國軍事使節マーテル中將は、四月十一日、モロトフ外務人民委員、モスクワ駐劄英國大使カーの立會の下にスターーリン首相と會見した。

對ソ非軍需物資供給額五千萬磅

四月十五日附ロンドン・タイムス紙は英國の對ソ物資供給狀況に關し次の如き報道を掲げてゐる。

(一) 對ソ非軍需物資供給額

ウツド蔵相は曩に英國の軍需品の對ソ供給額は一億七千萬磅に上つてゐる旨發表したが、軍需品のほかにも巨額の非軍需物資がソ聯向けに送られてゐるのである。その額は五千萬磅と推定される。勿論兩數字間には若干重複する部分もあるが、これは極めて少額に止まるべく兩者とも大體前記の數字見當とみて差支へ

ないわけである。

(二) 對ソ非軍需物資供給徑路

對ソ非軍需物資の供給は總て英國商業會社を通じて行はれてゐる。即ちソ聯側の對英註文は直に同社に傳達され、同社は供給者側と交渉の上契約を取極め送状の作製、倉入れ、積込み及び實際輸送に當る。對ソ供給物資の内には各種製造機械、アルミニウム及び亞鉛等原料資材、小麦、茶等の食糧品が含まれてゐる。かかるソ聯側の需要に應ずるため、英國商業會社は英國の各地及びその他のスターーリング・ブロツクからその供給を仰いでゐる。即ち濠洲、ニュージーランド、シリヤ、イラク及びペルシャから羊毛を、カナダから亞鉛、クローム鐵、硅素鐵等金屬類を、パレスチナ及び印度からカンバースを、トルコから鐵器類を、東アフリカからシザル麻及びコーヒーを、セイロンから茶及びゴムを買付けてゐる。その輸送はベルシヤ及びイン

ド・ルートを通じて行はれるが、この輸送も英國商業會社の所管となつてゐる。なほ現在右ルートの他新たにイラク經由のルートを開設中である。

國際通貨英國案内容

—ケーンズ大藏省顧問提案—

大藏省顧問サー・ケーンズの戦後に於ける通貨量に金融制度改革案なるものが四月七日倫敦に於て發表された白書中に掲げられてゐる。その骨子とするところは、先づ米國のモーデンソーケと同様に國際新通貨を設定し、これをバンコールと呼ぶのであるが、バンコールが米案ユニタスと違ふところは、その金に對する價値が後述の聯盟評議會で決定され、絕對不變のものではないこと、そして、金によつてバンコールは買ひ得るがバンコールによつて金を請求し得ないこと、即ちユニタスほど金との聯繫が密接でないことである。

そして、金の出資を要しない清算機關である國際清算

首相に對し、政争休止協定につき、

(イ) 戰争完遂を標識としなければ何人も補缺選舉に當選は期待出来ない實情であるから、選舉をその他の問題について争ふことは差支ないであらう
(ロ) 政争休止協定が存するにも拘らず補缺選舉は、事實上無所屬政派の立候補によつて争はれてゐる
(ハ) 勞働黨は右協定の爲束縛されてゐる
(ニ) 米國は戰時中議員改選を行ふが學國一致を少しも阻害してゐない。
(ホ) 右協定の結果無所屬のコモンウェルス等少數政派が擡頭してフランスにおける如き少數黨分立をみる惧れがある

等を擧げて、協定廢棄意図の有無を質問したが、チャーチル首相は、各政黨が政争休止協定を堅持することにより戰爭完遂の決意が愈々明確に表示されるのであり、學

4月十五日、勞働黨議員シンウェルは、英下院に於て

チャーチル政争休止協定廢止に反対

【一般】

要するに、このケーンズの英國案は、米國案の金本位

なのに對して、清算本位と云ふことができる。

尙、この聯盟には、加盟國政府により任命される聯盟評議會を置くのであるが、各國はその貿易額に應じて發言權を有する。即ち、信用供與の割當は開戦前三年間に於ける各國貿易總額の七割五分を基準にするといふのであるが、これは金保有量が殆んどなく、數多の自治領を有する英國にとつて頗る有利であることは多言を要しないであらう。

評議會と置くのであるが、各國はその貿易額に應じて發言權を有する。即ち、信用供與の割當は開戦前三年間に於ける各國貿易總額の七割五分を基準にするといふのであるが、これは金保有量が殆んどなく、數多の自治領を有する英國にとつて頗る有利であることは多言を要しないであらう。

國內閣を組織しつつ選舉を争ふのは不合理であり、少數政派は永く其の命脈を保つとは考へられないと答へた。

右に關し、四月十六日附ロンドン・タイムス紙及びデーリーテレグラフ紙の社説は、協定繼續の必要なことを支持したが、タイムス紙は、右支持の後に學國內閣が補缺選舉に於て戰爭の勝利及び戰後の計畫につき有権者の充分な支持を受ける政綱を有する必要を指摘してゐる。

明年度歲出五十七億五千萬磅

英國は戰爭の長期化に伴ひ増大する戰費を賄ふ反面激化するインフレーションの脅威を克服するため深刻な苦悶を續けてゐるが、ウッド藏相は、四月十二日の下院において、昨年度豫算實績並に一九四二、四四年度豫算につき詳細な説明を行つた。右一九四三、四四年度豫算案の内容次の通り(單位百萬磅)

歲出

五、七五六

—(92)—

海外投資還流

六〇〇

差引純歳出

五、一五六

歳入

二、八〇〇

現行税法による歳入

一〇七

増税による歳入見込

一一四

合計

二、九〇七

ビール税

三三

酒精飲料税

九

葡萄酒税

一

煙草税

五八

(軍隊用は引上げぬ由實收はこれより少い見込)

六

物品購入税

一一六

合計

4300

なほ歳出総額中に占める歳入の割合は次の如く増加してゐる。
 前掲一九四三—四四年度豫算案によると、歳出は五十一億五千六百萬磅と昨年度の五十二億八千六百萬磅より四億七千萬磅の増加をみたに止つた。本年度の歳出が増加したことは戦争努力が強化されると云ふよりは物價騰貴に基くものである。本年一月乃至三月の間における支出ですら、年にすると今回の豫算よりも多く、例年この時期には政府支出の膨脹をみると常であるといふことを考慮するとしても、今回豫算が歳出を過少に豫定してゐることは争へない。また戦争以來大藏省は常に物價騰貴を認めるなどを躊躇し、このため歳入歳出の見積り

—(93)—

4391

を過少に行つてゐたのであつて、この點からしても本年度の歳出見積が過少であると推論出来よう。

ウッド藏相は、消耗性資産の性質を有する鑄物、石油等の採掘に當る會社にして、戰時における増産のため一時的に原價が引下げられ、平時よりも多くの利潤が收められた場合には、超過利得税徵收に當り何等かの手心を加へる筈であると約した。

他方、歳入もまたウッド藏相の見積額を超過する見込であるが、これは國民所得の膨脹によるものである。新稅は全部間接稅であるがこれは現行直接稅が既に少額收入層にも苛烈に過ぎ、高額所得に對しては殆んど強制徵收同様の現状にあるに鑑み、直接稅を更に増加することは明らかに企業を阻害し、國民の士氣を沮喪せしめることが明瞭であるからである。

直接課稅(所得稅その他)は、一九一四年には全國庫歲入の四七・八パーセントであつたものが、今次大戰勃發

ウッド藏相載費支出情況報告

藏相キングスレー・ウッドは、四月十六日の下院において、戰費支出情況の報告を行つたが、報告要旨は左の通りである。

英國は依然としてチュニジアからビルマに至る戰線の
反樞軸國戰費の支辨を獨りで引受けでゐる。この結果イ
ンド、エジプトその他諸國から英國が借りてゐる金額は
年四億磅から五億磅の巨額に達する。更に南米及び中
立各國からの物資の購入、反樞軸諸國からの船舶備船等
による政府の對外支拂は莫大な額に上り、そのために一

九四二年度における英國の對外負債は六億三千萬磅、一
九四〇年以降の合計は二十一億八千五百萬磅となつた
が、一九四三年度においてもこの對外負債は六億磅に達
しよう。戰前における英國の對外債權は長期に亘る過去
の蓄積によつて約三十億磅と見積られた。従つて現状を
以てすれば英國は今や債權國から一轉して債務國に轉落
せんとしてゐるのである。

英國銀行保證發行限度引上げ

英國銀行は、四月中旬、保證發行限度を五千萬磅方擴
張したが、これにより發行限度は遂に十億磅となり一九

三九年九月大戰勃發當時の五億八千萬磅に比し四億二千
萬磅の增加となつた。保證發行限度の擴張は今回で九回
目で、一九三九年九月の二億八千萬磅、昨年十二月の七
千萬磅を除きいづれも五千萬磅の引上げであつた。

十磅以上英國銀行券の發行停止

藏相キンクスレー・ウッドは、四月二十二日の下院に
おいて、爾後英國銀行は十磅銀行券及び同額面以上の銀
行券の發行を停止し、また從來發行されたこの種銀行券
は機會ある毎に回収をして行く旨公表した。右措置によ
る效果は、

一、銀行券の發行及び處理が著しく省略簡易化されるこ
と

二、爲替統制違犯の取締を側面から容易ならしめること
と觀測されてゐるが、老大なる戰費支出に伴ふ紙幣印刷
能力の増大を容易ならしめようといふ意圖に基くものと
みられる。

プラツケン情報相BBC放送の效果説

4393: 四月八日の英國下院で、獨立自由黨提出のBBC放送
局改革案が上程討議されたが、討議の結果百三十四票對
三票の絶對多數で否決された。右討議に際し、プラツケ
ン情報相はBBC放送の効果を左の如く誇稱した。

「BBCと情報省間の現行規定は相互の協調によつて
よく運用されており、問題は只財政上の困難だけであ
る。又、歐洲サービスは最も重要であり、二十七箇國
語、一日三十八時間半（五時より五時四十五分を除く）放
送せられる外に、二十六ヶ國語の米國仲継放送がある。
重要ニュースは三時間以内にドイツを除く全歐洲に放送
され流布される。フランスその他の被占領國では聽取者
が多く全歐の聽取者は二千萬乃至三千五百萬に達してゐ
るが、現在歐洲には約五百の祕密新聞があり、その材料
も主としてBBC放送より得てゐる模様である。」

クリップス飛行機生産實況説明

—(95)—

—(94)—

四月二十一日附タイムス紙は、ロンドンのギルド・
ホールで行はれた會合の席上、英國飛行機製作相スクット
フォード・クリップスの行つた演説を掲載してゐる。内
容は次の通りである。

「一臺の飛行機の製作に當つては、約七萬の大小部
分品が使用されており、英國の飛行機增産を維持する
ためにはこれ等の部分品が是非とも必要である。飛行
機並にその部分品の製作に當つてゐる工場は英國内に
一万五千を算へてゐるが、我々は製作品の量よりも質
に重點を置いてゐる。我々は常に飛行機の型の變更を
計つてゐる。現在の飛行機の型は常に變更されてその
行動性の改善が計られており、更に氣候の要求に應じ
得る様になつてゐる。工場の經營は極めて少數の例外
を除き圓滑に行はれており、更に設計技師も偉大な業
績を残してゐる。しかし不幸英國には熟練工が未だ充

分とは言へず彼等の内の約四十パーセントは婦人工で

ある。

余の遺憾に思ふことはこれ等の婦人が未だ高級の業務乃至管理關係事務に就いてゐないことである。

工場側と職工の間では特に共同生産委員會を設置してこれによつて生産問題の審議検討を行つてゐる。本年上半期に製作を完了した飛行機は昨年の同期より五十五パーセントの増加を示してゐり、特に爆撃機の生産高は増加をみてゐる。英國空軍が直接行つてゐる小規模の飛行機の修理や海外で行はれてゐる飛行機の修理事業のほかに、英國飛行機製作省が國內で毎月修理してゐる飛行機は飛行機の全月產額の三分の二に上つてゐる。國內並に海外で使用される飛行機の部分品は前述の如く相當の數に上つてゐるが、労働力と資材が與へられぬ限りこれ以上の増産は困難である。

生産単位を増大し、且つ資材の濫用を計ることによつて現在以上の増加を實現し得る譯である。カナダ並

に濠洲の飛行機製作業は英國のそれと密接な關係を維持してとり、三國は技術上の情報の交換のため特に一つの機關を開設してゐる。

カナダは特殊製品をもつて英國を援助してゐる。最近英國の技術使節一行が米國から歸國したが、これら等技術家の研究調査は我々の戰争努力に最大の貢献を行ふであらう。今日我々は英國の大型爆撃機に米國製の發動機を取り付けており、又他の飛行機には英國製のプロペラを使用してゐる。かくして英米兩國間には機械並に設計の完全な交流が行はれてゐるのである。

三月中の空襲被害

英國空軍省は三月中空襲による被害は死者二百九十三名、負傷者四百三十九名に達した旨四月十三日發表した。

開戦以來交通事故増大

4395 開戦以來英國では交通事故による死傷者數が著しく増加してゐるが、四月十八日英國政府當局では一九四一年度の交通事故につき次の通り發表した。

「一九四一年度における英國の交通事故による死傷數は十四萬七千五百四十四人に達した。戰爭が始つて以來交通機關の數が相當減少してゐるにも拘らず事故は戦前より増加してゐる。例へば一九三九年一月には交通事故による死者は一日一人の割合であったが、一九四二年一月には三名となつてゐる。又、昨年度の死傷者總數のうち六分の一は十五歳以下の小兒であつた。」

愛蘭共和軍反英示威
——米軍撤退要求に群衆喝采——

4396 反英革命祕密結社「愛蘭共和軍」の武装隊員は、四月二十四日、突如ベルファスト自抜きの大通りの映畫劇場を占領、復活祭示威大會を開催して氣勢を擧げ、鎮壓に駆けつけた警官隊と大亂闘を演じた。同大會には、最近ベルファスト刑務所から脱獄した愛蘭革命軍の園士ジエームス・スチールとマツカティアとが姿を現し、各々熱辯を振つたが、就中マツカティアは米軍の撤退を要求して次の如く述べ、群衆の喝采を博した。

「北アイルランドがアイルランド本國から分離されてもる結果、現在の如く多數の米軍が北アイルランドに駐屯するやうな事態となつた。これはアイルランドの國家的權利の侵害であり、全アイルランド人は學つてこれに抗議するものである。我々は米國政府に對し、アイルランドと英國の間に戰端が開かれれば、米軍もこ

れに捲込まれることは殆ど不可避であり、英國と共に大西洋憲章を作成した米國はアイルランド侵略の帝國主義的侵略戦争を行ふ結果となることを警告したい。」

ド・イツ

獨伊首脳部會談發表

總統大本營は、四月十一日夜次の通り發表した。

「ヒトラー總統は、四月七日から四月十日までの間ムツソリニ首相と會談を遂げた。ムツソリニ首相はイタリア軍參謀總長アムブロージオ大將、バステイニアニ外務次官その他イタリア外務省の代表並びにイタリア軍參謀總長アムブロージオ大將、バステイニアニ外務次官その他イタリア外務省の代表並びにヒトラー總統はドイツ元帥ヘルマン・ゲーリング、外相フランツ・リツベントロップ、大本營幕僚長カイル元帥、海軍司令長官デニツツ元帥、ドイツ陸軍參

同の利益の基礎に立つて各國民の協力を保證する領域となり、世界の經濟資源は正當に配分される結果とならう。」

ヒトラー總統並にムツソリニ首相間の討議並びに兩國代表間の會談は極めて友好的な雰圍氣の裡に終始した。」

獨伊首脳部會談に關する論調

四月十二日のベルリン各紙は獨伊両巨頭會談の意義を強調してゐるが、黨機關紙フエルキシャー・ベオバハターの論調は左の通りである。

「兩巨頭會談の公報が獨伊兩國民並に兩國首脳自身の不變の決意を表明してゐるのに徴しても明瞭な様に、今回のヒトラー總統とムツソリニ首相の會談は、権力が如何なる妥協をも排し、完全なる勝利を達成する迄戦ひ抜く決意を明かにした點に意義がある。最後の勝利獲得に権力が利用し得る戰力を検討すれ

謀總長ウイトラー將軍を帶同した。ローマ駐箚フオン・マツケンゼン大使並びにベルリン駐箚ディノ・アルフレーリー大使も亦同會議に參加した。會談は廣汎に互り、戰争の共同遂行に關聯する一切の問題は勿論、全般的政情を檢討し、一切の分野において採擇されるべき施策に關し、完全な意見の一一致が達成された。

ヒトラー總統並びにムツソリニ首相は、最後の勝利が達成され西方よりすると東方よりすると問はず、歐亞兩大陸を脅威するあらゆる將來の危險が完全に取り除かれるまで、獨伊兩國の總力を全面的に展開するとの基礎の上に戰争を遂行する獨伊兩國民並びに兩國の首腦自身の不變の決意を更めて表明した。歐洲文明を擁護するために、且發展と協力とに關する各國民の權利を確保するために、権力が實現しようとする共同の目的は重ねて確認された。これ等諸國が、勝利を收める場合には、歐洲は各國民に對し、各國民共

ば、先づ獨伊兩國だけでも一億六千萬の人口を有する外、爾餘の同盟國と占領地並に東部戰線で解放されたソ聯國民を計算に入れれば、人的資源は實に龐大な數に達する。更に現在権力は、事實上歐洲大陸の全體を制覇しており、この地域には殆ど總ての重要な軍需資源が存在する。ドイツは歐洲で最も豊富な石炭資源を有し、更に巨大な礦產資源を擁して記錄的な生産を續けてゐる。西歐諸國の高度に發達した工業と莫大な資源の寶庫も権力の掌中に收められてゐる。特に権力の資源が交通の發達した單一地域内に在り、内線作戦に最も有利である事實を看過してはならない。権力の有する今一つの特徴は獨伊兩國民とも國家社會主義的革命の洗禮を受け、その創造力は民主主義國の追随を許さない事である。」

ヒトラー總統ルーマニア首相と會談

ルーマニア首相アントネスコ元帥は、戰時内閣の書記

官長ダヴィデスコ大佐等を帶同、四月十二日、ヒトラー
總統を訪問し、前後二日間に亘る會議を遂げ、十四日正
午ブカレストに歸任した。右會議にはドイツ外相フォン・
リツベントロップ竝に總統大本營幕僚長カイデル元帥も
出席した。尙、總統大本營は、十四日、次の通り發表した。

「ヒトラー總統は、四月十二日、ルーマニア首相アン
トネスコ元帥を引見、一日間に亘つて會議を遂げた。
全般的政治情勢並にボルシェヴィズム及びアングロサ
クソン全權主義に對する共同の戰ひに關する討議は、

獨羅兩國間の友好關係竝に三國同盟に參加する各國の
搖ぎなき團結の精神の内に進められた。ドイツ外相フ
ォン・リツベントロップ竝に總統大本營幕僚長カイデ
ル元帥もまた討議に參加した。

右會議において、ヒトラー總統竝にルーマニア首相
は、妥協なき勝利が確保されるまで歐洲の敵國に對し
凡ゆる可能な手段をあげて不屈の戰争を繼續する絕對

的決意を再び確認した。ルーマニア國民は権輜各國と、

相携へて最後の勝利を確保するまで戰鬪を繼續し、以
上歐洲の解放に對する歴史的貢獻によりルーマニア國
民の將來を保證するであらう。アントネスコ元帥は、
ルーマニア戰時内閣總長ダヴィデスコ大佐その他ルー
マニア參謀本部の幕僚を帶同、會議に參加した。ブカ
レスト駐劄ドイツ使臣フォン・キリンガーと竝にルー
マニア最高司令部付ハンゼン將軍も同じく會議に參加
した。」

ヒトラー總統ハンガリー攝政と會議

ハンガリー攝政ニコラス・ホルティ提督は、四月十六
日、總統大本營にヒトラー總統を訪問、二日間に亘り、
軍事政治上の諸問題につき隔意なき意見の交換を遂げた
が、總統大本營は、同會議に關し十八日次の如く發表し
た。

「ハンガリー攝政ニコラス・ホルティ提督は、四月十

六日一日間に亘る會議を行ふため總統大本營に到着、
ヒトラー總統は一般政治情勢及び共同の敵に對する
戰争に關する諸問題につきホルティ攝政と隔意なき意
見の交換を遂げた。同會議にはリツベントロップ外相

も參加した外獨軍總監カイテル元帥とハンガリー軍參
謀總長ヴィテス・フレェンス・ツォン・バテリイ大將との
間にも軍事問題に關し意見の交換が行はれ、會議は獨
洪兩國の傳統的友好關係と兩軍の協力精神に基いて順
調に進められた。ヒトラー總統及びホルティ攝政は、
共に最後の勝利を贏ち得る迄ボルシェヴィズム及びそ
の同盟國英米に對する斷乎たる戰ひを先達する固き決
意を表明した。ハンガリーは、曾つてボルシェヴィ
ズムの恐怖を體験したのであるが、盟邦に對するその
脅威を完全に拂拭するまで三國同盟加盟國と肩を並べ
て戰ひ抜き、歐洲の解放とハンガリー自體の自衛のた
め全努力を傾注するであらう。ハンガリー攝政ホルテ

イ提督の外會議には參謀總長ヴィテズ・ツォン・バテリ
イ大將、ツトライ駐獨大使が參加、ドイツ側からは、
フォン・ヤゴウ駐洪大使も參加した。」

ヒトラー總統スロヴァキア首相と會議

總統大本營は、四月二十三日、公報を以て次の通り發
表した。

「ヒトラー總統は、四月二十二日、總統大本營に於て
スロヴァキア國大統領テイソ博士以下首相トカ博士、
サノ・マツハ内相、カトロス國防相を引見した。總統は
ボルシェヴィズムと米英的金權主義に對する歐洲の自
由獲得戰の問題につきライン大統領と協議を遂げた。
會議にはフォン・リツベントロップ外相、總統大本營幕
僚長カイデル元帥、スロヴァキア首相トカ博士、内相
サノ・マツハ、國防相カトロス將軍も出席した。會議は
ドイツ竝にスロヴァキア兩國民の間の戰友的精神と友
好的精神を現はしてゐた。スロヴァキア陸軍の勇敢な

る諸部隊は現在獨軍と肩を並べて最後の勝利を目指して渾身の努力を傾注してゐるのである。更にプレスブルグ駐箚獨公使ルディン、ベルリン駐箚スロヴァキア使節ケルナク、並にスロヴァキア國防省附シユリーバー大將もテイソ博士の總統大本營訪問に參加した。

ヒトラー總統ノルウエー首相と會談

總統大本營は四月二十日、次の公報を發表した。

「ヒトラー總統は、四月十九日、大本營にノルウエー首相ヴィドクン・キスリングを引見した。完全に相互的信賴の精神で遂行された長時間に亘る討議に於て、總統と首相とは歐洲の解放戦争に關する諸問題について自由に會談を遂げたが、會談の結果検討された一切の問題については双方の意見の完全に一致してゐることが實證された。更に双方とも歐洲文明の保全と歐洲大陸に於ける各國民の自由と獨立のために並にゲルマン民族共同の目的のために、相携へて戰闘を繼續する

斷乎たる決意を表明した。右戰闘はボルシェヴィーキの脅威並に金權主義的脅威が完全に除去され、最後の勝利が確保される迄全力を擧げて遂行されるであらう。

今回の會見には、ノルウエー占領地民政長官ヨゼフ・テルボフエン、ハンス・ランメルス、總統官房長アルベルト・ボルマン黨官房長が出席した。

ヒトラー總統クロアチア首相と會談

ヒトラー總統は、四月二十七日、總統大本營を訪談に關する總統大本營發表は次の通りである。

「ヒトラー總統とクロアチア首相ハヴェリチ博士を訪れたクロアチア獨立國首相アンテ・パヴォリチ博士を引見した。總統と首相はボルシエヴィズム及びアンゴロ・サクソン資本主義に對する権輜諸國の共同の戰争に關する政治並に軍事情勢につき懇談した。會談にはリツベントロップ外相、クロアチア外相ブダグ博士並

にドイツ國防軍總監カイデル元帥も參加したが、會談はドイツと青年國家クロアチア並に勇敢なクロアチア國民の間に漲る親密且つ友好的精神の下に行はれた。バヴェリチ博士は権輜の側に立つて獨立國クロアチアの自由を防衛し、共同の敵に對する妥協なき勝利に對し全力を集中するクロアチア國民の決意を披瀝した。

會談にはアグラム駐在獨軍代表グライゼ・フォン・ホルステナウ將軍も列席した。」

ヒトラー總統佛政府主席と會談

總統大本營は四月三十日、午後次の通り發表した。

「フランス政府主席ピエール・ラヴァルは、フォン・

リツベントロップ外相、イタリア外務次官ペスティア

ニー出席の下に、二十九日、總統大本營においてヒトラー總統に引見された。右會談において三國代表は獨伊兩國とフランス國との間に現存する問題について充

分なる理解を示した。権輜各國がボルシェヴィズムと

結託する米英兩國の金權主義に對する抗争を遂行し、

新歐洲の再建に邁進するに當り、フランス國がいかなる割當を分擔して以上の努力と犠牲とに寄與するかについては、絶對的に客觀的の立場から検討が加へられた。又、右貢獻の結果、フランス國が受くべき利益も討議された。」

ヒトラー總統テニツツ元帥敘勳

ヒトラー總統は、四月七日、海軍總司令官兼潛水艦隊司令官カール・デニツツ元帥を引見、最近の潛水艦の目覺しい活躍と同元帥の卓越した作戰指揮とを嘉賞し、同元帥に鐵十字騎士柏章を授與した。

ヒトラー總統ガリボルヂ伊軍司令官敘勳

ヒトラー總統は、四月一日附公報をもつて、ヒトラー總統が、四月一日、東部戰線伊第八軍司令官ガリボルヂ將軍を引見、會談を遂げた旨發表した。

右會見には獨國軍總監カイデル元帥も出席した。會見

後、ヒトラー総統はガリポルチ將軍に對し騎士鐵十字章を贈與した。

ボーランド將校虐殺事件公表

軍當局は、四月十日、國際記者團をスマレンスク前線に招致、附近におけるボーランド軍將校一萬人の墓地を發掘、ダ・ベ・ウがこれを將校を虐殺したと發表した。

クロージツク藏相フインランド訪問

シユウエリフオン・クロージツク藏相は、大藏省財政局長シユロール博士、外務省東歐局長フォン・グルントヘル公使を帶同、四月十一日、ヘルシンキに到着した。

對土通商協定成立

獨土兩國代表は、通商協定更新に關し、三月二十八日以來アンカラにおいて交渉を重ねてゐたが、四月十八日に至り妥結を見、ドイツ代表バーベン大使、クロディウス通商局長、トルコ代表メネメンジヨグル外相、ブルハニ・ジイニサヌスとの間に正式調印を了した。同協定

は、舊通商協定を基礎として物資の交換並に支拂方法を規定してゐるが、新協定に期限はなく締約國の一方から廢棄申出がない限り存續することとなつてをり、差當り一九四四年五月末迄に一億二千萬ライヒスマルクの物資交換が約定されてゐる。ドイツ政府よりはトルコにおいて特に必要とする工業製品を、トルコ政府からは生産原料をそれへ供給する豫定である。

和平斡旋に對する外務省聲明

外務省は、四月二十日、「ドイツは現在媾和の如きは全然考慮せず、たゞ妥協なき勝利に向つて邁進するのみである。」と聲明した。右は最近スペイン外相ホルダーナ伯が、和平斡旋の用意あることを聲明したのを以て、英國側がドイツの和平に對する打診風船であると宣傳してゐることに對するドイツ政府の公式否定である。

外交異動並に新次官經歷

總統大本營は、四月十七日夜、次の外務異動を發表した。

外務次官

エルンスト・フォン・ワイゼツカーメ任

任ヴァチカン駐箚大使

ハンス・ハインリッヒ・デイコーフ博士

任マドリード駐箚大使

外務次官補兼政務局長

エルンスト・ウエルマシ博士

任公使

ヴァチカン駐箚大使

總統大本營連絡官、公使

マドリード大使館參事官 アンドール・ヘンケ

任外務次官

アドルフ・フォン・シュテーンガラハト博士

任南京駐箚大使

總統大本營連絡官、公使

マドリード大使館參事官 アンドール・ヘンケ

任外務次官補兼政務局長

外務次官補兼條約局長

因に新次官の経歴は左の通りである。

Gustav Adolf Steengraeht Von Mayland 男爵は一九〇一年 Cleve 郡 Mayland に生れた。 Köln Bonn 兩大學にて法律農業及經濟學を學び一九三二年司法官試補試

驗に合格して、同年 SA に入隊、現在 Oberfuehrer (大佐級)である。一九三六年外交官となつて、リッベン・トロップ事務所に入り、同年十月末在英大使館に在勤、一九三八年本省内幹事を歴任し、一九四一年二等公使、一九三九年十一月以降リッベン・トロップ外相の側近に在つて、之を輔佐し、今日に及んだ。

駐西大使赴任

新任マドリード駐箚ディツケンホフ大使は、四月二十一日朝、夫人同伴マドリードに到着した。驛頭スペイン外務省儀典課長をはじめ獨代理大使以下大使館員等多數の出迎へをうけた。

總統の誕辰慶祝布告

ヒトラー總統五十四回の誕辰に當り、ドイツ空軍總司令官ゲーリング將軍は、四月十九日、次の布告を發表した。

「ドイツ國民は、ヒトラー總統の誕辰に當り、茲に衷心から慶祝の意を表明し、戰爭下の重大時局に際し

神が總統と總統の事業とを祝福し、且擁護せんことを祈念して已まない。來るべき一年間においても神が總統に對して力と健康とを惠まれんことを。總統の力強き掌中にドイツ國の運命が横たわつてゐる。さる冬の

數ヶ月間、總統は再びその不屈の力を仕事の上で表はした。極度に猛烈な大量攻撃によつて赤軍はドイツ戰線を席卷し、ドイツ國への門戸を開かうとしたのである。然し乍らヒトラー總統の精神と意志とは、英雄的な戰闘を繼續するドイツ軍を鼓舞し、果敢な攻撃に轉じて赫々たる勝利へ導いたのである。

歴史は、簡単に獲得された成功に依つて一個人の人間

の偉大さを判断するやうなことはない。最大の危機に際會しても、不撓不屈、一切の敵勢力に抗争しながら飽くまで毅然たる態度を堅持する人こそ、最大不死の名聲を博するのである。驚くべき抵抗に對する巨人的鬭争においてもヒトラー總統は全力を擧げてドイツ國

民の擁護と西洋文化の救濟に努力してゐるのである。過去數十年間に亘つてヒトラー總統の生涯は、ドイツ國民とドイツ國に對する奉仕の生活であつた。而も過去數ヶ年の鬭争に際して我々は一層強くこの事實を痛感したのである。ヒトラー總統は一瞬の安きを偷まず、殆んど超人的な仕事の重荷を双肩に擔つてゐる。總統の勿體振らぬ軍人的態度、如何なる犠牲をも惜しまぬ假借するところなき責任觀念こそは、我々總てに對する絶好の錦鑑である。今やドイツの國民の存亡がこの一戦に懸つてゐる時に當り、我々は從來にも増して、ヒトラー總統に倣はなければならない。今回の戰争の結果は勝利か然らずんば全滅である。ドイツ國民にドイツ人の一人々々にとつて最大且つ決定的な試練の時が今や到來した。過去數ヶ年の成功的の時に我々が總統に約束したところを今やこの戰争の最も重大な暴風雨の真只中に忠實に實踐するであらう。これは前

線に對して當て嵌まるのみならず、國內戰線に對しても同様當て嵌まるのである。今回の戰争が戰場において、竝に空からの猛爆に曝されてゐる地帶において、ドイツ國民に對し要求してゐるところが如何に苛烈であり、如何に深刻であるかはヒトラー總統の熟知するところ、而も總統はすべてのドイツ人に對し自己を没却した仕事と全力を傾注する努力とを要求してゐる。勿論總統自身のためではない、祖國の自由のためであり、ドイツ國民とドイツ國との存立のためである。

ドイツ國民諸君、今日茲に將來我々はヒトラー總統に對し變らざる信賴を示し、言葉によつてではなく行動によつてその大業に協力する斷固たる決意を明にしようではないか。我々の歴史の最も決定的な時期に際會し、我々は誇るべき久遠のドイツ國のために勇敢且不敗の戰士たることを質證しようではないか。我々の眼を傍目も振らずに我々の義務に注がう。一切を捧

げ能力の限りをつくして、この戦争によつて我々に課せられた諸要求を充さうではないか。これこそヒトラー総統五十四回の誕辰に當り、總統に對する我々の贈物である。」

ゲツベルス宣傳相開戦以來の経過回顧

ドイツ宣傳相ゲツベルス博士は週刊「ダス・ライヒ」誌四月下旬號において、歐州戦争開始以來の経過を回顧し次の通り述べた。

「権軸軍の偉大な戦果は開戦以來最初の三分の二の期間に達成された。これ等の戦果は一切の希望と豫想とを遙かに凌駕したが、反権軸各國から見れば全くの豫想はづれであつたらう。英國は全世界に誇る帝國を基礎とし絶対に安全な立場から今回の戦争を開始したのであるが、今回においては英國が依然同様な立場に立つて戦争を繼續してゐるといふことは出來ない。假りに英軍が遠隔な戦場において多少の戦果を收め

微たる戦果を收めたに止まる實情に拘らず、依然として最後の勝利を信じてゐるとすれば、我々の勝利の見込はどれだけ大きいであらうか。歐洲の大半は確實に我々の掌中にあり、一切の危險な境界線には、巨大な要塞線が構築されてゐるので、ドイツ軍は、東部戦線において意を安んじて、何等妨げられることなく作戦を遂行出来るのである。英空軍の爆撃戦術に対する報復は現在控へ目であるが、最終的な回答は何れの日にか英國人の頭上に下るであらう。我々は此處彼處で多少の挫折をしたが、それは前線と作戦中心との距離が非常に遠いからにすぎない。作戦の中心自體は安泰である。一體全體英國人は何を根據として権軸軍の敗北を期待してゐるのか、我々が突然何等の理由もなく、自發的に戦闘を停止しない限り、我々は實際上不敢である。

而も我々が自發的に戦争を止むるやうなことがないのは何人も疑はない所であらう。反権軸陣營は時々アングロ・サクソンの戦果なるものを誇大に宣傳し、権軸各國民に印象付けようとしてゐるが、かくの如きは狡猾な偽報策であり謀略宣傳にすぎない。更に、我々が中立國を通じ和平の觸手を延したといふことを彼等が屢々宣傳するが、勿論彼等が傲然と嘴く所によれば、以上の觸手は何時でも一蹴されてゐるのである。しかし乍ら、現在の戦争のやうに決定的歴史的重要性を持つ軍事的抗争を、今中断すれば、數年ならずしてもう一度、我々が戦ひを強要されるであらうことを承知しながら、如何なる理由で中斷するわけがあらうか。

今この場合のやうに全面的勝利を收めるよい機會は決して二度と來ないだらう。「時」は敵方を支持してゐるといふ主張は、最早敵國陣營ですら信ぜられなくなつた。勿論長期に亘る戦争で國民の精神力並に體力の

得たとしても、これ等の戦果は單に相對的な意義をもつにすぎない。絶對的な見地からするならば英國は連戦連敗してゐる、假りに英國が從來の巨大な損害を多少なりとも償はうとするならば非常な努力を必要とするであらう。要するに権軸軍の一切の戦果は絶對的である。換言すれば戦争の歸趨の上に決定的影響を及ぼすであらうが、権軸軍時々の挫折は戦局を決定せず、單に相對的性格を帶びてゐるにすぎない。戦局全體を判断するに當つてはこれ等の事實を看過してはならない。假りに今回の戦争が突然終局を告げるやうなことがあつても、権軸國は開戦の當初にあたり最も樂觀的な樂觀論者が夢想したであらう所よりも十倍以上の戦果を收めてゐるであらう。

逆に英國は、英國內における最も悲觀的な悲觀論者が一九三九年九月に信じた所よりも、十倍も損害を被つてゐるであらう。英國人が相對的性質にすぎない微

消耗は我々の側におけると同様敵側においても大きい。

も望ましい地位に置かれてゐる」と答へるのみである。」

我々が敵の戦争潜在力を我々の掌中に收めてゐる以上、恐らく敵方の消耗は一層大きいであらう。歐洲大陸に對する上陸作戦が絶対に不可能なことは敵陣營の信

賴すべき軍事専門家も等しく認める所である。従つてありとあらゆる切り札は我々の掌中にあり、切り札を出すのによい時期を待つばかりである。一九四三年の春において、ドイツ国民並に盟邦各國は重大な國家的試練に喜んで耐へ、且打ち勝つ決心であり、如何なる場合においても自國々力の發展からわき道に外らされない覺悟である。交戦各國が新たな重大決戦をやらなければならぬとすれば、我々は最善の出發點に立つてゐるのである。敵陣營が如何に宣傳と駄法螺に浮身をやつさうとも、嚴然たるものではない。三國條約國の勝利は各國の平和と共存共榮とを保障するものである。」

右會談に關し、四月二十一日、各新聞は、

「ムツソリーニ首相は、四月七日から十一日まで四日間に亘り、ヒトラー總統と會見し、全般的政治情勢並に戰争の共同遂行に關する一切の問題を検討し、あらゆる分野に亘り採られるべき施策について完全な意見の一致を見た。」

右會談に關し、四月二十一日、各新聞は、

「ヒトラー、ムツソリーニ會談は、昨年四月に行はれた會談の繼續で、何等特別のものでないが、右會談が政戰兩局重大の時機に、兩國首腦者多數が參加して且四日間に亘り執り行はれた點は注目に値する。英米は今や連

地中海諸島を戰闘地域に編入した。

ムツソリーニ首相は、ヒトラー總統との會見結果に基づき、愈々地中海方面に萬全の戰闘態勢を整へるに決定した様子で、政府は、四月十六日附官報を以て、次の布告を發表した。

「各戰線に亘るイタリア戰闘部隊總司令官ムツソリーニ首相は、今回シチリア島、サルデニア島並びに附近の諸島嶼を戰闘地區に編入した。」

海軍首腦更迭 政府は、四月二日、海軍首腦部の更迭につき次の通り發表した。

4409 日無差別爆撃の野蠻行為によつて民心を攪亂しようとして居るが、兩指導者の下に飽迄戦争を完遂せんとする吾人の決意を變更出来るものではない。三國條約國の勝利は各國の平和と共存共榮とを保障するものである。」

4408 地中海諸島を戰闘地域に編入

アゲロ・ジャキノ提督

任海軍大將補海軍大將會議委員長

エカルド・ソミグリ提督

補商船護送艦隊司令長官

カルロ・ベルカミーニ提督

フアシスト黨書記長更迭

カルロ・チメゴ組合相は、四月十八日辭任し、同省トウリオ・チアネッティ次官が後任に任命された。

政府は、四月十八日、フアシスト黨書記長の更迭を發表したが、スコルツア新書記長は當年四十六歳、フアシスト革命當時からの親衛隊員として、峻厳な性格と手腕とを謹はれて居る。

尚、ビズソーニ前書記長は、健康(眼の障害)上の支障によりかかる重大時期に於ける職務の遂行は困難である

—(110)—

—(111)—

イタリア

獨伊首腦部會議公表

賴すべき軍事専門家も等しく認める所である。従つて

ありとあらゆる切り札は我々の掌中にあり、切り札を出すのよい時期を待つばかりである。一九四三年の春において、ドイツ国民並に盟邦各國は重大な國家的試練に喜んで耐へ、且打ち勝つ決心であり、如何なる場合においても自國々力の發展からわき道に外らされない覺悟である。交戦各國が新たな重大決戦をやらなければならぬとすれば、我々は最善の出發點に立つてゐるのである。敵陣營が如何に宣傳と駄法螺に浮身をやつさうとも、嚴然たるものではない。三國條約國の勝利は各國の平和と共存共榮とを保障するものである。」

地中海諸島を戰闘地域に編入

ムツソリーニ首相は、ヒトラー總統との會見結果に基づき、愈々地中海方面に萬全の戰闘態勢を整へるに決定した様子で、政府は、四月十六日附官報を以て、次の布告を發表した。

「各戰線に亘るイタリア戰闘部隊總司令官ムツソリーニ首相は、今回シチリア島、サルデニア島並びに附近の諸島嶼を戰闘地區に編入した。」

海軍首腦更迭 政府は、四月二日、海軍首腦部の更迭につき次の通り發表した。

4409 日無差別爆撃の野蠻行為によつて民心を攪亂しようとして居るが、兩指導者の下に飽迄戦争を完遂せんとする吾人の決意を變更出来るものではない。三國條約國の勝利は各國の平和と共存共榮とを保障するものである。」

4408 地中海諸島を戰闘地域に編入

アゲロ・ジャキノ提督

任海軍大將補海軍大將會議委員長

エカルド・ソミグリ提督

補商船護送艦隊司令長官

カルロ・ベルカミーニ提督

フアシスト黨書記長更迭

カルロ・チメゴ組合相は、四月十八日辭任し、同省トウリオ・チアネッティ次官が後任に任命された。

政府は、四月十八日、フアシスト黨書記長の更迭を發表したが、スコルツア新書記長は當年四十六歳、フアシ

スト革命當時からの親衛隊員として、峻厳な性格と手腕とを謹はれて居る。

尚、ビズソーニ前書記長は、健康(眼の障害)上の支障

との理由で辭表をムツソリニ首相宛提出したもので、政府は、未だ三十歳の青年書記長ビズソーニが過去十六ヶ月に亘り黨につくした努力を多とする旨のムツソリー

ニ首相の回答を公表した。

レナート・デラ・アン

一九二七年入黨、スペイン内亂戦争、今次大戰に從軍、本年三十五歳

新財政年度歳入内訳

一九四三—一四財政年度における歳入豫算見積りの主

要項目は、左の通りである。

	一九四三—一四	一九四一—一四
直接税	一一、一二〇	一〇、〇二〇
消費税	五、八五〇	六、一八〇
間接税及營業税	一一、二六〇	一〇、四二〇
専賣收入	七、九一〇	五、三三〇

一九一九年十月入黨、前大戰、今次大戰に從軍、ローマ進軍に參加

アルフレド・クッコ

一九一九年入黨、前大戰に從軍、ローマ進軍に參加

一九二四年ファシスト大評議會評議員となる。

(単位千リラ)

4411

	明財政年度 収入見積	對本年 增收見積
煙草	九、一七〇	二、五〇〇
鹽	五四〇、〇〇〇	不 明
煙草用紙	八一、〇〦〇	九、四五〇

四、専賣收入の四五パーセント乃至八〇パーセントは租稅の形式により政府へ納入されるものである。

新増稅發表

政府は、近く所得稅及び法人稅の一部増稅を斷行する旨、四月二十日發表したが、その内容は大要左の通りといはれる。

一、地租 一九四四財政年度より五パーセントと定められ、爾後戰爭期間中右率が繼續される。戰爭終了後は二ヶ年目毎に二パーセント引上げられ、最高稅率一〇パーセントに迄達せしめる。

二、所得稅 一九四四財政年度より投資收入に對して二五千萬リラの減收を見積られるが、コーヒー代用品からの稅收入は恐らく二億三千二百萬リラとなり、約五百萬リラ方の增收が見込まれる。

三、コーヒー消費稅は、本財政年度に比し一億乃至一億五千萬リラの減收を見積られるが、コーヒー代用品からの稅收入は恐らく二億三千二百萬リラとなり、約五百萬リラ方の增收が見込まれる。

四、砂糖生産稅は約百四十萬リラで、本財政年度に比し十萬リラの增收が見積られる。

五、追加所得稅收は本財政年度と同様約八億一千萬リラと豫想されてゐる。

三、證券印紙稅 戰爭期間中より追つて定められる時期

—(113)—

4410

ファシスト黨新副書記長

フアシスト國民黨は、四月二十四日、新任副書記長四

名の氏名を次の如く發表した。

アレッサンドロ・タラビーニ

ローマ進軍に參加

レオナルド・ガナ

一九一九年十一月入黨、前大戰、今次大戰に從軍、ローマ進軍に參加

アルフレド・クッコ

一九一九年入黨、前大戰に從軍、ローマ進軍に參加

一九二四年フアシスト大評議會評議員となる。

—(112)—

迄證券收入の二五パーセントと定める。

四、重役收入に對する特別稅 一・五パーセント。

五、賃貸收入に對する稅 最高價格制により統制されてゐない賃貸料に對しては原則として三〇パーセントとし、また最高價格制により減額された賃貸料に對しては免稅する。なほ投資による最高四パーセントの利子に相當するが如き賃貸收入は三分一を控除した残額につき免稅される。

六、其他 株式會社を除く公共事業、商社及び他の商業的企業による收入に對しては一定額を控除して一〇パーセント迄の臨時稅を課する。

又、四月二十六日附官報は、從來輸入許可を要する商品の輸入に際し賦課してゐた三%の從價稅を五%に引上げると共に、若干の農產品を除き輸出許可を要する商品の輸出に際しては、新に二%の輸出許可稅（纖維原料品は四%、被服品等は五%）を適用し、公布の日より施行さ

ソ聯邦

冬季反攻終結發表

情報局は、四月二日、特別公報を以て、冬季反攻は三月三十一日を以て終了したと發表した。

獨ソ戰線小康

春季到來によつて獨ソ戰線は一般に泥濘化した結果、四月中の同方面戰況は、クバニ地區に於て赤軍がドイツ軍橋頭堡奪取の爲連日の如く攻撃を加へた以外、レニングラード地區、ドネツ中流地區等で局部的戰闘が行はれたにすぎなかつた。

女性戰闘機操縦士活躍

ソ聯情報局は四月四日夜の戰況公報で女性戰闘機操乗者が戰線に登場してゐることを認め、次の如く公表した。

「ピュルゴロド西北部地區に於いて中尉タマラ・バー

ミヤツトナヤ及びシヤ・スルナチエフツカヤ兩女性操

縱士は數機より成る獨軍の爆撃機隊に遭遇し、タマラ・

バーミヤフトナヤ中尉は二機を擊墜した。然し彼女の

搭乗機も敵彈を受けたが、見事上空まで辿り着き落下傘を以つて無事着陸した。一方スルナチエフスカヤ中

尉は單機殘留して戰闘を續行、更に二機を擊墜した。」

赤軍參謀總長更迭

赤軍參謀總長シャボシュコフ元帥は既に更迭、その後任にはヴァシリフスキイ元帥が任命された模様である

が、四月二十四日附プラウダ紙は、赤軍參謀總長ヴァシ

ン・ウスキー元帥が英國軍事使節團長マーテル中將と會談したと報道、參謀總長更迭の事實を確認した。

ブジョンヌイ元帥にレーニン章授與

カリーニン議長は、四月二十九日、クレムリンにおいてブジョンヌイ元帥に對しその六十回誕生を祝福して

れる旨を記載して居る。

革靴販賣禁止

政府は、四月一日以降、全國に於ける革靴の販賣を禁止したが、右販賣禁止は冬まで繼續される見込である。

伊誌掲載のニューヨーク爆撃論

評論家ピエトロ・モルミーナは四月中旬のトリビュート・エラストラーター誌上にニューヨーク爆撃を論じ、次のように述べてゐる。

「ハインケル一七七の新型は、千馬力の發動機四臺を裝備、時速四〇〇軒に達するから佛國西岸から二十時間でニューヨークを爆撃した上、悠久基地に歸還出来よう。出發に當り飛行機が搭載すべき貨物の全重量は燃料、乘員、食糧、爆弾等を含んで約五十噸である。」

對スロヴァキア新通商協定成立

プラチスラヴァにおいて、スロヴァキア國との間に新通商協定が正式調印をみた旨、四月十三日政府より發表された。

レーニン章を授與した。

對波國交斷絶

在ロンドン亡命ボーランド政權の失地回復要求(國際月報第二十八號國際時報中「ソ波國境紛爭に基く反権輶陣營の龜裂」参照)により、二月以来ソ波關係は悪化の一途を辿つてゐたが、スマレンスク近郊カチン森に於けるボーランド將校虐殺事件に關しボーランド政權が萬國赤十字社に調査要求を提出するや、ソ聯邦政府は遂に對波

斷交を決意し、四月二十六日、モスクワ駐箚ボーランド大使ロメールに對しモロトフ外務人民委員より國交斷絶の通牒を手交した。(詳細は本號國際時報中「カチン森虐殺事件とソ波斷交」参照)

リトヴァイノフ駐米大使歸國
在米ソ聯大使館は、四月二十九日、突如リトヴァイノ夫大使が來週モスクワに赴く旨發表した。

マイスキー駐英大使歸國

リトヴァイノ夫大使が來週モスクワに赴く旨發表した。

4415

ゲー・エフ・サクシン

デー・デー・ミシユースチン

ペー・イー・シチエギン

本年度家畜増産決定

ソ聯邦人民委員會議並に共產黨中央委員會は、昨年度における家畜増産の成果と脱み合せ、本年度におけるコルホーズ、ソフホーズの家畜増産率を決定。四月十四日の新聞紙上で發表したが、その要點は次の通りである。

一、昨年度と一昨年度(四一年)との各種家畜の増減比較は、

牛	五十五パーセント増加
羊 山羊	五十五パーセント増加
豚	二パーセント減少
肉 類	四十九パーセント増加

となつており、家畜減少の主因は家畜の不妊と死産であるが、個人農所屬の家畜減少も同時に指摘された。

政府は、ソ聯全鐵道に對する戒嚴施行に關する四月十

—(117)—

—(116)—

マイスキー駐英大使は、四月二十九日午後、英國外務省でイーデン英外相と會談後、本國政府に報告のため近

く歸國することとなつた旨發表した。

駐希及駐白公使大使に昇格

外務人民委員部は、四月十一日、ソ聯邦とギリシャ及びベルギー間交換の公使は今般夫々大使に昇格したと發表した。

反権輶食糧會議代表出發

ソ聯邦人民委員會議は、今般米國政府の要請により、五月十八日から米國政府主催の下に開催される反権輶糧會議に出席するため、四月十六日クルトチコフ外國貿易人民委員第一代理以下六名の代表者を任命したが、一行は同日モスクワを出發、訪米の途についた。

アーティー・クルトチコフ(團長)

ヴエト・エフ・スタルチエンコ

ヴエー・エス・ネムチーノフ

一、一九四三年度の家畜増産計畫を次の如く決定する。

- 1 コルホーズ及びソフホーズは畜牛十一・八パーセント、山羊及び羊十三・五パーセント、豚十六・四パーセントを增加する。
- 2 個人經營農から百六十三萬六千頭の家畜を買入され、國家に百十二萬頭の豚を提供する。
- 3 戰争中は當歲の仔の賣買、屠殺を禁止する。
- 4 家畜飼料の準備量八千六百七十九萬噸と定める。
- 5 コルホーズは家禽を百二十六パーセント増加せしめ一千五百七萬六千羽を人工孵化する。
- 6 獨軍の手中から解放されたレニン格ラード、カリニン、ヴォローネジ、スターリングラード、クールスク、オリヨール、ロストフ、スタヴロボリ及びクラスノダールの各州に對し二千八百頭の牛を送る。

全鐵道に戒嚴令公布

—(117)—

五一附最高會議幹部會令を公布、鐵道從業者の規律違犯は軍紀を以て處斷する旨四月十六日の紙上に發表した。

赤軍兵士訓練と軍需生産增加を強調
—本年度メーデー・スローガン—

ソ聯邦共產黨中央執行委員會は、四月二十六日、本年度要旨は左の通りである。

- (一) 全鐵道に戒嚴令を布く。
- (二) 全鐵道從業員は戰爭期間中鐵道運輸のため動員されたと見做し、自由辭職を認めない。
- (三) 鐵道從業員の職務上の犯罪は赤軍將兵の犯罪と同様に取扱ふ。
- (四) 鐵道從業員の犯罪は戰時刑法により軍法會議に於て處斷する。
- (五) 鐵道從業員が職務上犯罪を犯す場合には軍事裁判所の決定に基き、戰線に送つて勞役に從事させ、逃亡者に對しては更に一層の重罰を課する。
- (六) カガノウイツチ鐵道人民委員及び鐵道長官に對し、從業員中の規律違犯者を必要ある場合は二十四日間の拘留に處し得る權限を附與する。

4417

一、赤軍勇士よ、冬季戰の成功を強化擴大し戰ひ取つた一塊の土も獨軍に渡すな、獨軍との決戦に備へ、獨軍を粉碎せよ。

一、赤軍歩兵よ、獨軍部隊に大打撃を與へよ、獨軍とその同盟軍をソ聯領土から追ひ出せ。

一、祖國の鷺、ソ聯空軍兵士よ、制空権を確保し、海上、地上における獨軍を容赦なく撃滅せよ。

一、赤軍砲兵、迫撃砲兵よ有力なる火砲を以つて獨軍據點陣地の抵抗を粉碎せよ、獨軍の兵器戦力に大打撃を與へ撃滅せよ。

一、赤軍戰車兵よ、勇敢に攻撃を行へ、獨軍部隊を蹂躪せよ、わが祖國の土を解放せよ。

一、赤軍騎兵よ、勇敢且つ決定的に獨軍を追撃することを學べ、獨軍を撃滅せよ。

一、赤海兵、赤海軍、指揮官、政治指導員諸君よ、獨軍に強力なる打撃を與へよ、獨艦輸送船を撃滅せよ。

(119)

4416

一、赤軍自衛小銃兵よ、わが祖國の最惡の敵、獨軍を更に強打せよ、夜晝共獨軍に休息を與へるな。

一、赤軍斥候兵よ、獨軍後方において勇敢に行動し、獨軍の配置兵力を探り、獨軍の企圖を偵察せよ。

一、赤軍通信兵、よき通信連絡は勝利の主要條件たることを銘記せよ、赤軍の通信連絡をあらゆる方法を以て改善せよ。

一、技術、工兵隊兵士、指揮官、政治指導員、あらゆる手段を講じて獨軍の撃滅を授けよ。

一、ソ聯の忠誠なる國境の守護者、榮ある國境警備隊萬歳。

一、赤軍衛生隊、軍醫、看護婦、衛生兵よ、諸君等の働きに赤軍兵士の生命がかゝつてゐることを銘記せよ、負傷者を戰場に戻すのは諸君の役目だ。

一、ソ聯男女バルチザン諸君、獨軍後方に對する打撃を強化せよ、鐵道、橋梁、資材を破壊せよ、獨軍兵力を

メーデーのスローガン五十三項目を發表したが、同スロー
ガソは十一月の革命記念スローガンの發表まで半ヶ年に互るソ聯の軍事、政治、經濟、文化等各般の政策動向を指示するもので、殆んど各項目を通じ赤軍兵士の訓練と軍需生産の増加とを強調してゐるのが目立つてゐる。本年度のメーデー・スローガンの主なものは次の通りである。

一、労働者の戰鬪力を示す日である五月一日、萬國の労働者よ、獨占領軍に對する戰争のため團結せよ。

一、赤軍兵士よ、絶え間なく訓練を行ひ軍隊内の軍紀、秩序、組織を強化し獨軍を完全に殲滅するまで戦へ。

一、赤軍指導官諸君、軍事技術を完全に體得し各兵科の共同作業を學び、これを完成し戰場における個人の勇氣と功績を部隊指揮の努力と連絡せしめよ。

(118)

殲滅せよ。

一、ソ聯邦男女國民の皆軍事教練は我が國防を強化する、愛國者よ、軍事教練を受けよ、勇敢なる祖國の防衛者となれ。

一、「我等の全力を、我が赤海軍の援助に向けよ、民族の全力をドイツ撃滅に向けよ」

一、全聯邦の勤労者よ、兵士に對する吾人の配慮の半分はその遺家族に向けられなければならぬ、遺家族に對しては全面的に援護せよ、男女労働者技術者よ、戰場に對して武器、彈薬をより多く送れ、小銃、自動銃機、關銃迫擊砲、大砲、砲彈の生産を増加せしめよ、戰車工場の從業員諸君よ。

一、良い戰車を多數赤軍に與へよ、戰車の質を改善せよ、良い戰車が多くあればあるほど勝利は近いのだ。

一、飛行機工業從業員諸君、戰闘機、攻擊機、爆擊機を赤軍のために増産せよ、飛行機が多いほど勝利は近い

のだ。

一、石油工業從業員諸君、石油を増産せよ、赤軍と國家に。

一、食料品工業從業員諸君前線銃後のために、食料品を増産せよ。

一、鐵道從業員諸君、政府の運輸命令を適宜且正確に實行せよ、鐵道の軍紀を不斷に強化せよ、軍需品、民需品の急速運輸を期せよ。

一、海上河川運輸從業員諸君、港灣その他における荷役その他の作業を競争的に正確にやれ、荷物を前線銃後に急速に運搬せよ。

一、男女コルホーツ員、機械、トラクター配給場員及びソフホーツ員よ、農業技手よ、春季播種を行へ、最高收穫を得て前線銃後で大量の食糧を與へ、工業原料を大量に與へよう。

一、男女コルホーツ員、ソフホーツ員、獸醫諸君、家畜を赤軍のために増産せよ、飛行機が多いほど勝利は近い

4419

一、増産せよ、牧畜業製品を赤軍及び國家に充分與へよ。

一、トラクター・コムバイン運轉手よ、農業技術者よ増産の第一線に挺身し、トラクター配給所、ソフホーツの仕事を完遂せよ。

一、ソ聯のインテリ諸君、官吏、技師、教師、氣象技師、科學者、藝術家よ、その全智全力をドイツ撃滅のため國家に捧げよ。

一、ソ聯婦人よ、生産技術を完全に體得せよ、絶えず生産力を昂揚せよ、防空、防毒、衛生連絡の仕事を習へ、全力をドイツ撃滅に捧げよ。

フランス

「祖國救濟は諸君の掌中に在り」

——ペタン國家主席國民に訴ふ——

政府は、四月三日、國務會議において庶政一新案を決定したが、國家主席ペタン元帥は四日夜、ラジオを通じフランス國民に對し次の通り訴へた。

「フランス國民は、一九四〇年六月、國步艱難の際にあたり、余に對し全幅の信賴を置いた。又一九四〇年七月の國民會議は、余に對する信任案を可決し、新

—(121)—

4418

憲法の公布を余に委嘱した。即ちフランス國民は國民を裏切つた舊體制と法律的に絶縁したのである。現在余の手元には祖國に強力體制を復活するやうにとの手紙が何千となく舞ひ込んでゐるが、過去の特權を一掃し、豫定通りの社會機構を實施するには權威が必要なのである。無產階級の生活狀態を安易にすることは新勞働法の目標である。農民諸君に對しても獨自の組織を與へるであらう。寔に祖國現在の事態は重大であるが、何人も余が國民諸君の重荷を理解してゐないと考へてはいけない。希くば諸君自ら深く内省されよ。然

らば諸君は祖國が如何なる危機に當面してゐるかを了解し、祖國を救濟して利己主義と利潤追求とを打倒するためには、人々の仲間に入ることが出來よう。

萬一共産主義が勝利を收めるやうなことがあれば、歐洲の文明と祖國の獨立とは全く暁蕩されてしまふであらう。祖國は祖國の據つて立つ精神力なくしては到底

復興する事が出來ない。祖國の救済は決して外部より來たらず、フランス國民即ち諸君の掌中にある。」

ペタン元帥第八十七回誕生日

フランス國家主席アンリ・ペタン元帥は、四月二十一日、第八十七回の誕辰日を迎へた。元帥は全國に亘る誕生祝賀行事を一切禁止し、午前中は政府關係者並に外交團の慶祝訪問を受けたのみで宴會等も催さず、靜かな一日を送つたといはれる。佛紙は一齊に社説を掲げて元帥の業績を回顧してゐる。

首相襲撃說を正式否定

米英側では、ヒトラー總統との會談を終へてパリへ歸還したラヴァル佛首相が、四月三十日、恩讐に襲はれ、同行のピュール・カタラ藏相と共に負傷したとのデマ宣傳を行ひ、フランス國民の人心擾亂に努めてゐたが、三月夜、政府は右報道は全く事實無根であると否定した。

叛逆分子を國外追放

4421

政府は、四月四日附官報を以て、前駐土大使ルネ・マツシグリ、前大藏省外國爲替局長クーヴ・デ・ムーヴィエの兩人は反政府運動に加擔した廉を以つて國外に追放する旨發表した。尚、元首相エドワール・グラディエ、レオン・ブルム並に元佛軍總司令官ガムラン將軍等は、反権軸軍の反亂計畫に利用される惧れあり、ドイツ政府及びフランス政府間で協議の結果、右三名をドイツ本國に引き取り軟禁するに決定した。

ソ聯人及び赤系スペイン人逮捕

政府は、四月十九日、ヴィシー市に居住するソ聯人及び赤系スペイン人の一齊檢挙を斷行した。政府當局は檢舉理由を左の如く説明してゐる。

「今回逮捕されたソ聯人及び赤色スペイン人はモスクワ、ロンドン、ワシントンの密命を帯びて間諜行為を行ふため、一九四〇年六月の獨佛休戰協定締結以來ヴィシーに滯在してゐたものである。」

農業收穫全部を政府に供出

舊曆發會を見た全國農業委員會は、四月一日、パリにおいて第一回會議を開會したが、席上フランス農業供給長官マックス・ボーナフーは本年度におけるフランス農業の動向に關し、大要左の如く述べた。

「フランス農民は收穫の全部を政府に供出、政府の裁量に委ねることにならう。本年中にフランス農業はあらゆる有效な組織を採擇し増産に努めなければならぬ。又全農民は公益優先の實を上げるべきである。」

ミルラン元大統領逝去

元大統領アレクサンドル・エチエンヌ・ミルランは四月六日朝五時逝去した。

ジロー北阿佛軍總數は四十萬と言明

四月十七日附ニューヨーク・タイムス紙の報道によれば、佛領北阿傀儡政主席ジローは、現在北阿に在る佛軍は總數四十萬に達すると言明した。

評議會は本國に移駐し、正式に政府を樹立する前提と

して暫定政權を組成する。

(124) —

フランス再建に關する覺書

— ジローよりド・ゴールに提示 —

ロンドンで發行されてゐるド・ゴール派機關紙「フランス」は、四月十四日、北阿佛傀儡政權主席ジローからド・ゴールに提示されたといはれるフランス再建に關する覺書を發表した。その要旨は左の如くである。

一、フランス海外諸領の統治とフランスの對権輜國戰爭協力に資するために「フランス海外評議會」を結成する。

一、フランス海外評議會は、佛海外諸領にある政府代表によつて組織され、フランス本國が解放されるまではフランスの代表として反権輜各國の承認を求め、各國と條約を締結する他、獨立した軍隊を組織して戰争に協力する。

一、フランス海外諸領の總督及び高等辦務官は、フランス海外評議會の指令の下に、夫々の領土の統治に任する。

一、フランス本國が解放されるのを待つてフランス海外

政權のジロー主席との會見を打切りロンドンに歸還して以來、所謂フランス國民委員會は、前後三回に亘り會議を開催、北阿政權との合作案に就き協議を重ねて居たが、

四月十五日、會議を終了、次ぎの方針を開明した。

一、ジロー派との間に一定の基本的諸原則に關して意見の一致を見得るに至つたのは満足に堪えないが、依然重要な諸點が闡明されねばならない。

一、カトルーは、會議の結果に基き、急遽アルジエーに歸還する。

尙、カトルーは十九日、アルジエーに歸還した。

ジロー、ド・ゴールを北阿に招請

アルジエーからのロイター電によれば、北阿傀儡政權ジ

ローは、アルジエーにおいてド・ゴールと會見を行ふに決し、四月二十五日ロンドンにあるド・ゴールに對し北阿訪問の正式招請狀を發したと傳へられる。

滿洲國

東條首相滿洲國訪問

東條首相兼陸相の滿洲國訪問に關し、滿洲國政府弘報處は四月一日左の如く發表した。

「東條内閣總理大臣兼陸軍大臣は、三月卅一日東京を出發、一旦奉天に立寄り、本四月一日十五時四十五分新京に到着せり。同大臣は、新京滯在中、皇帝陛下の御機嫌を奉伺し、我が國の發展躍進に就き官民に對し慶祝の意を表し、併せて現地の觀察慰問を行ふ豫定なり。」

皇帝陛下東條首相に賜宴

皇帝陛下には、四月二日、滿洲國訪問中の東條首相に

對し、接見並に賜宴の御沙汰あり。東條首相は佐藤軍務局長以下隨行者を從へ宿舎を出發、建國神廟に參拜、帝宮に參進、便殿にて少憩の上、皇帝陛下に接見仰付けられた。畏くも、皇帝陛下は親しく御握手を賜り、また佐藤軍務局長以下隨行者に對してもそれぞれ接見あらせられ、西便殿にて更に御歎談遊ばされたと承はる。十時三十分、首相は一旦帝宮を退出、正午再度帝宮に參進、先着の梅津關東軍司令官兼特命全權大使とともに嘉樂殿に入れば、皇帝陛下御臨遊ばされ、開宴あらせられた。かくて、今次來滿の最高目的と重要使命を滿りなく終へた

首相は、御殊遇の數々に感激しつゝ、帝宮を退下した。

東條首相歡迎晩餐會に於ける

張國務總理大臣挨拶

四月二日午後六時、張國務總理は、訪滿中の東條首相歡迎晩餐會を大和ホテルに開いたが、同招宴には、梅津關東軍司令官以下關東軍將士、張總理はじめ滿洲國官民

(125) —

4428

「ジローは、アルジエーにおいてド・ゴールと會見を行ふに決し、四月二十五日ロンドンにあるド・ゴールに對し北阿訪問の正式招請狀を發したと傳へられる。」

東條首相滿洲國訪問

東條首相兼陸相の滿洲國訪問に關し、滿洲國政府弘報處は四月一日左の如く發表した。

「東條内閣總理大臣兼陸軍大臣は、三月卅一日東京を出發、一旦奉天に立寄り、本四月一日十五時四十五分新京に到着せり。同大臣は、新京滯在中、皇帝陛下の御機嫌を奉伺し、我が國の發展躍進に就き官民に對し慶祝の意を表し、併せて現地の觀察慰問を行ふ豫定なり。」

皇帝陛下東條首相に賜宴

皇帝陛下には、四月二日、滿洲國訪問中の東條首相に

對し、接見並に賜宴の御沙汰あり。東條首相は佐藤軍務局長以下隨行者を從へ宿舎を出發、建國神廟に參拜、帝宮に參進、便殿にて少憩の上、皇帝陛下に接見仰付けられた。畏くも、皇帝陛下は親しく御握手を賜り、また佐藤軍務局長以下隨行者に對してもそれぞれ接見あらせられ、西便殿にて更に御歎談遊ばされたと承はる。十時三十分、首相は一旦帝宮を退出、正午再度帝宮に參進、先着の梅津關東軍司令官兼特命全權大使とともに嘉樂殿に入れば、皇帝陛下御臨遊ばされ、開宴あらせられた。かくて、今次來滿の最高目的と重要使命を滿りなく終へた

首相は、御殊遇の數々に感激しつゝ、帝宮を退下した。

東條首相歡迎晩餐會に於ける

張國務總理大臣挨拶

四月二日午後六時、張國務總理は、訪滿中の東條首相歡迎晩餐會を大和ホテルに開いたが、同招宴には、梅津關東軍司令官以下關東軍將士、張總理はじめ滿洲國官民

代表百三十餘名が出席した。宴半ばにして張國務總理は要旨左の如き挨拶を行ひ多大の感銘を與へた。

「親邦大日本帝國の總理大臣がわが國を訪問せられたことは、建國以來の盛事であり、日滿兩國國交の上に燐なる光彩を添ふるは勿論、全世界に對し東方道義の精華を發揚する所以であると思ふ。さきに建國十周年にあたつて親邦より高松宮殿下の御差遣を拜し、また日本朝野を擧げて慶祝の熱意を表明せられたのはまさに感謝感激に堪へざるところである。建國十二年を迎へわが滿洲國は諸般の建設着々として進み、近代國家としての威容漸く整ひ、生産また飛躍的增强を見るに至り、第二次建設に向つて邁進しつゝあるのである。これ建國以來終始渝らざる親邦の援助であり、こゝに深く感謝の意を表する次第である。いまや東亜全民族の興亡を決すべき重大時期に際會し、わが國が親邦の援助に報い建國の本義を完うするのは一にこの時期

にあり、四千三百萬國民は「死生存亡斷して分擔せす」との帝旨を奉戴し、生産を増加し、戰力を増強し、百難突破の覺悟をもつて大東亞戰爭の遂行に協力し、もつて東亞全民族の敵米英を擊滅し、最後の勝利を確保せんことを期してゐる次第である。」

皇帝陛下關東軍司令官邸に御臨

皇帝陛下には第一次御訪日の八周年記念日に當る四月六日、軍司令官邸に御臨、梅津關東軍司令官以下各將星に接見、張國務總理、藏參議府議長、武部總務長官らに覲見を賜はり、次いで貴賓食堂にて日滿顯官陪席の下に午餐を共にせられ、御歡談の御後、御機嫌麗はしく帝宮に御歸還あらせられた。

邢、盧新任兩大臣特任式

新任邢軍事部大臣並に盧文教部大臣の特任式は、四月一日、帝宮東便殿に於て張國務總理侍立の下に執り行はれた。

滿洲軍の呼稱を帝軍に統一

軍事部では、四月十五日國兵法施行三周年記念日を機とし、從來滿軍、或は國軍と呼ばれてゐた滿洲國軍の呼稱を統一し、新たに帝軍と呼ぶことになった。これは眞に皇帝陛下の親兵たるに相應して全軍將兵の義勇奉公を一層振起し、日滿共同防衛の本義に則り北邊鎮護に挺身する全軍の使命を表徵するものである。

司法部機構改革

政府は、決戦ト國內の治安確保と民生の安定を期し、司法行政機構の整備強化を圖るため司法部現機構の一部改革を斷行、義に決定を見た保安拘致制度の處分執行機關として矯正輔導院を設置するとともに、同處分執行の企畫、監督事務及び監獄行政事務等を併せ管掌するため、從來の行刑司を發展的解消して司法行政總局を新設、また刑事司に新たに經濟、保護の二科を加へ、從來の檢察、法務、思想各科を法政、刑事、思想各科に改めることと

なつた。右に關する官制の改正は四月二日參議府會議の通過を見たので、二十七日公布、即日實施した。今回の機構改革により新設足する司法行政總局は、司法部の外局とし、總局及びその下部機關は特別會計とし、矯正輔導院及び刑務官訓練所の監督指導を司るもので、總局内に總務、經理、保健、刑務、作業、輔導の六科を設け、又、矯正輔導院は本年度に於て奉天、哈爾濱、鞍山、本溪湖、撫順の五箇所に設置されることとなつた。

國民手帳制實施決定

滿洲國の割期的制度たる國民手帳制は指紋管理局において準備を進めつゝあるが、来る七月一日から愈々實施されることとなつた。國民手帳制のねらいとするところは國家總力發揮に必要な人的資源を確保し、國防その他重要國策の運営に資するとともに一方國民の身分を明確にし、配給その他國家施策の便宜に供しようといふもので、第一回の交付は千二百萬人に及ぶ見込である。

—(128)—

入満華北労工八十二萬

滿洲國における産業の勃興と華北農村の昨年度における旱魃、最近の食糧價格の状況などより、年初來三月末までの華北對滿勞工供出は、既に團體、個人並に隨伴家族を合計して八十二萬三千人に上り、これを前年同期の四十三萬餘に比すれば實に二倍近くの數字に達してゐる。一月以降三月までの入満労工數左の通り。

本年度	四六二、二三二六	三六一、三五七
昨年度	一六〇、一四八	二六〇、三一二

中華民國**陳特派大使一行入京**

立法院々長兼上海特別市々長陳公博は、訪日特派大使として、外交部駐滬辦事處々長孫理甫、宣傳部參事黃善

天皇陛下には同大使に對し優渥なる御言葉を賜ひ、さらにもう一行のため午餐を御催しあらせられた。陳特派大使以下は日華提携のうへに寄せさせ給ふ

大御心に恐懼感激、宮中を退出した。

陳特派大使大東亞相と會談

陳特派大使は、四月八日午後四時二十分、青木大東亞大臣を本省に訪問し、日華提携の緊密化方策に關し約一

—(127)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

4427

—(129)—

政治を劃期的に改革する魄力を表示するに充分であります。斯の如き御決心と御魄力と御盛意に就ては、中國人は言葉を以て其の衷心の感激を言ひ表はすことが出来ない程であります。是即ち今回私自ら御國を訪問致し、全國を代表して厚く御禮を申上げなければならぬ所以であります。

中國が今回大東亞戦争に參加して、御國の後に隨つて盡すべき力量と責任を果し得るならば實に光榮の至りであります。唯能力が薄弱であります、百年來英米の帝國主義に壓迫せられ、又正義と良心に要求せられ、且つ東亞民族を解放せんとする御國の熱情に刺戟せられたるために、力の薄きを計らず良心の安きを求めるに過ぎないのであります。

今回の大東亞戦争は、御國の人力と物力が極めて優越である故早くから必勝不敗の基礎を定められたのであります。けれども中國は、日華兩國の永遠合作とい

ふ精神に基き、又同甘共苦と同生共死の決心に基いて御國の後に隨つて負ふべき責任を分擔したいと深く願つて居る次第であります。又中國の決心は單に參戰を宣布したことと満足とするのではなく、凡ゆる人力と物力を大東亞戦争に貢獻せんことを希望してゐるのであります。どうぞ貴國は、中國の此の眞摯なる氣持を御酌みとり下されまして今後益々緊密なる提携と充分な支援を御願致したいと存じます。

回顧すれば三年前、私は、國民政府の命に依り御國へ答禮に参りました。その時米内前總理大臣閣下に招待された席上に於て、私は「日本人は我國と貴國が共同に東亞の大任を負擔しなければならぬと確信してゐる」と申上げたことがあります、圖らずも今日、中國が本當に御國に隨つて大東亞戦争に參加することとなりました。これは、單に中國人民全體の幸福であるばかりでなく、私個人は取つても無限の光榮であると存

づる次第であります。

又先月中旬に於て日華合作の新政策が施行されかから中國の生産は已に自然と恢復し増加されて、諸物價も同時に漸次下降して行く趨勢があります。

これ等は日華合作の效果が顯はれたのであります。貴國大使館及び陸海軍當局の絶大なる協力を得たからであります。この點に就いて特に我國の朝野では欣快と感謝の至りに存じてゐる次第であります。今日、日華兩國は最早親切なる朋友の間柄ではなく、進んで血肉の兄弟となつたのであります。

希はくば首相閣下並に閣下各位には、充分に私共を御指導下さいまして、中國をして御國の後に隨ひこの度の歴史上劃期的なる使命と任務を完成せしむるやう御願申上げたいのであります。然らば中國の人民は、更に一層の光榮を感する次第であります。

私は歸國次第直ちに總理大臣閣下の我國に對する御

親切なる御援助と本日御話になつた共同なる目的とを

我國の朝野に傳達致し、一層奮勵努力、以て總理大臣閣下の御懇情に御答へ致し度と存じます。

茲に謹んで總理大臣閣下の御芳志を謝し、閣下の御健康を祝したいと存じます。」

陳特派大使一行歸國

參戰中國に對する日本の援助に答禮の意を表し、併せて日本政府當局と隔意なき懇談を遂げた陳特派大使一行は、滞りなく訪日の使命を果して、北京經由、四月十八日午後二時二十四分、日華要人多數の出迎への裡に南京飛行場に歸還した。

周特使訪溝

中滿國交の増進並に經濟合作、提携強化の重要な使命を擔つて四月八日南京を出發、訪溝した周佛海行政院副院長兼財政部長は滯留十日、歴史的使命を達成して途中北

京に立寄り、四月二十五日午後一時四十五分北京より空

路南京に歸還した

鮑文懋上將總參謀長に任命

政府は、四月七日、最高國防會議を開き、軍事委員會總參謀長劉郁芬上將逝去に伴ふ後任として陸軍部長鮑文輝上將を、陸軍部長には編練總監葉蓬上將を、編練總監には軍事委員會總務廳長黃自強中將をそれぞれ任命することに決定した。主なる異動左の通り。

任軍事參議院副院長
更に政府は四月十日附を以て鄭大章中將の後任として、印鑑局長李宣倜中將を軍事委員會陸軍部次長に任命せし、命令した。

任編練總監	葉蓬上將	編練總監	黃自強中將	軍事委員會總務廳長	任陸軍部長	任總參謀長
任陸軍部長	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將
任總參謀長	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將
鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將	鮑文槐上將

參謀次長 項致蓬中將
陸軍部次長 鄭大章中將

陸軍部次長 鄭大章中將

中央政治委員會新委員

「將士に告ぐ」と題し長文の通電を發し、和平建國軍は汪主席領導下に日本に協力大東亜解放戦に參加しつつあるに反し、重慶將士はここ六ヶ月間米英の頤使に甘んじて、局部抗戦を續行、未だに覺醒することなきを歎するとともに、參戰とともに中國の自由獨立を獲得した國府の現狀を説いて彼等迷妄を諭し、併せて抗戦名目を喪失せる重慶にあつてなほ抗戦を繼續することの愚なる所以を強調、彼等の速かなる覺醒を招請した。

1

員の任期満了に伴ふ新委員を左の如く決定發表した。

政府は、四月七日の最高國

汪兆銘、陳公博、溫宗堯、梁鴻志、江亢虎
招聘委員

諸青來、趙毓松、趙尊嶽、岑德廣、王蔭泰(新任)

周佛海、褚民誼、陳璧君、梅思平、陳羣、

林柏生、劉郁芬、任援道、焦瑩、陳君慧、
陳耀祖、李聖五、葉蓮、丁默邨、傅式說、

繆斌(新任)、陳春闢(新任)、羅君強(新任)

政府は、四月一日の中政會議において、徐良駐日大使

(東亞經懇會華北本部長)を任命した。

卷之三

調査報告に基き、振華公司の買占め事實を確認、阜通銀行を營業停止處分に附した。尙、事態の重大性に鑑み、その後も引き続き調査を續行、惡質投機關係者の徹底的摘發を期してゐる。宣傳部では二十七日陳次長等の調査報告を公表、その實相を明らかにした。報告書全文左の通り。

一、振華公司總經理韓拱北の綿絲國積事件に關する件
江北地方銀行上海支店の預金者名簿中に華汽、振華公司及び克家拱北の文字が記載されあり、右三領金者は三月十五日より四月一日までに合計二千六百七十九萬元を引出せること判明し、また江海銀行の帳簿に於ても華汽、韓拱北兩預金者が前記期間内に合計二千百七十萬元を引出せること判明せり。韓の中立によれば振華公司は目下設立準備中のものにして、設立後は絹業を營む豫定なるにも拘らず、三月十九日より二十五日まで引續き閩市場より綿絲八百七十件、綿布五百十五件、合計二千八百五萬元を買占め、更に引續き物色中なり。

あり、同行はこれをもつて預金者の引出によるものと稱し居るも右は徹底調査の要あり。

東條内閣改造に關する華字紙論調

東條内閣改造に關する主要華字紙論調は左の通りである。

「日本内閣今次の重要な人事異動は、國內戰時政治機構の強化であることは勿論であるが、中でも注目すべきは前駐華大使重光氏が外相に就任したことであつて、今后日華邦關係は更に積極的に推進されるものと期待される。重光外相は日本外交界の長老で我國との關係は特に密接なものがある。日華關係が現在最も重要な局勢にあることに鑑み、同氏の外相就任に對しては我國各界はござつて衷心より慶賀の意を表するものである。重光外相は過去一年四ヶ月の間駐華大使の任にあり、その間大東亞戰爭、中國參戰、租界返還及び日本の對支政策轉換等幾多の折衝に當つた同氏の苦

心は實に感謝の一語に盡きる。重光外相の就任により稱し居るも右は徹底調査の要あり。

東條内閣改造に關する華字紙論調

東條内閣改造に關する主要華字紙論調は左の通りである。

「日本内閣今次の重要な人事異動は、國內戰時政治機構の強化であることは勿論であるが、中でも注目すべきは前駐華大使重光氏が外相に就任したことであつて、今后日華邦關係は更に積極的に推進されるものと期待される。重光外相は日本外交界の長老で我國との關係は特に密接なものがある。日華關係が現在最も重要な局勢にあることに鑑み、同氏の外相就任に對しては我國各界はござつて衷心より慶賀の意を表するものである。重光外相は過去一年四ヶ月の間駐華大使の任にあり、その間大東亞戰爭、中國參戰、租界返還及び日本の對支政策轉換等幾多の折衝に當つた同氏の苦

二、阜通銀行の件 該銀行貸出帳籍中に振華公司名義にて百二十萬元、低當物件中には振華關係の人造綿絲約二百二十萬元あるを發見、右は同銀行が韓拱北と結託して投機を行ひたると否とに拘らず銀行營業規則に違反せるものなり。

三、利民銀行の件 該行の資本は三百萬元にして創業日尙淺きに拘らず、三月十五日より四月一日迄に合計八千六百四十萬元の不良貸出を行ひ、投機を助成せる嫌疑顯著なり。右調査の結果、韓拱北が設立準備中なる振華公司の名義を以て大量の重要物資を購入し、市場は、韓拱北との關係に於て重大なる嫌疑を有するものなり。依つて同行の營業を停止せしめ調査するを要す。利民銀行が資本金三萬元なるに拘らず三月十五日より僅か十六日間に八千餘萬元の貸出を行ひたる事實

の前途もまた一層有利となつて來た。昨年日本が大東亞省を新設し、青木氏を初代大東亞相に就任せしめたが、同氏は嘗て國府最高經濟顧問としてわが國の經濟財政整理に絶大なる協助を與へてくれた人である。しかしで今回また重光氏が外相に就任したことは友邦日本が中日問題を如何に重視してゐるかの證左である。

重光氏は事變前から中日關係の調整に奔走して來た中國のよき理解者であり、同氏が國府遷都後本多大使に

次いで駐華大使となり、一年有餘の在任中に樹てた功績は洵に大なるものがある。中日兩國の關係は青木氏の大東亞相就任により經濟上の連繫が強化されたが、

今次重光大使の外相就任によつて兩國國交一層の緊密化が豫想されることは、吾人の衷心より欣快に堪へないところである。(四月二十二日附中華日報)

谷新大使任命に關する論調

谷新駐華大使任命につき、中國側各紙は要旨左の如き

外交部次長及び宣傳部長談を大きく掲載した。

「谷大使は三十年に亘り外交界に活躍して來た達識の士で、日華提携に對しては夙に理解と熱情を持つて居られる。大使の來任は必ず更に日華の團結を固め、最後の勝利獲得と新秩序建設の完成とを促進するものとして全國民の舉つて歓迎するところである。」

尚民國日報は四月二十九日附の社説で左の如く新大使を歓迎してゐる。

「新大使は日本外交界に名聲の有る人で、中國の事情に對する深い認識と東亞の情勢に對する高遠な見解とを持つてゐる。義に外相としては、不動の信念と卓越せる才能とによつて戰時外交を處理し、殊に日華提携促進に關しては絶大なる貢獻をせられた。重光大使の過去一年餘に於ける努力の後を受け、日本當局が此の新大使を派遣せられたことに對して無限の期待を持つものである。日本の政策は確固不動であり、我が國を

獨立國家として生長せしめ、且つ總力を擧げて戰爭に協力し得る様にしたが大東亞共榮圈の基礎の確立した今日、中國を理解する重光、青木、谷三氏の一體的協力により、同生共死の團結は一層促進せしめられ、勝利を確保して東亞の光を益々大きくするのも近き將來にある。」

重慶政權

蔣介石臨席の下に閉會式を擧行したが、同閉會式に於ける蔣介石の訓辭要旨は次の如くである。

「中國青年は先烈創業の艱苦を想起し、革命の歴史を忘れず、目前の環境を充分認識し、更に大なる苦難を以て、より大なる艱難の到來を迎へ、以て艱難を克服し、革命完成に當るべきである。五千年の歴史と五年である。そして今は抗戰の真最中にあり、建國漸くその緒についたが、しかも、内外情勢並に環境は困難を極め、民族五十年來の生存、文化の繼續、存亡は實に今日に懸つており、時代の要求、革命の推移は、正に革命青年の第三次大結合を要求してゐるのである。頗くは全團員一致奮起して革命の達成に邁進せんことを祈つてやまない。」

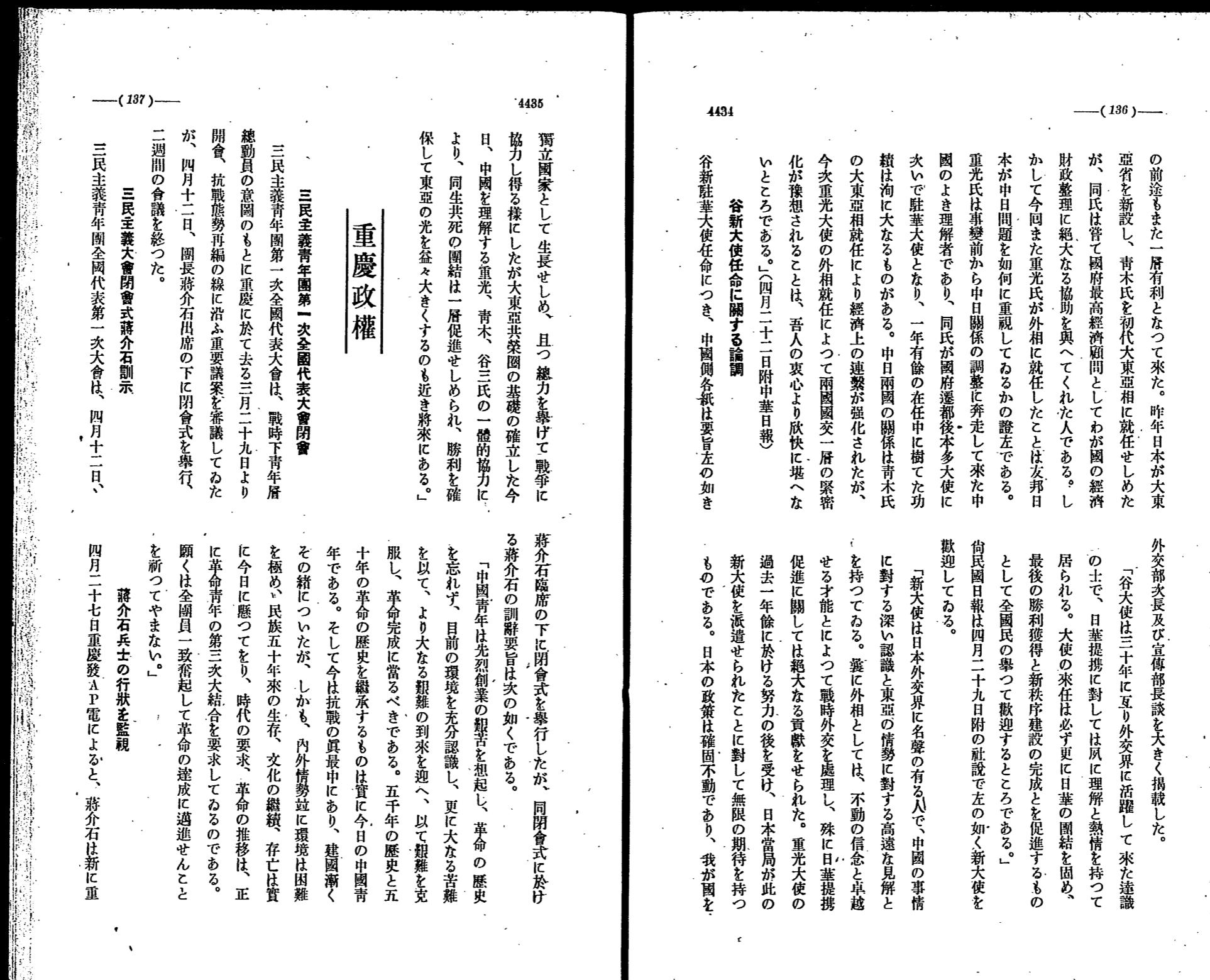
蔣介石兵士の行狀を監視

三民主義青年團第一次全國代表大會閉會式

三民主義青年團第一次全國代表大會は、戰時下青年層總動員の意圖のもとに重慶に於て去る三月二十九日より開會、抗戰態勢再編の線に沿ふ重要議案を審議してゐたが、四月十二日、團長蔣介石出席の下に閉會式を擧行、二週間の會議を終つた。

三民主義大會會式蔣介石訓示

三民主義青年團全國代表第一次大會は、四月十二日、四月二十七日重慶發AP電によると、蔣介石は新に重



在支米空軍と重慶側飛行士不和

慶附近の軍人に對し公衆の面前で見苦しい服装又は行動をなすことを禁じ、四月一日から市中に憲兵を配して嚴重に兵士の行狀を監視することになつた。禁令の内容は左の如くである。

- 一、赤子を抱き又は飲食物を携帶して街上を歩行すべからず。
- 二、持主の承諾なくして薪炭又は木材を民家から運び出しこれを燃料に使用すべからず。
- 三、小銃を天秤棒代りに使用すべからず。
- 四、無斷で私人の住宅、官廳、學校、神社、教會等を占據すべからず。
- 五、無断で労働者、自轉車、小舟等を徵發すべからず。
- 六、軍人は街路上にて喫煙又は飲食すべからず。
- 七、軍人は重慶市内にて轎に乗るべからず。
- 八、如何なる種類のものと雖も賭博は絶対に行ふべからず。

「重慶航空部隊は米國で訓練を受けたものが大部分を占め、現在われ々に伍して活躍してゐる。兩航空部隊協力の事實は同じ飛行基地で双方の地上勤務員が働いてゐることでも明かであらう。米空軍が重慶側飛行士を地上勤務員として使用するのは、目下重慶航空部隊の飛行機が極めて少く、飛行士の方が四、五倍も

て左の如く言明した。

4437

宋子文訪加

宋子文外交部長は、カナダ首相マッケンジー・キングと打合せのため、四月二十一日オツタワに到着、同地においてカナダの重慶軍に對する援助増加の具體策につき公式に協議を行つたと傳へられる。

「民衆の米英信賴減退を恐る」

——重慶對外放送米英牽制に躍起——

印緬國境における英印軍敗戦の報は重慶當局をして再び深い失望に陥れたが、重慶對外放送は四月十三日早速本問題を探りあげ、米英が對日攻撃に積極性を示さなければ、支那民衆は米英を信賴しなくなるであらうと、左の如く躍起の牽制宣傳を行つた。

「英印軍が印緬國境で敗退したとの報は、我々に深い失望を與へたのみならず、一般民衆の英國に對する信賴の度は益々薄らいで來た。最早や我々は、英軍が

4438

あるといふ關係によるものである。」

ビルマを奮闘するとも思つてゐなし、ビルマ公路の再開にも大した希望をつないではゐない。萬一ビルマ公路が再び開通し、二分間に一臺の割合で重慶に物資が届いたとしても一日僅か小型貨物船二隻の積載量を出ず、この程度では焼石に水である。我らのいま最も恐れることは、抗戰六年、日々として當局の言を墨守して來た民衆が米英を全く見限りはしないかといふことである。米英は須く積極的攻勢に出るべきで、これな

くしては民衆の米英に對する信賴感を持続することは困難である。」

河南省の飢餓罹災者五百萬人

「河南省の飢餓は史上未曾有の大規模な天災とも稱すべきもので、三日夜の重慶政府發表に依ると、その罹災者は五百萬人に達してゐる。重慶政府では昨年十

—(139)—

—(138)—

月から飢餓救濟事業を開始し、現物地租を減免したり、又今日迄に一億元を飢餓救濟のために支出したりすると共に、河南省飢餓対策委員會に更に一億元を託し直接諸省から物品を購買するやう命じてゐる。又、河南省に在る軍隊用穀物貯蔵庫の一部を開いて之を罹災民の用に供してゐるがしかし、政府側の努力にも拘らず救援品が罹災者の手に入るには種々の理由から仲々手間どり、救援品を受取つてゐない罹災者が多數ある模様である。

蔣介石工業立國を力説

—工業建設計画會議—
重慶政權の工業建設計画會議は、四月二十日開幕され、以來、冶金、燃料、水力、電力、化學工業、民生工業、教育、技術の八分科委員會に分れて連日協議を行つて來たが、二十六日は大會を開き、各分科會の成果に對し最後的検討を行つた。重慶放送は傳へた。

尚、四月二十八日の同會議席上、蔣介石は、大要左の如き訓辭を行つたが、その訓辭に於て奥地における工業の未發達に對する焦慮を表明した。

「中國は工業によらなければ建國を完成することは出來ない。その意味においては今回の會議は極めて重要である。過去において工業が發達しなかつたのは工業と政治が連繋を失つてゐたため進歩が遅れたのである。今後は工業と政治の密接なる連繋に意を注がねばならぬ。又各種の工業は過去に於て相互の間に横の連絡がなかつたためその發達を促すことが出來なかつた。今後は相互に密接な連繋を保持し相提携して工業の發達に貢献しなければならない。」

重慶市民の疎散實施

四月中旬重慶發U.P.電によれば、重慶防空司令部は、市當局と聯繫して、三月中旬から十月半ばに及ぶ七ヶ月の空襲季節に日本空軍の爆撃被害を最小限に喰止めるべ

く、市外四十乃至百キロの郊外に市民の疎散を實施し、三月十五日から五月末までを自發、勸説、強制の三段階に分けて市民の疎散運動に大童となつてゐる模様である。

佛印

印は日本との間に名譽あるフランスの名において共同防衛協定を締結してゐるのであり、自分はこの協定には忠實であることを誓ふ」と答へ、友好裡に儀禮交歛を終へ、次いで同五時半より官邸廣間に於て芳澤大使主催の茶會を開催、日佛印首脳一堂に會し、杯を擧げて友好を祝を終了した。

尚、青木大東亞相一行は四月二十二日午前九時サイゴンを出發、タイ國に向つた。

安南王青木大東亞相に勳章贈與

青木大東亞相の來訪を機に、四月二十日、安南王は、佛印總督府を通じ青木大東亞相に安南ドラゴン第一等勳章、同隨員の陸軍少將今井參事官に第一等勳章を贈與した。

日本文化會館設立

在佛印日本文化會館長に決定した横山大使府顧問は、

四月二十四日ドクー総督を訪問、日本文化会館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

印度支那經濟審議會初總會

昨年十一月十一日附總督令を以て設置された印度支那經濟審議會は、四月二十九日、ドクー総督司會の下に最

官邸に訪問、坪上大使を交へて二時間餘りに亘り懇談を遂げ、次いで同午後二時半外務省にヴィヂット外相を訪られ、約二時間に亘り懇談を行ひ、更に二十四日にはタイ政府の招待によるメナム河上の午餐會に臨み、ワニット商務代理大臣等と共にタイ國獨特の河上風景を賞でつ午餐の一刻をすごし、午後三時大使官邸に歸還した。

夜は午後七時よりオリエンタル・ホテルにおいて青木大東亞相主催の晚餐會を開催、主人側青木大東亞相及び坪上大使、陸海軍武官、在留邦人代表等、タイ國側ヴィヂット外相以下閣僚其他出席、午後十時過ぎ散會した。

ビブン首相訓示

ビブン首相は、四月二十四日、各省官吏七千名參加の大運動會で「政府を信頼し、一致團結して日本に對し協力せよ」と訓示した。

バンナワヴィチット少將海軍部長專任

政府は、三月三十日付を以て、海軍部長兼軍令部長兼

艦隊司令長官バンナワヴィチット少將の兼職を免じ、海軍部長専任とする旨、四月四日夜のラジオで發表した。

テワデ少將空軍最高指揮官専任

チアム・アトック・テワデ空軍少將は攝政府に無任所大臣の辭表を提出中であつたが、四月十四日附を以てこれを許可された。

同少將は無任所大臣として産業省副大臣の地位にあつたが、曩にクリ少佐が同省副大臣に任命されたので、今回無任所大臣をも辭し、本職たる空軍最高指揮官の職に専念することとなつたものである。

駐日商務官任命

政府は、四月十三日、モンチャヤオ・プラスブスク・スクサワットが駐日大使館商務官兼財務官に任命された旨發表した。

衣服材料賣買許可制採用

政府は、衣服材料統制のためさきに未晒綿布、巾、

初の總會を開催、本審議會の實體たる運輸、金融、農林、商業、鑛產業、工業の六業種組合代表が出席、現情勢下佛印經濟諸問題につき討議した。

ドクー勞働者を激励

ドクー總督は、来る五月一日の勞働祭を前にして、四月二十九日、「佛人及び印度支那人に告ぐ」と題しメッセージを發表、一段と熾烈な勞働により國家的團結と復興とを期せんと激励した。

タ イ

青木大東亞相タイ國訪問

青木大東亞相の一行は、四月二十二日午前十二時卅五分、佛印サイゴンより空路バンコック飛行場に到着、青木大東亞相は翌二十三日午前九時半、在バンコック皇軍病院を訪れ、傷病兵を慰問した後、同十時ビブン首相を

ドクー總督を訪問、日本文化會館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

印度支那經濟審議會初總會

昨年十一月十一日附總督令を以て設置された印度支那經濟審議會は、四月二十九日、ドクー総督司會の下に最

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

ドクー勞働者を激励

ドクー總督は、来る五月一日の勞働祭を前にして、四

月二十九日、「佛人及び印度支那人に告ぐ」と題しメッ

セージを發表、一段と熾烈な勞働により國家的團結と復

興とを期せんと激励した。

タ イ

青木大東亞相タイ國訪問

青木大東亞相の一行は、四月二十二日午前十二時卅五

分、佛印サイゴンより空路バンコック飛行場に到着、青

木大東亞相は翌二十三日午前九時半、在バンコック皇軍

病院を訪れ、傷病兵を慰問した後、同十時ビブン首相を

ドクー總督を訪問、日本文化會館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

印度支那經濟審議會初總會

昨年十一月十一日附總督令を以て設置された印度支那經濟審議會は、四月二十九日、ドクー総督司會の下に最

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

ドクー勞働者を激励

ドクー總督は、来る五月一日の勞働祭を前にして、四

月二十九日、「佛人及び印度支那人に告ぐ」と題しメッ

セージを發表、一段と熾烈な勞働により國家的團結と復

興とを期せんと激励した。

タ イ

青木大東亞相タイ國訪問

青木大東亞相の一行は、四月二十二日午前十二時卅五

分、佛印サイゴンより空路バンコック飛行場に到着、青

木大東亞相は翌二十三日午前九時半、在バンコック皇軍

病院を訪れ、傷病兵を慰問した後、同十時ビブン首相を

ドクー總督を訪問、日本文化會館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

印度支那經濟審議會初總會

昨年十一月十一日附總督令を以て設置された印度支那經濟審議會は、四月二十九日、ドクー総督司會の下に最

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

ドクー勞働者を激励

ドクー總督は、来る五月一日の勞働祭を前にして、四

月二十九日、「佛人及び印度支那人に告ぐ」と題しメッ

セージを發表、一段と熾烈な勞働により國家的團結と復

興とを期せんと激励した。

タ イ

青木大東亞相タイ國訪問

青木大東亞相の一行は、四月二十二日午前十二時卅五

分、佛印サイゴンより空路バンコック飛行場に到着、青

木大東亞相は翌二十三日午前九時半、在バンコック皇軍

病院を訪れ、傷病兵を慰問した後、同十時ビブン首相を

ドクー總督を訪問、日本文化會館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

印度支那經濟審議會初總會

昨年十一月十一日附總督令を以て設置された印度支那經濟審議會は、四月二十九日、ドクー総督司會の下に最

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

ドクー勞働者を激励

ドクー總督は、来る五月一日の勞働祭を前にして、四

月二十九日、「佛人及び印度支那人に告ぐ」と題しメッ

セージを發表、一段と熾烈な勞働により國家的團結と復

興とを期せんと激励した。

タ イ

青木大東亞相タイ國訪問

青木大東亞相の一行は、四月二十二日午前十二時卅五

分、佛印サイゴンより空路バンコック飛行場に到着、青

木大東亞相は翌二十三日午前九時半、在バンコック皇軍

病院を訪れ、傷病兵を慰問した後、同十時ビブン首相を

ドクー總督を訪問、日本文化會館設立に關する正式申入れを行ひ、佛印側の援助を要請したが、四月一十七日ボーザンジエ外交部長は、大使府栗山事務總長に同會館の設置に協力すべき旨の回答を寄せてきたので、ここに日本文化會館設立に關する日佛印間の了解は全く成立を見た。

夏季勤務時間繰上げ

佛印政廳では本年一月から佛印時間を一時間繰上げ、從來日本時間との時差が二時間であつたのを一時間とし、電力消費節減を強化してゐるが、四月十六日からの夏季

時間制實施に當つては、更に官廳勤務時間を例年の夏季

時間より一時間繰上げ、午前は七時から十二時まで、午後

は二時半から五時半までとする旨官報を以て發表した。

####

ドリルの三種に付き最高價格の設定、在荷申告等の手段を講じたが、四月一日、さらに物資統制委員會の名を以て、左の如く賣買許可制を採用する旨發表した。

(一) 右三種類の綿布販賣をなす者は四月一日より十五日までに在住縣當局に届出で販賣許可證を受くること

(二) 上述の綿布を購入せんとする者は現在マツチ、砂糖、燈火用石油購賣に當てられてゐる割當切符を在住縣當局に提出その許可を受けること。

比島

フランシスコ少將を巡警局長に起用

四月十一日バタアン陥落記念日に際し、比島警察隊の強化を圖るため、ヴァルガス行政府長官は、比島巡警局長に前米比軍フランシスコ少將を任命した。

行政府に公益局設置

民國との間に一般電報取扱ひを開始する旨發表した。この二局の開設により比島の既設通信局數は合計四十八に達した。

南發貸出預金利率改正

南方開發金庫比島支金庫では、比島内の開發復舊の促進のため、四月十五日より貸出利率の改正を行ふと同時に、預金利率については、從來南發は市中銀行よりも五厘安となつてゐたものを五厘高に改め、都合一步の引上げを斷行した。貸出利率は從來一率に四分と決定されたが、新貸出利率によると、一般開發擔當者に對する開發

復舊關係貸出資金は年四分五厘で、物資收買のための資金は市中銀行に對して年利三分、銀行から更に業者に貸出される場合は年利四分五厘となつてゐる。また市中銀行の手許資金不足を補ふ意味で南發が市中銀行に貸出すもの及びその他一般の貸出の場合は年利四分に決定された。

銀行預金利上げ斷行

民國との間に一般電報取扱ひを開始する旨發表した。この二局の開設により比島の既設通信局數は合計四十八に達した。

南發貸出預金利率改正

南方開發金庫比島支金庫では、比島内の開發復舊の促進のため、四月十五日より貸出利率の改正を行ふと同時に、預金利率については、從來南發は市中銀行よりも五厘

安となつてゐたものを五厘高に改め、都合一步の引上げを断行した。貸出利率は從来一率に四分と決定されたが、新貸出利率によると、一般開發擔當者に對する開發

復舊關係貸出資金は年四分五厘で、物資收買のための資金は市中銀行に對して年利三分、銀行から更に業者に貸出される場合は年利四分五厘となつてゐる。また市中銀行の手許資金不足を補ふ意味で南發が市中銀行に貸出すもの及びその他一般の貸出の場合は年利四分に決定された。

銀行預金利上げ斷行

行政府では、從來土木交通部内にあつた交通局、公共事業局の二局を廢し、新に公益局を設置した。新局は廢止された二局の機能を統合の上更に能率の増進をはかることとなり、四月十五日より開局した。

北部ルソン新鐵路線起工式

ルソン島内の鐵道網は、四月二十一日のレガスピー線その他二線の開通によつて戰前の九十七・ペーセントまで復舊するに至つたが、軍政監部では、更に北部幹線の終點たるサンフェルナンド(ラ・ウニオン州)より同州のスマパンカヤン銅山の鑛石輸送に使用される筈である。

北部ルソンに二通信局開設

比島派遺軍電政局では、四月二十五日より北部ルソンのイサベラ州イラガン及びカガヤン州ツゲガラオの二通

信局を再開、比島内相互間及び日本内地、滿洲國、中華

比島銀行協議會では、比島内の浮動購買力吸收のため、四月二十八日、左の如く預金利上げ斷行を申合せ、軍政監部の認可を得て、来る五月一日より實行することに決定した。新舊預金利率は次の如くである。

	新率	舊率
定期預金	三分	二分
特別當座	一分	一分五厘
通知預金	二分	一分二厘五毛
當座預金	無利息	無利息

第二回敵性重行預金拂戻し

比島内敵性銀行預金に關しては、軍政監部では五月七日より第二回預金拂戻しを開始することになり、四月下旬その旨を一般に發表した。今回預金拂出が行はれるのは左の七行であるが、拂出を受けるものは日本人、比島人、第三國人及び支那人である。

ナショナルシテー銀行、ビーブルス銀行、中興銀行、

ヒリッピン交通銀行、香港上海銀行、チャータード銀行、蘭印商業銀行

—(146)—

生椰子出荷組合創立

南部ルソンの椰子生産地帯よりマニラ市に搬入される生椰子の統制を目的とする比島生椰子出荷組合が四月十七日創立された。同組合は、比島人生椰子取扱業者をもつて組織され、ラグチ、タヤバス、カビテ、バタンガスの各州よりマニラに搬入される食糧用生椰子の一元的な出荷統制を行い、マニラ市内への生椰子密搬入を防止すると同時にマニラ市民に對し公定價格による生椰子の供給を確保せんとするものである。なほ新組合の理事長にはR・A・コシオが任命された。

4444 パーモ行政長官一行歸還

ビルマ

帝國政府の招きに應じ、初めて日本を訪問、畏くも天皇陛下に拜謁の榮を賜り、東條首相はじめ我が軍官民首腦部と隔意な意見の交換を遂げたパーモ行政長官一行は、四月十四日午後三時十五分、空路ラングーンに歸還した。

パーモ長官戰時下日本の餘裕を嘆賞

訪日の方からラングーンに歸還したパーモ行政長官は、四月十四日記者團と會見、次の如き一問一答を行つた。
問 「戰時下日本の印象如何。」
答 「長期戦下物心兩面に亘り國民の總力を結集、戰備を整へてゐる日本の姿は眞に力強い。殊に軍需工業の卓越性、大規模な生産機能には只驚くばかりであつた。また街頭を歩いてゐる青年層の意外に多いのには目を瞠つた。これはこの大戰争を遂行してゐる日本がまだく人の餘裕がある證左として非常に心強

4445 く感じた。」

問 「日本の田舎をどう思はれたか。」

答 「下志津へ行く途中で田舎を見たし、岡崎の私立農場も見學したが、純朴な日本農民の姿は眞に心強い。」

問 「特にビルマが日本の如くありたいと思はれるものは何か。」

答 「日本各地を歩いて一番強く感じたのは、國民の組織が完全であるといふことと責任觀念の強いといふことである。これはビルマが今後斯くあるべく進まなければならぬことである。」

パーモ黨首演説要旨

四月十七日ラングーンに開催されたド・バマ・シンエサ聯盟總會席上におけるパーモ黨首の演説要旨は左の通りである。

「多年吾等の宿望たりし獨立も、本年中には實現することに決定し、本年こそはビルマにとつて眞に劃期である。」

1、ビルマの獨立を實現するためには、國土防衛軍とともに全國民が勤勞を奉仕し、廢墟と化したビルマ全土を大至急に復興させなければならない。

三、前記の二行動に参加し得ない残された男子及び子供も同様に新しい國民的仕事の一部分は負擔しなくてはならず、その仕事は爆弾や機關銃の背後にあつて治安を維持し、國法を遵守し、戰争遂行下のビルマ國民として恥かしくない矜持を保つことこれである。

四、最後に掲げるものは、或は前記三つと重複するかも知れないが、新ビルマ建設に邁進する千六百萬の全ビルマ人が一つの命令、一つの統率の下に一致結束、全國民的團結を鞏固にして、獨立實現、最後の勝利獲得のために全幅的な努力を拂ふべきであり、このことは日本は勿論ドイツ、イタリア等の諸國が勝利のために全國民が總ゆる犠牲をしのんではある實情を見ても諒解出来ると思ふ。」

對外放送擴充

昨年八月放送開始以來對内外思想宣傳工作に活躍を續けてきた前ビルマXYZ放送局は、敵國の思想宣傳謀略

ものと見られる。

印 度

アラカン作戰損害一部發表

英印度軍司令部は四月二十三日附公報をもつてアラカン作戰損害の一部を發表した。その内訳は次の通りである。

死傷並行方不明

一、總 數	三千五百十四名
一、英國軍	一千五百七十二名
一、印度軍	千九百四十二名

戰 死

一、總 數	三百九十二名
一、英國軍	百七十一名
一、印度軍	二百二十一名

右表によつて既に明かな如く、印度軍側の損害が英

を完全に粉碎すべく、豫てより強力短波の送信機の設置を準備中のところこの程放送施設の完成を見るに至つたので、愈、四月二十九日より番組内容及び放送時刻を刷新擴充、強力電波を以てニューデリー其他の敵國放送に斷然挑戦を開始することとなつた。今回の對敵放送は特に對印度放送に重點が置かれてゐるが、このため從來の印度向けニュース、時事解説等二時間を一躍七時間二十分に増加し、朝晩夜の一般のほか特に家庭向の時間を選び、原住民の實生活に即應し聽取容易の時間を設定、また用語も從來使用してゐた英語、ヒンドスター、ベンガリ、タミールの四用語のほかグジエラティ、パンジャビ、ペルク、マラテイの九種を加へて十三用語として、全印度民衆に向つて放送電波が向けられることとなつた。今回の放送機能擴充によつて電波は遠く中央アジアも及ぶわけでわが對外送放陣は更に一大威力を加へる

ものと見られる。

印度

ベンガル州首相にナジムチン任命

ベンガル州知事ハーバートは、ファズル・ファク内閣辭職後、三月三十一日、インド統治法第九十三條に基づき、州の行政権を一時掌握し、ベンガルの政情が極めて深刻な危機にあることを示したが、四月二十四日、ナジムチンを州首相に任命したと發表した。

總督國防法第二十六條を否定

印度政廳はガンジー翁等が非協力運動を開始するや、印度國防法に基く印度國防章程第二十六條に基き、會議派の領袖約九千名を投獄するに至つたが、四月二十二日印度最高法院において、サー・モーリス・ガイナー裁判長とし、右章程第二十六條に基く會議派領袖の逮捕監禁が合法的なりや否やとの試訴につき判決が下つた結果、

果然印度政廳の措置は、法律上不備を免れないとの驚くべき事實が確認されるに至つた。

因に一九二〇年の印度國防法によれば印度政廳は「相當の嫌疑ある場合」印度人を押留出来ることになつてゐるが、施行細則たる國防章程第二十六條には「相當の」といふ辭句が抜けており、「當局が當人の罪狀を認め得た場合」となつてゐるので、今回の判決に於ては、ガンジー翁等の逮捕が違法であると斷定されるに至つたわけであるが、リンリスゴー總督は、四月二十八日總督令を公布し、「相當の嫌疑ある場合には容疑者を逮捕監禁出来る」旨國防法第二十六條を事實上否定した。

反英抗争の現状

その後の印度の反英抗争については、エイメリー印度事務相が四月十五日の英下院で、

「最近三ヶ月間に於ける交通妨害は、一月二十八件、二月十六件、三月十七件、四月に入つてからも脱

線未遂一件その他四件が數へられてゐる。」と報告してゐるが、印度に漲つてゐる反英感情の熾烈さを裏書きする「三の例を擧げれば次の如くである。

一、四月初旬、英人將校がマドラスのホテルで惨殺された。

二、四月十三日、英人將校三名がベシヤワルのホテルで殺害された。

三、四月十五日、ビハール州ジャムシエドプールのタタ製鋼所に暴動が起き多數工員が逮捕された。因にタタ

六五%を產し現在は重要な兵器廠となつてゐる。

四、四月十八日、バトナ驛で爆弾事件が起きた、それは印度交通上の要衝を占める大都市驛の出來事であるだけに注目されてゐる。

尙、(一)の事件については、印度政廳は僕殺嫌疑の印度兵四名を逮捕して四月十日に死刑にしてゐるが、犯行を立證する證據もなしに行つたため、全印は勿論ロンドンでも問題になつた。又、傳へられる所によると、四月十三日の「アムリツア虐殺記念日」には全印度各地で示威運動が決行されたといはれてゐる。

現在の反英運動を見るのに、その被害者の中に英人將校が少くない點は、英國の彈壓により反英感情が内攻し、深刻化してきた證左とみるべきであらう。尙、ロンドン・タイムズ紙發行の印度の反英抗争に關する小冊子中には、「反英運動は組織的な武器廠網を持ち無電機械による連絡を行つてゐる」と述べてゐる。

ジンナー對英強硬意見發表

回教徒聯盟は、四月二十四日、會員一萬五千人參加の下にニューデリーにおいて年次大會を開催、聯盟首領に

ジンナーを再選したが、大會席上ジンナーは三時間に亘り長廣告を揮ひ、痛烈に英國の印度統治を非難し、次の通り述べたと傳へられる。

一、印度政廳は頻りに印度人に對し戰爭努力に協力するやう要請して居るが、以上の協力に對し印度人は何を以て酬ひられたか、南阿聯邦議會は印度人土地所有禁止法案を可決し、印度人は再び「有色人種立入り禁止令」を與へられたのである。

二、英國人は回印兩教徒の分割統治を企圖して居るがガンジー翁は何故直接余に書簡を送らないのか、印度人は一致團結して英人を追ひ出さうではないか。

食糧事情近況

最近印度の食糧不足は特に甚しく、一九三七—三八年度に於て全印米產額の三三・七九%を產した印度第一の米產地、ベンガル州に於て、米價が戰前の六倍に達して米不足を來してゐる。

この米不足は、四月十五日にエイメリー印度相が英下院で報告したところでも裏書きされてゐるが、又、一九三七—三八年度に全印度米産額の一八%を産してゐる印度第一位の米产地マドラス州でも食糧不足が頗る深刻で、兵隊中から多數の餓死者を出してゐるといはれ、更に、一九三七—三八年度に全印度小麦産額の三四、五%を産して全印第一位を占めたパンジャブ州に對しても印度國防會議は小麥、米の州外搬出禁止令を引續き施行するに決定したと傳へられてゐる。

斯の如き印度有數の食糧產地に於て飢餓並に食糧昇騰が顯著になつた事實から見れば、印度の食糧狀況は極めて逼迫してゐるものと考へられる。殊に印度人の大多數が英國多年の虐政搾取により極度の貧困に陥つてゐることを思ひ合はせると現在の印度人の食糧入手難は言語に絶するものがあるに違ひない。然も英國は、印度に兵站基地としての役割を負はせて、全面的な人爲的大飢餓

四月二十二日附ステーヴマン紙社説の引用する一九四一年人口調査報告によれば、印度總人口中ヒンズー教徒は六割六分、回教徒は二割四分である。

回教聯盟南阿政廳に強硬抗議

南阿聯邦のトランスバール並にナタール兩州に於ける印度人土地所有禁止法案に關し、國民會議派の彈壓並に地下潜入後、印度内隨一の合法政黨として頗に勢威を加へた回教徒聯盟は四月二十五日夜、會員一萬五千名出席の下に満場一致次の強硬決議案を採擇した。

一、南阿聯盟議會が印度人土地所有禁止法案を採擇し、英帝が同法案を裁可する場合には印度人と南阿人との間に重大な分裂を惹起するであらう。

一、以上の情勢に鑑み、印度政廳は直に南阿聯邦と交渉を開始すべきであり、南阿聯邦政廳もまた法律的な處理を止めて印度政廳との間に會談を開催し、友好的に懸案を解決すべきである。

一、萬一印度人排斥法案が施行せられる場合には既に中央立法院議會に於て採擇されてゐる相互法の條項を南阿人に對して即時適用することを要求する。

印度政廳對南阿抗議聲明發表

南阿聯邦議會が印度人土地所有禁止法案を可決したのに對し、印度政廳は、四月二十七日、要點左の如き抗議聲明を發表した。

一、南阿聯邦議會はナタール州並にトランスバール州に於ける印度人土地所有禁止法案を可決したが、かくの如き制限的法律によつて南阿聯邦に於ける印度人問題は些かも解決されず、徒に世界至るところの印度人の感情を甚しく傷けるだけである。

一、印度の輿論は一致して、南阿聯邦今回の法律に反対を表明し、以上の措置は「嫌惡すべく不必要且つ機宜を失してゐる」と述べてゐるが、印度政廳は以上の見解に全く同意する。

の迫つてゐる印度から尙も大量の食糧を奪つてゐる有様である。

紙幣濫發による惡性インフレ傾向顯著

印度知名經濟學者二十名共同聲明

印度知名經濟學者二十名は、四月十一日、要旨左の如き共同聲明を發表した。

「印度政廳は印度に於ける英國政府の費用は總て紙幣の增發で補填してゐる有様であるが、その結果紙幣の流通量は、國內の生産及び需給とは關係なく、益々増大してゐる狀態で、既に最も惡性的インフレーションが作用してゐる。印度政廳は、即時増稅、募債、強制貯蓄等の對策を講ずべきであつて、英國、又は反権軸國政府の何れの爲めであるかを問はず、印度の健全な經濟生活を破壊するが如き多量の物資供給の責任を引受けるべきではない。」

印度人口調査

(154)

濠洲

		戰死及行方不明	負傷	合計
		一、三七九	三、八三三	六、二一二

ニューギニア戦線兵力損害發表

西南太平洋反権軍司令部は、四月十六日、ニューギニアに於ける米濠軍の四月一日迄の損害を次の如く發表した。

戰死及行方不明	四、五五四
負傷	五、九七七
合計	一〇、五三一
米軍(陸、空軍合計、但し大部分は空軍)	一一、一七五
戰死及行方不明	二、一四四
負傷	四、三一九
合計	六、二一二

濠洲軍

		戰死及行方不明	負傷	合計
		一、三七九	三、八三三	六、二一二

沿岸地區に煙火管制實施

コリンズ内相は、四月十三日、濠洲沿岸地區の住民に對し嚴重な煙火管制の實施を指令した。

徵兵年齢十八歳に引下げ

フォード陸相は、ニューギニア戦線で多數の將兵を喪失した結果、徵兵年齢を十九歳から十八歳に引下げる方針であると四月十二日表明した。

カーチン首相對米英不滿吐露

政府は、四月初旬以來西南太平洋反権軍總司令官マックアーサーと相呼應し主要關係總出で米英に空軍増援を要請したが、カーチン首相は、四月十八日夜、要旨左の如きラジオ放送を行つた。

「カサブランカ會談において、ルーズベルト大

統領とチャーチル首相とは世界戰略を決定したが、右決定により濠洲は「持ち耐へる戰争」を課せられた。

その結果、濠洲の資源と戰力とは消耗し、他の部門においても極めて重大な限度迄精一杯勤貢されることとならう。反権軍の敗北で屢々濠洲北邊における戰力が最高點迄張りつめられたが、濠洲國民は一層の困難を覺悟し一段の努力を振はなければならない。以上は濠洲國民に告げる言葉であるが、余は同時に盟邦諸國に對してはつきりと申上げたい。成る程濠洲政廳はカサブランカ會談で決定された世界戰略には同意したが、ドイツ軍を打ち破った後に濠洲を攻勢の基地とするといふことに同意したまでであつて、軍需資材特に軍用機の濠洲に流れ込む分量が西南太平洋における「持久戰」の要求に副はない程少なくなつてもよいといふ意味では絶対にない。

エヴァット外相は、議會閉會後、米英訪問の途につい

たが、滯米中の同外相の主な動靜は左の通りである。

(155)

西南太平洋で目下行はれてゐる交戦においては、空

軍力が極めて重要であつて、反権軍の空軍兵力は常に充實されてゐなければならない。現在迄に西南太平洋戦域に到着した軍用機の機數は、反権軍の戰略により濠洲と米國とに振り當てられた「持久戰」を遂行するには不充分である。例へば日本軍航空部隊が先週ミン瀬灣を爆撃した際など反権軍空軍は仲々勇敢に邀撃したのであるが、日本軍は邀撃を物ともせずに目標に到達、目的が達成されるまで踏み止つた。目的とは即ち貴重な船舶の粉粹である。反権軍は日本軍に反撃を加へようとしてゐるが、日本軍航空部隊が來襲する毎に濠洲に對する脅威は増大し、空軍力が消耗して行く。勿論濠洲は自信を以て將來に直面してゐるが、同時に現實を無視してはゐない。」

四月七日 桑港着
八日 桑港出發、ロスアンゼルに立寄り宋
美齡と會見
十二日 ホワイトハウスにルーズベルト大
統領を訪問
十二日 新聞記者團會見
十五日 全米向けラジオ放送
二十五日 再び全米向けラジオ放送

エヴァーアット外相日本の脅威力説

訪米中のエヴァーアット外相は、四月十二日、ワシントンに於てホワイトハウスにルーズベルトを訪問して、西南太平洋戦線に對する兵力増強を要請したが、更に翌十三日歐洲重點主義の誤謬を指摘して、次の通り述べた。

「日本軍は、今や東亞に新たな經濟帝國を建設し、ゴム、石油、錫、鐵礦、キニー、その他の重要資源につき殆んど無盡蔵な寶庫を占有するに至り、これら物資に

關する限り反樞軸國は全く閉出しを喰つてゐる實情である。萬一、日本軍が同方面に地歩を確立することとなれば、反樞軸軍は非常な窮地に立つ結果とならう。更に日本軍は、人的資源並に船舶についても西南太平洋に於て非常な數的優勢を維持してゐる。戰局の現状に内在する特殊の危險はこゝに存するが、現在米英兩國が主として世界戰略を決定し、西南太平洋の實情が十分考慮されてゐないのは遺憾である。」

エヴァーアット外相對米放送要旨

外相ハーバート・エヴァーアットは、ワシントン乗込み以来、西南太平洋戰局の重大化を說いて米國政府並に反樞軸軍最高首腦部の考慮を要請してゐるが、四月十四日夜、特に左の如き要旨のラジオ放送を行ひ、米國民に呼びかけた。

「反樞軸軍は、西南太平洋において何んとか戰線を持ちこたへてゐる。しかし、日本軍に息つく間を與へて

はならず、ドイツ軍打倒を目指すと共に何所でも日本軍と遭遇したら攻撃を加へなければならない。」

駐米公使歸國

米國駐劄公使オーラン・ディクソンは、四月二十二日、

キャンベラに歸還した。

物價停止令公布

四月十三日附ロンドン・タイムズ紙メルボルン特電によれば、チーフリー藏相は、十三日夜物價停止令を公布、十四日朝から實施した。これによると總ての商品及び勞務の價格は四月十三日の水準に釘付けされることとなつてゐる。

クリーム販賣禁止

政府は、四月二十七日、軍隊への供給確保の目的から、五月四日以降クリームの販賣を全國的に禁止する旨發表、併せて今後における暖房料理用具の販賣禁止とも發表した。

太平洋軍事基地對米供與に關し

ナッシュ駐米公使言明

ウエリントン歸還中の駐米公使ウォルター・ナッシュは、四月六日、新聞記者團と會見、次の様に述べたといはれる。

「ドイツ軍を叩いた後で太平洋の基地を利用して日本軍に對し攻勢に出ることは反樞軸の作戦ではなく、反樞軸軍が全力を歐洲方面に注いで日本軍に對する攻勢を輕視してゐると言ふ見方は誤解も甚だしい。しかし兵力を歐洲と太平洋の兩戰線に一分することは兩戰線で決定的な戰果を收め得る所以ではない。尙余が政府を代表して太平洋にあるニュージーランドの基地を米國乃至その他の外國に供與するが如き言明を行つた事實はない。しかし相互的基礎に立つて太平洋の基地を永久に防衛することについて協定を締結することには賛成である。換言すればニュージーランドが米國の支

配下にある基地を使用出来ればニュージーランドの基

地の米國による使用は容認する。基地使用に關する協議には重慶、英帝國、蘭印、米國、カナダ、濠洲、ニュージーランドの七ヶ國が參加しなければならない。」

ジョーンズ国防相空軍増援力説

國防相フレデリック・ジョーンズは、訪米の途次、四月七日空路ロンドンに到着、直ちに英副首相クレメン・ト・アトリーと會見し、太平洋方面一體戰局に關し協議したが、會見後ニュース・クロニクル紙記者と會見して次の様に語つたと傳へられる。

「ニュージーランドが現在最も必要としてゐるものは飛行機である。日本軍に對して五角の戰闘を行ふためにはどうしても多數の飛行機が必要で、戰前におけるニュージーランド空軍の兵力は七百五十名、現在は二千名に増加されてゐるが、これ丈では日本軍に對抗することは出來ない。」

南阿聯邦

力ナダ

百萬磅は軍事費である。

印度人土地禁止法案通過

ナタール、トランスパール兩州在留印度人の土地購入禁止法案は、四月二十一日、南阿聯邦議會で第三讀會を通過した。

印度人會代表嚴重抗議

ナタール州在留印度人會代表は、四月二十三日、南阿聯邦議會は四月二十七日を以て閉會したが、閉會に際し一億六千九百萬磅の豫算を可決した。うち一億三

現有兵力七十萬以上

首相マッケンジー・キングは、一千百萬弗に上る第四次戰時公債の發行に當り、四月十九日、トロントからラジオ放送を行つたが、その際カナダ軍の現有兵力につき次の如く述べた。

「カナダ軍の現有兵力は七十萬を越えてゐるが、年内に海軍擴充計畫が完遂されれば海軍兵員數は開戰直前の英海軍に略、比肩することとならう。現有兵力の内譯は次の通りである。

議會閉會
南阿聯邦議會は四月二十七日を以て閉會したが、閉會に際し一億六千九百萬磅の豫算を可決した。うち一億三

4457

4456

4457

一、婦人補助部隊 二萬一千名

このほか豫備軍で短期服務中のものは數萬名に達する。陸軍四十三萬五千名中十九萬以上は英本國に駐屯しており、一十四萬以上がカナダ本國の防衛に従事してゐる。尙、十八萬以上は海外勤務のため志願した兵である。」

海軍艦艇總數五百隻餘

カナダ駐箚高等辨務官マクドナルドは、四月二十九日、カナダ海軍の現有勢力に就て次の如く語つた。

「カナダ海軍の現有勢力は驅逐艦、コルヴェット艦、

補助巡洋艦、駆潜艇を含めて總數五百隻餘に達する。」

空軍アリューシャン方面米軍に協力

米國政府四月二十八日の發表によれば、アリューシャン列島の日本軍基地に對する米軍の攻擊にカナダ航空部隊も參加協力してゐる。

海外派遣空軍維持協定調印

共に對英補給が絶対に必要である旨を次の如く強調したと傳へられる。

「船舶不足のためカナダ以外の國から英本國に供給される肉類は極めて少く、カナダとしてはこれに代る丈夫の大量の肉類を送らねばならない。これは英國の肉類の配給を増加するといふ爲めではなく英國のぎりぎり一杯の窮状を救ふためである。」

各種金屬十二鑄山を接收

四月十三日附英紙ファインシヤル・ニュースの報道によれば、カナダ政府は下院において銅、鉛、モリブデン、タンクスティン及びクローム等各種金屬の鑄山十二を接收した旨發表したといはれる。

フオード系飛行機工場罷業

カナダ最大の軍事工場といはれるフオード自動車會社のウインザー飛行機工場労働者約一萬五千名は、四月二十四日から罷業を開始、同工場は操業停止のやむなき

ロンドン駐箚カナダ高等辨務官ヴィンセント・マツ

シーは、四月二十日、シンクレア英空相との間に海外派遣カナダ空軍の獨立に伴ふその維持費支辨に關する英加協定に調印した。從來カナダ政府はカナダ國內に於ける空軍の維持のみに當り、一旦海外に派遣された場合は英空軍の所屬に編入されてその維持費も英國政府が負擔してゐたが、今回の協定により今後は海外にあるカナダ空軍に要する一切の經費はカナダ政府が支辨することとなつた。これによるとカナダ政府の負擔額は一年約三億五千萬弗に上ると推定される。

駐重慶初代公使着任

重慶派遣初代カナダ公使V.Y.オドラム少將は、四月二十日ニユーデリーに到着、同三十日重慶に着任した。

肉類不足の原因は英本國への大量供給

最近國內における肉不足が深刻化したが、戰時物價局は四月十七日聲明を發し、肉類不足の要因を説明すると

上下兩院議長選舉

アルゼンチン上下兩院は、四月二十六日、夫々次期議長選舉のための豫備會議を開催したが、下院は急進黨議員カンチーロを議長に、社會黨フラーを第一副議長に、急進黨マルチネスを第二副議長に選舉し、又上院に於ては、パトロン・コースタを議長に再選した。

アルゼンチン

モレーノ知事辭職

ブエノスアイレス州知事モレーノは、同州民主黨領袖側より、副大統領立候補方の勧誘を受けたが之を拒絶し

四、七〇〇、〇〇〇ペソで、内訳は左の通りである。

く促進した。

小麥 三五〇、六〇〇、〇〇〇ペソ

玉蜀黍 一四六、七〇〇、〇〇〇ペソ

其の他 一六七、四〇〇、〇〇〇ペソ

政府が銀行より借入した此の種の資金は、昨年末に於てバンコ・デ・ナシオンより七五五・八〇〇・〇〇〇ペソで、之に其の他の銀行よりの借入分を加へ合計一、〇〇六、〇〇〇、〇〇〇ペソに達してゐる。

近年に於ける農産物の輸出減退の傾向に鑑み、政府は過度の農業重點主義を排し、牧畜に主力を注ぐ一方、農産業の多角化を圖ることとし、バンコ・デ・ナシオンに命じて所要資金の貸付を行はして居るが、右貸付額は、昨年度に於て、一八、三八〇、〇〇〇ペソに上つた。政府の右施策は、同年度に於ける英國の肉類需用が活氣を呈した(肉類の對英積出量は毎週約一萬噸と云はれる)のに伴ひ肉類値段の昂騰と相俟つて農業者の牧畜轉向を著し

今次大戦の刺戟に依る工業生産の組織的増加に伴ひ、

國內には、從來の農牧業中心から農工國に轉換しようとする傾向が顯著になつてゐるが、工業原素品及び機械類の供給は輸入に俟たなければならぬので、戰争が長期化すれば、その活動停止を餘儀なくされる處がある。しかし目

下のところ戰前既存の工業が全能力を擧げて生産に邁進し、工場の増築及職工の増員にも努めてゐる一方、中小工場も續出し、製品の品質改良、重要代用品の使用等その努力には見るべきものがある。そして、昨年度に於ける工業生産の總價額は、七十億ペソ(原料品總價額二十六億五千萬ペソを含めず)に達し、又、生産數量總額に就ては、一九三九年度に比し、一六パーセントの増加を示した。燃料は、その輸入減少と國內工業増産に伴ふ消費増加の結果不足を感じてゐるが、内國產燃料の増産及玉蜀

4463

黍、亞麻、木炭に依る補充の外一般消費の節減等によりその不足を緩和するに努めてゐる。尙、燃料の國內全消費量に對する輸入燃料の比率は、一九三九年度に於ては、四十パーセントであつたが、昨年度は十五パーセントに低下した。

生活必需品物價指數

物價漸次騰貴

後掲支拂資金膨脹の傾向は勢ひ物價騰貴の傾向を助長し、一九二六年を基準とした最近三ヶ年の卸値段物價指數について見ると、夫々一二三、一四五、一及び一八七、六(昨年十一月一九二)である。尤も右物價騰貴の

傾向は、支拂資金の循環速度の漸次低下(最近三ヶ年に於ける右循環速度は、一九三九年を基礎とすれば夫々九一、八九及び八三である)及び取引の増加、(例へば不動産の賣買價額は一九四一年度に於ては、三萬七千四百六十萬ペソであるが、昨年度に於ては、六萬六千九百二十万ペソに增加し、又商品取引高は、戰爭の進展に拘らず最近その頂點に達した。)等の原因により一時的に緩和されてゐるが、支拂資金の膨脹は、早晚益々物價を騰貴させるものとみられてゐる。

支拂資金膨脹

一九四二年度に於ては、支拂資金の著しい増加を見た

—(165)—

衣 石 牛 米 魚 鶏 類	牛 肉 猪 豚 菓 品	類 煤 炭 乳 品	類
バ ン	六七	一六四	一九一
馬 鈴 薯	八七	一〇〇	九〇
牛 肉	一〇・一〇	一九・七	一〇・六
類	六六	九七	一〇・六
牛 肉	一〇・〇〇	九七	一〇・〇
類	九〇	一五・六	一五・六
牛 肉	一〇・〇〇	一〇・六	一九・四
類	一一・一	一一・一	一一・一
牛 肉	一一・一〇	一一・一	一一・一
類	一一・一	一一・一	一一・一

4462

—(164)—

—(167)—

44

44

—(166)—

が、その主な原因は、之を國內的に見ると、收穫期における農業者に對する金融の爲の政府投資の外に、政府の土木事業としての銀行貸出金(四億八千二百萬ペソ)を擧げることが出來、又、外部的原因としては、金及對外受取勘定に基く爲替資金並に不斷の外資流入により生じた四億六千五百萬ペソが擧げられる。(一九四二年末に於ける右資金操作の殘高は、二億三千五百萬ペソである。)

一九四〇年	流 通 高	一、一、一七〇〇〇,〇〇〇八ソ
當 座 勘 定	支 拼 資 金 總 額	一、六五三一〇〇〇,〇〇〇八ソ
一九四一年	流 通 高	一、七八〇,〇〇〇,〇〇〇八ソ
當 座 勘 定	當 座 勘 定	一、一、一九〇〇〇,〇〇〇八ソ

チ
リ
ー

武器受渡監督のため、本年三

四月三日歸國した。

政府は、四月四日、在倫敦チエツコ亡命政権を承認し、外交關係を設定した。

の協議及び農業諸機構視察のため米國を訪問の豫定であつたが、四月九日附で最近北米に於て開催される筈の食糧問題會議チリ代表に任命せし。

飛行郵便取扱開始

亞風月刊

に締結された協定に基き、ニューヨーク、リスボン經由チリー歐洲間に毎日飛行郵便が取扱はれることになつた。モラレス内相對ソ復交意向言明
モラレス内相は、四月十一日、民主、社會兩黨其の他の左翼各派の會合に出席して、對ソ復交の意向を次のやうに表明した。

「チリーはソ聯と外交關係を再開する用意がある。但し國交回復は双務的なものであるから、チリー政府はソ聯の申出を待つてゐる次第である。」

亞國より毎月三百頭の牛輸入
從來チリーは、アルゼンチンから毎月、牛百八十頭を輸入してゐたが、メントダ、ブンタ・デ・ヴァカス間の道路連絡業務及びアンデス横斷鐵道の運輸改善に關し、アルゼンチン、チリー間の諒解が成立した結果、四月以降右經路に依り毎月三百頭を輸入することになつた。

に締結された協定に基き、ニューヨーク、リスボン經由チリー歐洲間に毎日飛行郵便が取扱はれることになつた。モラレス内相對ソ復交意向言明「チリーはソ聯と外交關係を再開する用意がある。

—(168)—

—(168)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

ブ ラ ジ ル

—(169)—

—(169)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

ゴメス軍事使節歸國

—(169)—

—(169)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

デジヤネイロに歸還した。

—(169)—

—(169)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

重慶公使館を昇格

—(169)—

—(169)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

ヴァルガス大統領は、四月二十七日、重慶駐箚ブラジル公使館を大使館に昇格せしめる旨發表した。

—(169)—

—(169)—

現在北米航路中、唯一のチリー船會社のコンパニー

ヤ・スドアメリカ・デ・ヴァボーレスは、政府の要請に應

じ、北米商品のチリー向輸送の爲、船舶改造を行ひ、更に輸送方法を合理化した結果、一九四二年に於ては十六萬七千噸であつた輸送能力が一九四三年度に於ては二十萬三千噸に増大した。

バロス經濟總動員調整官は、今後、ブラジル沿岸航路の船舶運輸を一切同調整官の管理下に置く旨四月二十九日發表した。右は最近輸送力の缺如に基く同國內の食糧不足、特に砂糖の缺乏が激化した爲めの措置である。

4467

4466

チリー要炭に邦人無事

——山形公使より報告入電——

四月六日、チリー中部地方に首府サンチャゴ市を中心として南北約千二百粧に亘り、千九百三十九年以来の強震あり、チリーに在留する山形公使以下七百名の在留邦人の安否が氣遣はれてゐたが、十五日、スエーデン政府を通じ山形公使より在留邦人一同無事なる旨外務省に入電があつた。尚、チリー政府は、今回の地震により、三千萬ペソの損害を受けた旨八日公表した。

四月六日、チリー中部地方に首府サンチャゴ市を中心として南北約千二百粧に亘り、千九百三十九年以来の強震あり、チリーに在留する山形公使以下七百名の在留邦人の安否が氣遣はれてゐたが、十五日、スエーデン政府を通じ山形公使より在留邦人一同無事なる旨外務省に入電があつた。尚、チリー政府は、今回の地震により、三千萬ペソの損害を受けた旨八日公表した。

四月六日、チリー中部地方に首府サンチャゴ市を中心として南北約千二百粧に亘り、千九百三十九年以来の強震あり、チリーに在留する山形公使以下七百名の在留邦人の安否が氣遣はれてゐたが、十五日、スエーデン政府を通じ山形公使より在留邦人一同無事なる旨外務省に入電があつた。尚、チリー政府は、今回の地震により、三千萬ペソの損害を受けた旨八日公表した。

される團體の手に移し、後日可及的速かに、生來のペ

ル一人又は生來のペル一人を以て構成する法人に移譲

するものとする。」

内閣一部改造

政府は、四月十一日、外務省を通じて、在留樺軸國人に屬する一切の商業收用に關する法令を公布したが、同日リマ發ロイター通信によれば、右法令は、結局、在留樺軸國人に屬する農業、商業及工業等凡ゆる種類の營業の收用方を行ふものと傳へられる。

同法令の内容は大要左記の通りである。

ボリヴィア

政府對樺軸宣戰問題審議

ペニヤラング大統領、エリオ外相、カンジヤ國防相及び參謀總長イチャソ將軍を以て構成されてゐるボリヴィア最高國防審議會は、四月五日、左の如きコミュニケを發表した。

—(169)—

—(169)—

政府は、樺軸國民に屬する一切の商業中五月三十一日迄に生來のペル一人又は生來のペル一人を以て構成

する法人に移譲されてゐないものは、同日限り之を收用することを命ずる。そして收用された商業は、その適當な管理の爲、同日以降當局の監督下にある銀行、會社、既存の公的又は私的團體、或は必要に應じ設立

「最高國防審議會は、聯合國與國の一員としてのボリヴィアの立場、米洲連帶責任に基く義務、生産手段と運輸網の組織化促進及び國防整備に關する諸問題に關し豫ねて發表された研究並意見を統一し、且廣汎な審議を遂げた上、日、獨、伊樞軸國と戰爭狀態に入るやうボリヴィア國を導き、そして國軍組織法により大統領に賦與された權限を行使して、之を適切な時機に議會に報告し、正式宣戰に關する審議をさせるやう大統領に建議することとした。」

右戰爭狀態宣言問題に關する政府は、四月六日及七日の兩日に亘り閣議を開催し其の可否を審議した。

尙、四月六日、大統領は、新聞記者會見に於て、「宣戰は國際的には勿論、國內的にも亦法的效力を有するものである」と言明し、又外務大臣は、「對樞軸斷交國は、何れも戰爭終了の暁、平和會議の卓上に於ける議論の單純化に資する爲夫々行くべき最後の所迄行かなければならぬ

い。」と述べたと云はれるが、ボリヴィア今回の措置は、餘りに突然であつた爲、國民を驚愕させた模様である。

對樞軸宣戰布告

四月七日夜戰爭狀態に關する大統領令が公布され、外務大臣は、在外ボリヴィア國使臣に對し夫々任國政府に右戰爭狀態布告に關し、通告方を訓令した。尙、關係大統領令の要旨は左の通りである。

一、ボリヴィア國は反樞軸諸國との連帶責任を再確認し、樞軸諸國との間に戰爭狀態に入る。
二、國家總動員を命じ、その實施は關係法規において定められる官憲が之に當る。

樞軸諸國との間に戰爭狀態に入る。

三、最高國防審議會は本大統領令に基く措置を執る爲常設機關として存續する。

エリオ外相聲明

戰爭狀態に關する大統領令公布後、エリオ外相は左の通り聲明した。

「政府は、正義の回復並に國家の主權及びデモクラシーキ制度を尊重する平和確立を目指して闘ひつゝある反樞軸國側與國としての立場並に米洲連帶責任に基く義務に關し、豫て行はれた各般の研究を仔細に再検討した上、今回の措置に出たものである。」

國家總動員の目的は、軍需鑛物資源の開發増進、運輸網擴充に關する既定計畫、即ち鐵道、道路、空港の建設並油田地帶及謹慎產出地帶における空路、河川航行施設の外、農牧業開發に必要な一切の施設の整備を促進せんとするもので、以上は、現下の國防上國家の絶對要求に基くものである。

尙、正式宣戰の布告は、急遽召集されるべき議會の協賛を要することは勿論である。」

イチヤソ參謀總長聲明

戰爭狀態に關する大統領令公布後、イチヤソ參謀總長は左の通り聲明した。

モリニゴ大統領ブラジル訪問

モリニゴ大統領は、四月二十八日、外相、内相、ブラジル大使を添同してブラジル訪問の途に就いた。同大統領はリオ・デ・ジャネイロにおいてブラジル政府との間に經濟協定締結交渉を行つた後、ワシントンを訪問する豫定である。

ヴェネズエラとの国境劃定交渉妥結

政府は豫て、ヴェネズエラとの混合委員會に於て、兩國國境劃定交渉を行つてゐたが、四月一日に至り妥結を見、兩國政府は新國境劃定に關する協定に調印を了した。

政府は、今回一九二一年より一九二四年に至る間に生れた壯丁を召集することとなり、國防省は、四月十八日、その旨を公布した。

駐ソ初代公使任命

政府は過般ソヴェトとの國交回復を宣言したが、今回初代駐ソ公使として元駐日公使アルフレド・ミツチエルを起用するに決し、四月三十日、その旨政府から發表された。

ウルグアイ

壯丁召集

政府は、今回一九二一年より一九二四年に至る間に生れた壯丁を召集することとなり、國防省は、四月十八日、その旨を公布した。

エクアドル

農相更迭

大統領アツロヨ・デル・リオは、四月五日、前農相クレスボ・オルドネツの後任として、カルロス・ロコを任命した。更迭の原因は經濟情勢の不安に基くと解される。

コロンビア

メキシコ

カマチヨ大統領訪米

四月二十日、メキシコ北部のモンテレーにおいて、米大統領ルーズベルトの訪問を受けたカマチヨ大統領は、翌二十一日、ルーズベルトと同行して、北上、テキサス

4471

州コーパス・クリスチに赴き、同地の米國海軍航空部隊基地を訪問した。カマチヨは同所においてルーズベルト主催の午餐會に出席、二十日以來のルーズベルトとの會談を終り、四月二十一日午後、歸國の途についた。(ルーズベルト、カマチヨ會談内容は米國外交の部参照)

對米輸出入實情

—生活指數昂騰—

流入は必然的にインフレーションの傾向を助長し、生活指數は一九三四年の八一・六七より現在の一六六・五二に昂騰し、其の結果國內一般民衆の對米反感及び參戰に對する不滿増大の傾向は蔽ひ得ない狀態に陥つた。

カマチヨ大統領國民の不滿慰撫

カマチヨ大統領は、四月二十九日、演説を行ひ、

「今次の戰争は今までのところメキシコ國民の血を流させることはなかつたが、經濟的には重大な困難を生ぜしめた。我々は愛國的決意をもつて團結しこの困難に當面しなければならない。」

物資不足激化

米國の對墨援助中主なもとしては貸與法に基く現在迄の武器援助一千萬弗、輸出入銀行借款として道路建設資金三千萬弗、製錫事業資金六千萬弗、鎌山開發の爲の個人投資少くとも二千萬弗等の外に巨額の浮遊資本の對墨逃避が擧げられる。他方、メキシコは、一九四二年度中に米國に對し、銀八億オンス、銅、亜鉛、鉛、タンクステン、満鐵、螢石、雲母等の殆んど全產額即ち合計五十一萬九千噸の外、綿維ガルバ、豆、マホガニー材、樹脂、油及び大量の食糧品を輸出した。上述の様な理由で弗貨の

—(173)—

4470

壯丁召集

政府は、今回一九二一年より一九二四年に至る間に生れた壯丁を召集することとなり、國防省は、四月十八日、その旨を公布した。

エクアドル

農相更迭

大統領アツロヨ・デル・リオは、四月五日、前農相クレスボ・オルドネツの後任として、カルロス・ロコを任命した。更迭の原因は經濟情勢の不安に基くと解される。

コロンビア

メキシコ

カマチヨ大統領訪米

四月二十日、メキシコ北部のモンテレーにおいて、米大統領ルーズベルトの訪問を受けたカマチヨ大統領は、翌二十一日、ルーズベルトと同行して、北上、テキサス

—(172)—

は殆んど貧乏人の手には入り兼ねる模様である。

内閣一部改造

カマチヨ大統領漸次右傾

カマチヨ大統領はカルデナース大統領時代以来の極左主義を徐々に改めてゐる模様で、極左黨出身の教育大臣ボントンをカトリック保守黨のヴァスクエスと更迭させ、又墨國労働聯盟書記長トレーダーを民主黨のヴェラスケスと交代させたのは、その間の事情を物語る一證左とみられる。尙エクセルシオール紙は、一般輿論を反映してカマチヨの右政策を支持すると共に中庸政策を要望して居る。

駐重慶初代公使着任

初代重慶駐劄公使ビストロールは、四月三十日、重慶に着任したと傳へられる。

キユーバ

ホルダーナ外相は、四月十六日、コロンブスが米大陸を発見して歸船した四百五十周年記念祝典に臨み、スペインの外交政策を闡明して要旨左の如き演説を行つた。
「スペインが莫大な犠牲を拂つて内亂を戦つたのも共産主義の脅威を除去するためであつた。ボルシェヴィズムの魔手の前には戦線も國境もない。赤軍の關心

ホルダーナ外相外交政策開明

パチスタ大統領は、文相マルケス・スター・リングの辭任

に伴う閣僚の更迭を四月一日發表、新文相には現商相アルセルモ・アルビエグロが、又新商相にはリカルド・ブツカリがそれぞれ任命された。文相マルケス・スター・リングは、自由黨から大統領に立候補するため辞任したものである。

スペイン

4478

が戦争のみに注がれてゐる間に恐るべきボルシェヴィズムはその背後につけて着々世界革命の陰謀を進めてゐる。ボルシェヴィキ革命が如何なる戦争の惨禍よりも一層恐るべきものであることを我々は一刻も忘るべきでなく、又、スペインは、共産主義こそ世界平和に對する最大の敵として断乎これに對する戦を續けるであらう。スペインはその獨立と名譽とのためには一戦とも辭しないが、あくまで中立維持政策をもつて進み、更に機會さへあれば世界平和を實現するために積極的協力を惜しまないであらう。」

陸軍異動

(四) 政治犯千六十五名の釋放
(五) 食糧切符制の實施

人口二千六百萬

四月中旬の政府人口統計局の發表によれば、スペインの人口は一九三五年には一千四百六十萬人であつたが、一九四一年には二千六百十萬人に増加したと云はれる。

4472

ホセ・マルチン・プラネー大將

補第八軍管區統監

政府國防態度を強化

政府は、四月上旬の數日間、フランス統領司會の下に、重大閣議を開催、内外の情勢を検討した結果、次の重大決定を行つた。

(一) 海軍基地の強化並に新設
(二) 一九二四年生れの壯丁徵集
(三) 内亂後軍事訓練を受けつゝあつた「臨時將校」の正規軍編入

補第一軍團參謀長

ルイス・ラミレス代將

ホセ・ヒメネス代將

—(175)—

補カナリアス群島司令官

—(176)—

駐英大使歸國

アルバ駐英大使は、四月十七日、ロンドンからリスボン經由、空路マドリードに歸着した。

ポルトガル

サラザール首相演説要旨

サラザール首相が大蔵大臣として葡國國政に參與して以來十五周年に當る四月二十七日、同首相はラジオを通じて、その内治外政に亘る治績を詳述したが、その對外問題に關する部分の要旨は左の通りである。

「今次大戰の勃發當初早くも中立態度を決定したボルトガルは今日迄能く之を堅持して來た。この中立は、國家意識の昂揚とその最高利益に合致するものであり、且つ英葡同盟關係を無視するものではない。

現在の國際關係で、英伯兩國の如く最も親善友好關係にある國家が戰亂の渦中に在るに鑑みて、ボルトガルの對外關係は極めて機微なるものがあるにも拘らず、局部的問題を除いて、一切の諸外國との間に圓滿完全な中立が尊重されてゐることは欣幸とする所である。殊にスペインと共にイベリヤ半島brookを結成してイベリヤ半島に平和を確保し得たことは中立嚴守政策の賜物である。

戰後の世界改造は、各國間の秩序及協調を根本條件とすべきであるのに、交戰諸國の今日迄のこの問題に對する方針は極めて漠然としたものがあるので、この際具體的批判乃至議論は差控ふべきであるが、是迄交戰國側で提倡した戰後世界改造は、(一)強大國の野心達成、(二)武裝狀態の將來に對する繼續、(三)一切の國際問題の解決を専ら經濟的必要にのみよらんとする事等であるが、これは文化と人類の創造的價値を

—(177)—

4475

無視するものであるから同意することが出來ない。又共產主義は人類並に國家を無秩序の狀態に導くものであるから極力之を排撃しなければならない。」

軍事使節團訪米

陸、海、空三軍代表から成る軍事使節團は、米國政府の招聘に應じ、四月九日、リスボン出發、空路米國に向つた。

西阿蘭領總督南阿訪問

西アフリカ葡領總督フレイタス・モーランは、四月上旬來ケープタウンを訪問、南阿聯邦當局と南阿及び葡領アンゴラ、モザンビク兩植民地間の物資交換増加に關し協議を重ねたが、豫定を變更して滞在を數日間長した。

テオタニア駐西公使歸任

歸國中であつたスペイン駐劄ペドロ・テオタニア大使は、四月十三日夜、リスボンからマドリードに歸任した。

ハンソン首相中立堅持を表明

ハンソン首相は、四月四日、飽迄中立を堅持する決意を表明、次の通り述べた。

「獨瑞兩國間の輸送協定について内外に相當議論が出てゐるが、スウェーデン輿論の壓倒的多數はこの問題について依然政府を支持してより、當局としても政策を變更する意圖はない。協定自體だけを引きはなし考へれば必ずしも望ましくないが、同協定の停止に關する要求は拒否する外ない。當局が戰争の渦中に巻き込まれるのを避けようとしてゐるのに對し、全國民は飽迄支持を吝しまないだらうことを確信する。」

首相演説に關する論調

四月五日のスエーデン各紙は、一齊に社説を掲げて、ハ

ソソン首相演説を絶対支持する態度を表明してゐるが、その主なものをあげれば左の通りである。

ノールウエー

「ハンソン首相は『反権輜の尻押しが受ける一握りの新聞や、政治家によつて國家百年の大計をとやかく言はれる必要はない』と明したが、反権輜の笛に踊る戦争挑発者共は、外務省や議會にまで集つてゐる。またハンソン首相が『獨瑞兩國間に締結されて居る仲縫送協定自體は、餘り望ましいものではないが、

同問題はスウェーデン政府の中立堅持方針からのみ出發して解決すべきである』と強調したことは全く正しい。」(ニア・ダグリクト・アレハング紙)

「協定に對する政府今後の態度については、ハンソン首相の言明では、あまりはつきりと言及されてはゐないが、別に驚くにも富らない。かうしたことは一般に先走つて聲明出來ないのが當然である。」(アフトン・チドニンゲン紙)

キスリング首相獨總統訪問

ヴィードクン・キスリング首相は、四月十九日、總統大本營にヒトラー總統を訪問し、長時間にわたり重要會談を遂げ、四月二十四日、空路歸國したが、ヒトラー總統に對し次の謝電を發した。

「余はヒトラー總統の厚意並に總統大本營における意義ある會談を感謝する。全ゲルマン民族は總統の指導下に一致結束、勝利の後に來るべき新歐洲の建設を目指して飽くまで戰爭遂行に邁進するであらう。」

アイル

米國の食糧會議招請に對し出席拒否

デ・ヴァアレラ首相は四月八日、議會に於いて、政府は米國政府から食糧會議出席の正式招請状を接受したが、これを拒否する意向である旨言明した。

フィンランド

強制労働動員

政府は、四月十九日、二十歳から二十五歳に至る全男子の強制労働動員を開始した。體格検査は軍人と同様の線に沿つて行はれてゐるが、ヘルシンキに於ては合格者の率は非常に高く、各階層を通じて九十パーセントを越へてゐる。

ブルガリア

ブルガリア、フィンランド兩國經濟代表は、過般來ソフィアにおいて交渉を重ねてゐたが、四月十九日、兩國間に新通商協定が締結された旨、同日ブルガリヤ政府から發表された。

ルーマニア

對芬新通商協定締結

一、輸出 小麥二六〇、燕麥三五、大麥五一、裸麥一八、玉蜀黍四〇〇、大豆二、

一、生産 小麥二六〇、燕麥三五、大麥五一、裸麥一八、

一、輸出 小麥三〇、燕麥一五、大麥一〇、大豆產額

大部分の仕向先はドイツである。

ブルガリア

ハンガリー

政府は、攝政ニコラス・ホルティ提督がヒトラー總統の

司法當局は曩に國內に於ける共産黨の大檢舉を行つた
が、その結果、四月上旬、正式に裁判に付されたものだけ
でも六百六十四名の多數に上つた。このうち四百八十
名、約七十%まではユダヤ人であり、百四十八名がハン
ガリー人である。

招請に基き、四月十六日、總統大本營を訪問、二日間に
亘り會談を遂げた後、十八日朝、ブダペストに歸還した

旨四月十八日發表した。

カライ首相訪伊

カライ首相は四月一日より三日間イタリアを訪問し、
伊政府首腦部と交歓した後、同三日には法王ビオ十二世
とも會談した。
尚、四月六日ブダペストに歸還したカライ首相は、攝
政ホルティ提督にローマ會談の經緯を報告した後、午後
閣議を開催して委細を説明した。

共産黨大量裁判

エジプト

王族ダウード公權輪障壁に參加

國王フ・アルーク一世は、四月五日、王室令を以て王族
の一員たるマンスール・ダウード公の位階を剝奪した旨
發表した。ダウード公は、去る三月中旬、トルコにある
親戚を訪問するとの理由でカイロを出發したが、トルコ
からローマに赴き、アラビヤ語を以て盛に英國打倒の放
送に從事してゐるため、ファルーク王は今回の措置に出
たものと解される。

エジプト鐵道敷設

全土に戒嚴令

政府は、四月十五日、エジプト、スー丹間の幹線鐵
道を建設するに決定した。先づ上部エジプトのアスワ
ンとスー丹國境のハルファを結ぶ約三百杆の起工に着手
する豫定である。

食糧不足激化

政府は、四月下旬、製パン用穀類並びに大麥の全在荷
を接收する旨發表したが、これら食糧品價格は今後大藏
省によつて決定される筈である。なほ、この結果製パン
用穀類或は大麥の民間賣買契約は全て取消されるもの
とみられる。他方肉類不足も甚だしく、そのため、來
る五月一日より肉無し日が週三回から四回に殖されることとなつた。

トルコ

トルコ、斐印ランド兩國代表は四月四日、アンカラ
に於て兩國間の通商協定に調印を了した。

對芬通商協定調印

ザカイ・オヴェイン將軍を首班とするトルコ軍事使節

シリヤ

軍事使節カイロ訪問

対米通商條約締結

アリ・スヘリ首相は、四月十一日の議會において次の如く言明したといはれる。

「イランと米國政府は最近通商條約を締結したが、兩國政府は更に廣汎な條約の締結交渉を進めてゐる。」

運輸機關を徴用

第二班三十名は、四月六日、ハイファ經由エジプトに向つた。

空軍將校カイロへ出發

英土兩國間の協定に基き空軍將校多數が、英軍の訓練に參加するため、四月十六日夜、アンカラ出發カイロへ向つた。

イラン

真摯暴動再發

四月初旬以來イラン北部各所に暴動が再び勃發、同國駐屯の外國軍隊（米、英、ソ）に依つて八分通り鎮壓せられたが、メシエット、ドズダブ間道には警護の爲増援隊が派遣せられてゐる模様で、これら暴動の主な原因是、依然食料の不足であると傳へられてゐる。

議會は、四月八日の本會議に於て、國內に於ける一切の交通機關を徵用する權限を政府に賦與する法案を可決した。
英軍軍事施設占領
イラン駐屯英國軍司令部は、四月二十一日突如、布告をもつて英國軍によるイラン軍事施設の沒收占領を發表した。右布告は、二十一日ラジオを以てイラン全土に放送されたが、その要旨は左の通りである。

「英國軍に對する襲撃事件並にサボタージュ行爲そ

の他の陰謀事件はその後も依然あとを絶たず、却つて益々增加の傾向にあるので、英駐屯軍當局はイラン政府が既に之等の騒擾事件を鎮壓する能力なきものと認め、イランのあらゆる軍事施設、練兵場その他を沒收した。今後これ等は英國軍により占領されるであらう。更に英國軍は今後暴動不審の人物は容赦なく逮捕するであらう。」

情 報 局

印刷者 内閣印刷局

昭和十八年五月二十三日印刷
昭和十八年五月二十五日發行 (非賣品)

